

第二章 特別教育活動

第一節 学校行事

一 修学旅行

修学旅行の経過

本校の修学旅行は現在、第二学年が三泊四日の日程を費やし、約一年半の積み立てを行って実施している大きな学校行事であり、生徒や保護者の期待も大きい。修学旅行については、修学旅行検討委員会の下、場所や内容、日程の決定を行っている。

本校の修学旅行は平成九年度以来北海道で一泊二日のファームステイという農業体験と観光を取り入れた形で実施しているのが特徴である。

また、平成一四年度には、「ようてい農業協同組合と福井県立福井農林高等学校との間における修学旅行（ファームステイ）に関する協定書」が結ばれ、平成一六年の修学旅行のファームステイ先も、北海道の羊蹄山地区一泊二日となっている。近年では、学校行事の関係や生徒の負担軽減などを考慮し行程を全体で三泊四日としている。また、北海道を旅行先として選んでいるのは、収穫時期が秋口である北海道が、本校の修学旅行期間と重なり、ファームステイが充実するためもある。

すでに一七年目となるが、一一〇周年後の一〇年の実施状況を記したい。

平成一六年 九月二七日～一〇月一日

（ファームステイ 九月二八日～九月二九日）

ニセコ地区（JAようてい主催）

平成一七年 九月二六日～九月三〇日

（ファームステイ 九月二七日～九月二八日）

上川町・愛別町・鷹栖町（各町役場主催）

平成一八年 九月二五日～九月二九日

（ファームステイ 九月二七日～九月二八日）

ニセコ地区（JAようてい主催）

○この年まで上川地区、ニセコ地区の行政や農協のお世話で各地区隔年実施した。

平成一九年 九月二五日～九月二八日

（ファームステイ 九月二五日～九月二六日）

千歳地区（千歳観光連盟主催）

○二四日（月）が振替休日であり、休業日の旅行は禁止との県教委の指導により三泊四日で実施

平成二〇年 六月三〇日～七月四日

（ファームステイ 六月三〇日～七月一日）

千歳・長沼地区（千歳観光連盟・長沼グリーンツーリズム主催）

○九月下旬が飛び石連休で実施困難となり、七月上旬に変更。
平成二二年 六月二九日～七月二日

（ファームステイ 六月二九日～六月三〇日）

空知地区（そらちDEい〜ね）農業・自然体験主催

○この年以降三泊四日実施になる。

平成二三年 六月二八日～七月一日

(ファームステイ 六月二八日～六月二九日)

千歳・長沼地区(千歳観光連盟・長沼グリーンツーリズム主催)

平成二三年 九月二七日～九月三〇日

(ファームステイ 九月二七日～九月二八日)

空知地区(㈱スポーツピア主催)

○九月下旬の週に祝日が入らなくなったので従来通り九月実施に戻る。

平成二四年 九月二五日～九月二八日

(ファームステイ 九月二五日～九月二六日)

空知地区(㈱スポーツピア主催)

このように少しずつ形を変えながらもファームステイが続けられているが、平成一九年頃から、現地のNPO法人のお世話でファームステイを行うという形に変わってきた。このことにより、道央でのステイが可能となり、日程の短縮が出来るようになった。現在の形の出発点となった平成二二年当時の検討の過程である。

検討の課程

四泊五日で実施されていた修学旅行だが、期間短縮の検討が必要となっていた。まず、旅行費用の心配があげられる。本校は、旅行代金として一三万円徴収しているので、これ以上生徒に負担をかけるべきではないという考えがあった。平成二〇年度の代金は集金額との差額が一人当たり数百円だった。燃油サーチャージの変動もあり、今後予算内での実施ができるかが心配になった。また、生徒にとって印象に

残る羊蹄山付近と上川地区で行われていたファームステイは、議定書の更新がなされず地域の協力体制が弱くなり、関連団体からの補助もなくなり旅行代金に占める割合も大きなものになっていた。そこで、グリーンツーリズムで若者に地域農業体験をという世の中の流れにのり、学校側の意義やねらいを受け入れ農家に伝え実施当初からの取り組みから変化させたことで、交通の便の良い場所を落とさずファームステイを実施して、一泊短縮する計画を立てることができた。他にも不参加生徒の増加への対応、修学旅行の休日移動が認められずそれにともなう日程の変更・調整の困難さからも期間短縮の方向にすすんだ。

二一年度は、一泊短縮と大きな変化があったので、例年にも増してよりよい修学旅行になるように、農業関連の大学での見学体験、夜ライトアップされる施設での自由行動など、学年会で案を出し新たな内容を加え実施した。

現在は新たな課題が生じてきている。それはグリーンツーリズムの隆盛で北海道でのファームステイを行う中学・高校が増えてステイ先の確保が困難になってきていることである。この解決のためには早期のステイ先決定しかなないのであるが、そのためには従来の学年会主導の企画から修学旅行委員会主導の企画に変わっていくことが必要になるのだろう。

修学旅行のねらい

- 1 本校で学んでいることをファームステイのなかで生かし、農業高校生として農業のあり方を考える。
- 2 北海道の気候、風土、文化や生活習慣について学ぶ。
- 3 共同生活を通して友情を深め、規律・秩序の大切さを学ぶ。

事前学習・事後学習

修学旅行のねらいを達成させるには事前学習が重要であると考え、
 二年生になってから直ぐに生徒実行委員会を組織した。各クラスから
 数名の実行委員を選出し、事前活動でクラスごとの発表などを放課後
 や日Rの時間を利用して活動に取り組んだ。事後学習では、修学旅行文
 集や農文祭での修学旅行展示会のために特別時間割を利用し、各クラ
 スの委員を中心に取り組んだ。

以下 平成二四年度の活動状況である。

〈事前学習Ⅰ〉

クラスごとに、北海道の特色について班ごとに分かれて調べる。

〈事前学習Ⅱ〉

学年全体の場で、北海道の特色についての発表を行う。

〈事前学習Ⅲ〉

小樽班別行動計画。

〈事後学習Ⅰ〉

受け入れ農家の家族への礼状作成。

〈事後学習Ⅱ〉

修学旅行記念文集作成。

〈事後学習Ⅲ〉

修学旅行展示企画

農文祭での修学旅行展の展示

修学旅行記念文集発行

2012 修学旅行 旅程表

日次	行 程	宿泊地
1日目	福井農林高校 6:30 — 福井北IC — 中部国際空港 10:30 12:00発 ANA707便	ファーム ステイ
9/25 【火】	新千歳空港 13:50着 14:30 空知地区(入村式) 15:30~16:40	
2日目	ファームステイ 農家(退村式) 15:30頃発 夕張体験(工:ダム、物生流:夕張石炭の歴史村) 16:30~17:30	夕張 ホテル マウント レースイ
9/26 【水】	ホテル(泊) 18:30頃着	
3日目	ホテル 8:00発 — ラフティング体験 9:15 11:45 レストハウス思い出のふらの(昼食) 12:40 13:30発	札幌 ノホテル 札幌
9/27 【木】	旭山動物園 14:20 16:20 — サッポロファクトリー(夕食) 18:50 20:10 車窓(旧道庁・時計台) — ホテル(泊) 21:00着	
4日目	ホテル 8:00発 — 小樽班別研修 9:15 11:45発 13:00 14:30発 ANA66 ANA757	学校
9/28 【金】	羽田空港 16:05 18:00 — 小松空港 19:00 19:30 20:20 (福井駅東口) 20:40頃着	

平成三三年度 修学旅行日記 二〇一二蒼林より

二年 環境工学科 今村 皇太

第一日目 九月二十七日(火)

修学旅行のメインはやはり、一日目のファームステイだと思いません。私は出発前の福井にいたときから、楽しみに仕方ありませんでした。しかし、北海道までの移動疲れで、ファームステイへの期待が薄れてきましたが、ファームステイ先の定田さんの元気な姿をみて、私もちまちま元気がみなぎってきました。ファームステイでは、コンバインに乗せていただくことができ、稲の収穫後の草で肥料を作るお手伝いをさせていただきました。また、採れたてのトマトや産みたての鶏の卵など新鮮でおいしい食べ物とたくさんいただきました。北海道の食べ物美味しいのは、寒暖の差の激しい地方ならではの農業が確立されているからだと感じました。定田家の方々は、私たちに対して本当の家族のように接してくださいました。感謝の気持ちで一杯です。私がファームステイをするのも今回が最初で最後だと思います。本当に良い思い出ができました。

第二日目 九月二十八日(水)

二年 生物生産科 高橋 俊哉

今日の朝は、ファームステイ先でお手伝いをしました。作業内容は、廃カボチャ集めとカボチャ畑のマルチ拾いでした。昼ご飯は、オムライスを頂き、そこから涙のお別れをしました。たった一日だったけれど、この一日でもすごい数の経験と思い出を作ることができました。浅川さんには本当に感謝です。その後、旭山動物園に行きました。動物園は、小学校以来で、なんかワクワクしました。猛獣館にクロヒョウがいてめっちゃ興奮しました。あと、フラミン

ゴの所に行ったら、なんか鳴き始めて変な交信をはじめたので、めっちゃ怖くて帰りました(笑)

とにかく今日は思い出がたくさんできました。

第三日目 九月二十九日(木)

二年 生活科学科 小鍛冶 望

今日は午前中にラフティングを体験しました。やる前までは寒そうだなと思っていまませんでした。でもいざやってみると、ものすごく楽しかったです。ラフティングのガイドさんが川を下る時に木や動物などの説明を混ぜながら教えて下さってすごく勉強になりました。流れが急なところではみんなで協力して進んで行き、とても楽しかったです。水は冷たかったけれど、川がとてもキレイで北海道っぽい体験ができてとても楽しかったです。またやりたいと思いました。白い恋人パークではいろいろなものを見ました。建物が外国のものみたいで、違う国に来ている気がしました。ホテルはとてもキレイな場所で驚きました。

第四日目 九月三十日(金)

二年 生産流通科 加藤 万依

今日は班別研修がありました。最終日なのに朝から雨が降っていて、気分がげんなりしましたが、自由行動の時は、雨も弱くなり、ぬれずにすみよかったです。小樽はかわいいお店がたくさんあって、とてもおみやげを買うのに迷ってしまいました。ガラスのお店や菓子のお店がある間に市場のように魚や貝を売っていることに驚きました。途中で夕張メロンのソフトクリームを食べました。とてもおいしかったです。自由行動が終わり、バスで空港まで行く時間は



とても短くて初日の不安だった時を思い出しました。北海道は初め嫌だと思っただけど、四日間でたくさん北海道の良いところを知ることができて楽しかったし、もっとゆっくり回りたいと思いました

時刻	1日目の日程	
8:40	学校出発 (貸切バス3台)	
10:00	奥越高原青少年自然の家到着	
10:30	入所式とオリエンテーション	
11:30	玄関前集合 (点呼)、諸注意	
	1物・1流 「演習林体験実習」 奥越高原青少年自然の家出発 ↓ [徒歩 約30分] 実習場所到着 (点呼) 昼食 演習林体験実習 (除伐・枝打ち・間伐) 実習場所出発 (点呼) ↓ [徒歩 約30分] 奥越高原青少年自然の家到着	1工・1生 「保月山登山」 奥越高原青少年自然の家出発 ↓ [登山 約50分] 展望台、昼食休憩 ↓ [登山 約50分] 保月山山頂 (標高 1,272m) ↓ [下山 約40分] 展望台、休憩 ↓ [下山 約40分] 奥越高原青少年自然の家到着
	【豪雨時】 福井県自然保護センター ・プラネタリアム ・ネイチャーシアター ・展示クイズ	【雨天時】 クラブづくり ・紙かご ・ロープワーク
16:00	玄関前集合 (点呼)、諸連絡	
16:30	入浴、夕食	
19:00	研修会	
21:00	就寝準備、班長会議	
22:00	点呼	
22:30	消灯、就寝	
時刻	2日目の日程	
6:00	起床、洗面、更衣、荷物の整理、シーツと枕カバーの返却、部屋掃除	
6:30	荷物の移動	
6:50	部屋点検	
7:30	朝食	
8:30	玄関前集合 (点呼)、諸注意	
	1物・1流 「保月山登山」 奥越高原青少年自然の家出発 ↓ [登山 約50分] 展望台、休憩 ↓ [登山 約50分] 保月山山頂 (標高 1,272m) ↓ [下山 約40分] 展望台、昼食休憩 ↓ [下山 約40分] 奥越高原青少年自然の家到着	1工・1生 「演習林体験実習」 奥越高原青少年自然の家出発 ↓ [徒歩 約30分] 実習場所到着 (点呼) 演習林体験実習 (除伐・枝打ち・間伐) 実習場所出発 (点呼) ↓ [徒歩 約30分] 奥越高原青少年自然の家到着
	【雨天時】 クラブづくり ・紙かご ・ロープワーク	【豪雨時】 福井県自然保護センター ・プラネタリアム ・ネイチャーシアター ・展示クイズ
13:00	玄関前集合 (点呼)、諸連絡、更衣	
13:30	退所式	
14:00	奥越高原青少年自然の家出発 (貸切バス3台)	
15:20	学校到着	
15:30	S T	

毎年、三年生の遠足や二年生の修学旅行の期間に合わせて、一年生全員参加の演習林宿泊体験実習を実施している。平成二四年も「面積一三〇ヘクタールの広大な演習林での諸活動を通して、自然に親しみそれを体感することにより、自然を愛し、環境を保全する豊かな心を育む」「自然の雄大さや厳しさを味わいながら保月山の山頂を目指し、森林浴によるリラクゼーションと心身の鍛錬を図る」「集団活動を通し、好ましい人間関係を深め、ふれあいと規律のある学級・学年をつくる」の三つを目的として、九月二五日から九月二六日まで奥越高原青少年自然の家を利用して一泊二日で行われた。

二 演習林宿泊体験実習

勝山市池ヶ原にある演習林は、大正三年四月に福井県知事と平泉寺村長との間で契約を交わし、本校の演習林として借りることになった。契約期間は一一〇年間で、平成三五年まで借りることになっている。環境工学科では、林業など学科の専門分野に関わる技術の習得を目的に、毎年二泊三日で一年生から三年生まで段階的に専門性を深めている。林業関係学科の生徒だけではなく本校に学ぶ全ての生徒が在学中に一度は学校の山を訪れ、国土保全に果たしている山の働きの一端を体験することは重要なことであると考え、昭和六二年より一年生全員参加の演習林実習が行われるようになった。平成一六年から平成二三年までの実施状況は次の通りである。



私のクラスは、初日に雨が降って登山が中止になってしまったので、二日目に行った演習林について書きます。

私は友達と二人で曲がった木を一本倒したのですが、なかなか切り落とすことができませんでした。細い木だったので一五分くらいかかり、切った後をみると、木はたくさん水分を含んでいて、木の皮が重く感じられました。また、年輪を数えてみると、一八だったのでたくさん生きているんだと思いました。この日は、風が吹いていたので枝打ちしているとき、木のくずが目に入って痛かったです。でも、木を上手く切れなくても、木を倒せたときはとてもうれしかったです。今回の枝打ちでは、幹から少し離れた所で切ってしまったので、幹に沿って切れるようになりたいと思いました。

次に私は下刈りも行いました。つるが木を隠してしまうほど、たくさん伸びていて、木に日光が当たらなかったので、つるを切ってみました。そうすると、明るくなったので、下刈りすることも重要なんだと思いました。今回の演習林で森の手入れの必要性を実感しました。

最後に、演習林はこの学校でないと出来なかった体験なので、入学してよかったと思っています。普段出来ない木を切ることで、皆さんの自然とふれあうことが出来て本当によかったです。演習林は最初で最後なのでいい思い出として残しておきたいと思っています。

■平成一七年度 九月二九日～九月三〇日

- ・一日目 演習林実習、保月山登山
- ・二日目 保月山登山、演習林実習
- ・感想文 一物 尾田 侑子（蒼林五二号より）
- 一泊二日の初めての演習林。二日間間にたくさんの事がありました

■平成一六年度 九月三〇日～一〇月一日

- ・一日目 演習林実習、工芸品作りと自然保護センター見学(雨天)
- ・二日目 保月山登山、演習林実習
- ・感想文 一生 玄正 法子（蒼林五二号より）

した。一日目は、生物生産科と生産流通科は演習林実習、環境工学科と生活科学科は登山をしました。

私のクラスは、初日に演習林実習をしました。実習を行う場所は、宿泊した場所からかなりの距離を歩いたところでした。最初は普通の道だったけれど、途中から砂利道になり、だんだん足が疲れてきました。目的地に着いて、少しの間休憩しました。体験実習が始まると、なかなか切れない木があったけれど、皆がんばっていました。木が沢山ある中で、スギ以外の木を切ったり、邪魔な木の枝を切ったりして、とても大変でした。それでも、皆汗をかいて作業を続けているので、キラキラ輝いているように見えました。木を切っていて、木の皮が綺麗にむけたこととても感動しました。その部分にさわると、木に染み込んでいた水分が出てきて、つるつるとした感触がしました。下山し、ようやく自然の家に着きました。その後に入浴をして、夕食を食べた後に、キャンプファイアーをしました。それぞれのクラスが、楽しいゲームや出し物を行い、クラスで協力して楽しいキャンプファイアーにっていました。そして、一日目が終わりました。

二日目は、登山を行いました。とても天気良くて、山登りをするには最高でした。しかし山に入り登っていくにつれて、足場の悪いところがあり登りにくくなってきました。山を登っていくにつれて、傾斜が急になり手を使いながら登りました。天気が良かったので、軍手をはめると手が暑かったです。それから、登山の前に熊と会わないための鈴をもらいました。しかし、かばんに付けておいてもあまり鈴の音はしませんでした。途中、熊には会いませんでした。頂上に着くと、景色がとてもきれいだと思います。そして、友達とお昼ご飯を食べてから下山しました。下山するほうが楽だったけ

れど、滑りやすいところがたくさんあって、何度も滑りました。登山は無事に終わりました。しかし、とても疲れしました。演習林を終えて、普段は体験できない事ができてとても良かったです。辛い事、楽しい事があったけれど、この二日間で学んだことを大切にしたいと思います。



■平成一八年度 九月二八日～九月二九日

- ・一日目 演習林実習、保月山登山
- ・二日目 保月山登山、演習林実習

・感想文 一流 大田桃子・菅原捺未・宮本貴子(蒼林五四号より)
演習林実習は今でこそいい思い出ですが、当初は疲れて大変だったという記憶しかありません。というか、演習林実習そのものの思い出よりも、他のくだらない出来事の方が印象深く残っている訳なのですが…。一日目は枝打ちをしました。枝打ちは初めてではなかったのですが、傾斜地で、しかも雨で濡れた石や丸太はとても滑り

やすく、転ばないよう気を配ってばかりでなかなかうまくいきませんでした。二日目は三角山へ、ハイキングとは名ばかりの崖登りをしました。これは本当にしんどかったです。頂上へ着く前はなおのこと、下りるときは既に自分の体力の限界を超え、思い出すのとはばかられる奇怪な言動ばかりしていました。それでも、引率者の方が私の頑張りの糧となり、一番乗りで帰ることが出来ました。実習のことは本当にこれくらいしか思い出せず、逆に実習以外の出来事が深く印象に残っています。これはいけないことなのかもしれないんですが、何より私はこの二日間、友達と一緒に笑いながらふざけあい、時には支え合って過ごした時間にこそ、大切なことを学んだ気がします。演習林実習、友と過ごした時間が一番勉強になりました。

Letsら登山！！約三キロメートルの保月山を登りました。ある意味サバイバルですね。だって熊とか蛇とか蜂が出るって注意していましたし…。命懸けですよ。生命の危機です。まず保月山のふもとまでの坂、どれだけ長いんだと思いました。「これはもう山に登っているだろう」と心でブツブツと言っていました。ある意味で足羽山ですかとツツコミたくなる程です。さて、やつとふもとに着いたと思ったら、これ登れるんですかと疑問系。今まで山Ⅱ坂のような所と思っていたのが、全然違いました。見た目が獣道！中も獣道でした。もういびつな木の根やら、大きさがバラバラの石。というより岩？とりあえず足だけでは登れません。手だって使いますよ。まあこんな感じで頂上まで目指します。そして頂上まで登りきったら、下りて展望台を目指します。弁当が私を待っている！！という感じで下りていきます。登るのも大変ですが、下りるのも大変です。調子に乗って下りると滑って転びますよ。後は危険な生物に出会っ

てしまったり…。まあなんだかんだ言いながらも、無事に登山して下山できました。

疲れました。本当に。だって、山登ったんですよ。いや、あれは山じゃないです。もう崖です。はじめの方、過呼吸状態で、終わってました。一応ちゃんと生きて帰ってこれましたよ。がんばりました。もう体験したくないです。山を登った意味が分かりません。確か、精神力と忍耐力を養って人間性を高めるとか何とか言っていました。実習は木を切りました。なんか、ノコギリ的なもので。名前忘れました。とにかく切ったんです。切るの疲れました。腕、痛かったです。あの登るときと下りるときも、疲れました。坂ばかりでいやになります、あれ。実習場所に行くまでに疲れるってこういうことですかね。もういやです。演習林実習の感想らしいですが、いやとか疲れたとかしか書いてませんね。実際それ以外書くことないですから。他に書くなら、もう演習林実習はしたくないです。

■平成一九年度 九月二五日〜九月二六日

・一日目 演習林実習、保月山登山
・二日目 保月山登山、演習林実習

・感想文 一物 加藤 絵里菜（蒼林五五号より）

演習林。初めての友達と初めてのお泊まり。修学旅行のような気分。山に登ることに抵抗を感じつつも、逸る心はおさえきれなかった。ストレスで体調をくずしていたので、無理かもしれないと思っていた。でも、熱も下がって行くことができた。お母さんも、「ヤバイと思ったら、電話して」と言ってくれたし。

当日、バスに酔うことはなかった。その分騒がしかったと思うけれど。一日目は、演習林。ヘルメットと鋸を持って山の中へ入って行く。枝は痛いし、木は堅いので大変だった。山に登るのも下るのも大変だったけれど、話をしながらで楽しかった。夕食もおいしかったし。夜は、霊(?)が出て大変だった。あまり眠れなかった。二日目は、登山。一日目より大変なのは気のせいかな。お昼も、あまりおいしいものではなかったし。帰りのバスの中も楽しかった。この演習林で私は何を学んだのか？

友達とは、仲良くなったと思う。あと、演習林は大変。工学じゃなくて良かった(笑)。けっこう大変で、つらかったけれど楽しかった。こういう経験がどこで生かされるのかは分からないけれど、どこかで生きたいと思った。



■平成二〇年度 九月二五〜九月二六日

- ・一日目 演習林実習、保月山登山
- ・二日目 恐竜博物館見学(雨天)
- ・感想文 一流 谷口 遥香(蒼林五六号より)

一日目は、農林の山へ行き、木や枝打ちをしました。とても山が急で作業するのも大変なぐらいでした。山の作業をするのは命がけのことなんだと初めて実感しました。今地球は、森が消えていっています。森が消えていくのは簡単なことだけれど、なくなってしまうものを元に戻すのは時間もかかるし、命がけで戻さないといけないんじゃないと思いました。人間がしてしまったことは人間が戻さないといけないということも作業をしながら実感できました。

■平成二二年度 一〇月一日〜一〇月二日

- ・一日目 演習林実習、保月山登山
- ・二日目 保月山登山、演習林実習
- ・感想文 一生 強力 麻優(蒼林五七号より)

私は今回初めて演習林に行つて、とても大切な事を学んできたと思います。

なぜかという、最初は登山をして疲れるし大変だと思つたけれど、昼食をとつた場所から見えた景色はとても壮大なものでした。山に登つてこそその景色だつたと思います。二日目には、演習林実習をする予定でした。あいにくの雨でしたが、山沿いの道をずっと前日の登山での筋肉痛で重くなった足を動かし続けました。結局、登つただけで何もなかったけど、森林の外より中の方が森のかおりがして空気がキレイに感じました。植物ならではの光合成をしているのだろうかと感動しました。

このように地球にとって必要なものはやはり緑だと思いました。私たちが行った森林は人工のものなので、いつか私も木の苗を育てて、どこかに植えてあげたいと思いました。



■平成二三年度 九月二十九日～九月三十日

・一日目 演習林実習、保月山登山

・二日目 保月山登山、演習林実習

・感想文 一工 飯塚 勇樹（蒼林五八号より）

今回の演習林は一学年全員で行く最初で最後の演習林でした。内容がとても濃い二日間でした。みんなとの仲も深まりとても良い思い出となりました。

一日目、バスを降り最初に発した言葉は「この空気おいしい」でした。周囲が自然に囲まれているだけあって、その空気はとても澄んでいてとてもおいしかったです。僕たちは一日目、保月山へ登山に行きました。とても長い道なのでケガをする危険性があるの

でとても不安でしたが、注意をはらって何とかケガをせずに登る事ができました。後半になってからは体力も減少し、気力も減少していました。しかし、そこで最後まで下り続けることができたのは友人のおかげです。上っている時も昼食を食べている時も下っている時も友人がいてくれたからこそ楽しい登山になったのだと思います。この登山では改めて仲間の大切さを知る事ができました。

この日の夜にはキャンプファイアーもありました。僕は実行委員でいろいろな準備をしました。本番では思っていた以上の盛り上がりで実行委員をしていて良かったなと思いました。何かを人の為にし、その人達が喜んでくれたり楽しんでもくれたりする事は気持ちの良いことだなと思いました。

二日目、僕たちは演習林まで行って枝打ちや間伐をしました。この実習はとても楽しみにしていました。木を人の手で切るのとはとても疲れましたが、この作業も仲間と協力してすることができました。この二日間で、仲間と協力して何かをするという大切さを改めて思い知らされました。とても思い出に残った二日間でした。

■平成二三年度 九月二十八日～九月二十九日

・一日目 演習林実習、保月山登山

・二日目 保月山登山、演習林実習

・感想文 一工 藤田 智嗣（蒼林五九号より）

一日目は、保月山の山頂まで登山しました。山道はすごく険しくて、山頂まで行くのはとても大変で、すごく疲れました。登山の途中で少し曇がかってきたけれど、最後まで雨も降らず無事終えることが出来て良かったと思います。夜には、研修会をしました。先生クイズ、伝言ゲーム、借物競走、背中渡りをしました。とても楽し

かったです。少しふざけ過ぎた所もあったと思うけど、クラス間での仲などがさらに良くなったので良かったです。

二日目には、間伐・除伐という、木を切り倒したりする作業をしました。のこぎりを使ってみんなと協力しながら一本の木を倒したのになかなか倒れなくて、一本しか切り倒すことができなかったけれど、倒した時の「メキメキ」という音はすごく気持ち良くて達成感がありました。その木の中に空洞があって、中を見たらハチの巣とハチの子があったのでビックリしました。それを見て、生き物は自然や他の生き物たちと支え合いながら生きているということに改めて実感することができました。

二日間の演習林宿泊体験実習を通して、目的である自然を愛し環境を保全する豊かな心が育めたと思います。この二日間で学んだ事を生かしてこれからも自然を大切にしていきたいです。



三 体 育 祭

この時期は毎年のことながら天気にも悩まされる。酷暑で熱中症の心配をしなければならぬ年も多い。実習で暑さには慣れている生徒が多い本校ではあるが、さすがにこれだけ異常気象という言葉が取りざたされる現代、平成二一年以降は色毎に休憩用テントを設置し、塩飴も準備するようになった。また、台風にも悩まされる年も多い。平成一八年は途中で雨が降り出したため、翌々日に半分の競技が持ち越された。また、平成二五年度は予め延期となり、学校中あちこちにてる坊主が飾られる事態となった。

それでも、生徒は常に全力投球で、体育祭における本校生徒の姿は他の行事以上に非常に頼もしい。本校教育の集大成といえる生徒の姿が見られる。準備・運営・後始末まで一丸となって取り組み、それぞれが責任を負うべき場所において短時間で集中して行っている。特に後始末の良さは必見で、環境工学科が設置した壁画用の足場を手分けして解体し運搬していく様子はそれぞれ専門家のようなものである。

内容としては平成二二年度からは応援が、応援団だけでなく全員参加型となった。その分応援団は自分たちの練習だけでなく、色メンバー総勢一〇人以上をどのような隊形で配置し、どのように動かすか考えなければいけない分、負担は増えたが、色全体の一体感は増し、部門を超えた結束力が高まったように思う。パネルを使ったり、傘を使ったり、毎年色毎に工夫が施され応援のレベルアップがみられる。また翌平成二三年度からはその応援の中にみこしを使用することもルー化され、より賑やかなものとなった。さらに衣装部門も大変ながら、応援・集団演技総勢五〇名ほどに衣装を提供し続けている。生活科の先生方にご負担をおかけしているが、毎年体育祭に彩りを添えて



いるのは間違いない。形態は少しずつ変わってはいるが、本校の体育祭は生徒が躍動する、どの学校にも誇れる体育祭になっているといえよう。

最後に責任者となった生徒たちの感想、プログラム・テーマ・成績を掲載し過去一〇年間の軌跡をたどりたい。

2004年 第52回

テーマ		1位	2位
青組	青春～羽ばたけ青色魂～	総合	青白
黄組	黄巾の乱	応援	青白
赤組	華～百花繚乱～	集団演技	白青
白組	白虎	壁画	赤青
		みこし	青白
		衣装	赤白

集団演技

青春してます

三物 谷本 沙耶香

「お願いします！」の私のかげ声で約七分間の演技が始まりました。

夏休みに入っすぐ集団演技の三年は踊りや曲を決めようと集まりました。けれど何回集まってもなかなか決まらなくて、私は不安でたまりませんでした。でも何とか曲も決まり踊りを考える時が来ました。時間が無かったので、男子と女子に分かれて考えることにしました。

全校登校日の日、まだ踊りが全部完成する前にメンバーの顔合わせをしました。私はいさつで「これから一緒に頑張ってい

午前部		午後部	
1	100M走	11	集団演技
2	借り人借り物競争	12	大縄跳び
3	まわってまわって	13	つな取り
4	大旗リレー	14	綱引き決勝
5	デカパンリレー	15	大玉送り
6	障害物リレー	16	総力リレー
7	飲み食いリレー		
8	綱引き予選		
9	色別R		
10	応援合戦		

きましよう。」と笑顔で言った裏には正直、完成させる自信が無くて不安でいっぱいでした。けれど、何とか完成し、毎日練習に励みました。一、二年生も一生懸命踊りを覚えてくれて、練習のし過ぎでひざや足首を痛めるくらいでした。

七分間は本当に短いもので、気づいた時にはもう最後の曲でした。楽しさが寂しさに変わっていくのが分かりますが最後まで笑顔をたやませませんでした。最後みんな「青春してます!!」と言った時、涙が出そうでした。私は本当にこのメンバーに出会えて、幸せだと感じたからです。本当に素晴らしい青春をありがとう♡

2005年 第53回

テーマ		1位	2位
青組	はれでんせつ 晴伝説『青い海を越えて』	総合	白 黄・赤
黄組	はじけろ!!黄軍!CCレモン	応援	白 青
赤組	紅龍神 烈火の如く	集団演技	赤 黄
白組	ひやっ 花 さい ほう 放	壁画	白 黄
		みこし	白 青
		衣装	白 黄
		競技	赤 青

総合優勝 白組

白黒ハッキリつけました☆

三生 駒野 郁穂

九月六日。今年の体育祭は私達にとって一生忘れられない思い出となった。

私は今年、白組の組長を務めることになり、去年果たすことの出来なかった優勝を今年は果たして見せるという強い気持ちでいっぱいだった。けれど、想像以上にみんなをまとめるというのは難しく、悩むこともたくさんあった。各部門のリーダーもそれぞれいろんな思いがあったと思う。しかし、準備が進むにつれ、学年という壁も消えていき一つにまとまり始めた。体育祭当日。競技は四位という成績だったけれど、

午 前		午 後	
1	大旗リレー	11	集団演技
2	大縄跳び(女子)	12	綱取り
3	借り人借り物競争	13	ビーチフラッグ(男子)
4	綱引き予選	14	綱引き決勝
5	障害物リレー	15	総力リレー
6	百足リレー		
7	騎馬戦		
8	仮装リレー		
9	色別リレー		
10	応援合戦		

応援・衣装・壁画・みこしの部門で白組が一位をとり、総合優勝という大きな結果を残した。本当に夢のようで涙が止まらなかった。私は組長としてはふさわしくなかったかもしれないけれど、最後までみんなの支えがあったからこそここまで頑張れた!!本当にありがとうございました!!最後に三生に

ついてきてくれた後輩達☆本当に一物一工でよかった☆二物は頼りになる!!一工は元気をくれる!!そして何より若さをくれました!!(笑)来年も負けないぐらい最高の体育祭にして下さい。☆☆☆:三生。本当にこのメンバーで学生最後の体育祭を迎えることができて幸せです!!ありがとう♡白組組長ことふみ長より😊

2006年 第54回

テーマ		1位	2位
青組	~SAMURAI BLUE~ 青嵐のごとく	総合	黄 青
赤組	NIGHT OF FIRE	応援	黄 白
黄組	ひかり 輝 ~NEW YELLOW~	集団演技	黄 白
白組	白龍~ホワイトドラゴン~	壁画	青 黄
		みこし	青 黄
		衣装	黄 白
		競技	青 黄

集団演技 青組

最高学年の辛さ

三物 竹内 健太

今年も、体育祭の季節がやってきた。今年には最高学年で全体を仕切る立場になり、昨年までとは違い、大変な体育祭の幕開けとなった。

僕は、三年間集団演技を務め、今年は、団長をすることになった。三物の中から自分以外の七名が集まり、計八名が今年の最高学年の集団演技のメンバーである。今回は、女性の割合が多く、仕切るのが大変だった反面、後輩の面倒見が良くでき、とても助かった。感謝したい。練習が始まって、踊りに踊り、時にはもめて、ばらばらになってしまいうこともあつ

九 月 六 日		八 日	
1	まわってまわって	1	集団演技
2	借り人借り物競争	2	障害物リレー
3	6人7脚	3	つな取り(混合)
4	100m走	4	騎馬戦(女子) 3位決定・決勝
5	綱引き予選	5	色別リレー
6	飲み食いリレー	6	ビーチフラッグ(男子)
7	騎馬戦(女子)	7	応援合戦
		8	綱引き
		9	総力リレー

た。

その時、僕は、昨年、一昨年の先輩たちのことを思い出した。その頃の三年生も、今の僕らのように苦戦していたのだろう。部活同様、全学年をまとめるのには『力』がある。学年の中でも、一番やっかいだったのが一年生である。一年生にとっては初めての学年全体の行事、体育祭ということもあってか、二年生に比べ、やや緊張気味のように思えた。僕ら三年がいっぱいっばいで体育祭前日まで上手くまとまらず、あせりあせりの中、本番を迎えた。なんとか無事演技を終えることができた。いろいろあって大変だったが、今思うと一番自身の濃い「思い出」となった。

2007年 第55回

テーマ		1位	2位
青組	カリビアンブルー ～ひとつになろうぜ my family～	総合 赤	青
白組	びやっこたいせい 白虎大勢 白き虎のように大きく勢いよく	応援 赤	黄
赤組	千紫万紅 ～咲き誇れ 大凜のごとく～	集団演技 青	黄
黄組	the glare of the sun ～太陽に吠えろ黄組魂～	壁画 黄	白
		みこし 青	赤
		衣装 黄	赤
		競技 赤	青

衣装 赤組

みんなで感動を共有した日

三生 平井 志乃

私は三年間、衣装の担当をしてきました。まさか今回責任者に抜擢されるとは思いませんでした。リーダーシップをとることが苦手な私は洪々といった感じで引き受けました。

夏休みに入ってすぐに作業に取り掛かりましたが、同じ衣装担当の人たちにもそれぞれ都合があり、集まりが悪かったため、思うように進みませんでした。責任者である私は、応援団・集演の代表者と衣装のデザインを考えたり、布の買い出しに行ったりしていました。

八月に入ってから本格的な作業に入った

午 前		午 後	
1	100m走	11	集団演技
2	でかばんりレー	12	仮装リレー
3	借り人借り物競争	13	ビーチフラッグ
4	綱引き (予選)	14	綱引き (決勝)
5	飲み食い競争	15	総力リレー
6	騎馬戦		
7	色別りレー		
8	綱取り (混合)		
9	障害物リレー		
10	応援合戦		

ので、七月以上に慌ただしくなりました。全校登校日から一、二年生も加わり、全員で協力しながら着々と仕上げていったものの、サイズが合わないなどのハプニングも起こり、結局は体育祭当日の開会式ギリギリまで作業しました。

応援・集演ともに、みんな似合っていました。すごく格好良かったです。結果は赤組優勝、衣装部門も準優勝を頂くことができました。私の高校生活の中で一番の思い出となりました。

夏休み、毎日のように学校へ行き、衣装作りをした甲斐がありました。部門が違うのに協力してくれた応援団・集演のみんな、そして責任者の私以上に頑張ってくれた衣装担当のみんな、本当にありがとう!!

2008年 第56回

テーマ		1位	2位
黄組	大夏祭 ～歌舞くなら 華舞黄とおせ～	総合 黄	青
青組	High Wave ～105仔苧 福農青波～	応援 青	白
赤組	クローズ the red ～赤で始まり、赤で終わる～	集団演技 黄	赤
白組	白 舞 ～絆深き戦士たち～	壁画 黄	白
		みこし 黄	赤
		衣装 赤	白
		競技 青	黄

衣装 黄組

衣装部門長になって

三物 市波 彩沙姫

三年間で一番最後の夏休み……。それは一番大変な夏でした。思いがけず衣装の部門長に選ばれてしまい、しかも一、二年生のメンバーはあまりやる気のなさそうな子たち……。もちろん、ちゃんとやる気のある子もいましたよ!。正直言って、間に合うかどうか不安でした。五〇人弱の衣装を一度に作るなんて初めてのことで、布の量とかデザインとか、全てが手探りでした。でも周りの人たちに色々助けてもらって、デザインもクラスの子が考えてくれたし、布も格安で手に入れることができ、なんとか問題を克服できました(麻衣、雄大のお母

さん、平馬先生、ありがとうございます!。さて、縫い上げる段階になって、男子の割合が多かったので、ちゃんと縫えるかどうか不安でしたが、それも杞憂に終わり、縫合はちやくちやくと行われましたが、時間配分を間違えてしまい、衣装は本場にギリギリに仕上がりました(みんなマジすんませんでした)。

残念ながら賞を取ることはできませんでしたが、みんなの助けて充実した体育祭にすることができました。三年最後の体育祭は一生忘れることはないと思います(あらゆる意味で(笑))。黄組衣装のみなさん、本当にありがとう(ござ)いました。黄組最高!

午 前		午 後	
1	玉入れ	11	集団演技
2	100m走	12	障害物リレー
3	綱引き (予選)	13	ビーチフラッグ
4	大旗リレー	14	綱引き (決勝)
5	しっぽ取り鬼ごっこ	15	総力リレー
6	借り人借り物競争		
7	騎馬戦		
8	色別りレー		
9	綱取り (混合)		
10	応援合戦		

2009年 第57回

テーマ		1位	2位
黄組	KPS 覇黄 ~我が一色に一片の悔い無し!~	総合 赤	青
白組	白クローズ ~祭りじゃ!!白黒はつきりつけようぜ!!~	応援 青	赤
青組	海 人	集団演技 赤	白
赤組	RED WALL ~紅流星軍~	壁画 赤	黄
		みこし 黄	赤
		衣装 青	赤
		競技 赤	青

みこし 赤組 一生の記念

三流 荒井 慶太

三流は去年青組で前の三工、一流と共にがんばりました。総合の結果は準優勝でしたが悔しいことが一つありました。先輩も自信满满だったみこしが賞をとれなかったことです。僕はほとんど先輩まかせだったけれど、悔しさがものすごく伝わりました。この悔しさを晴らすために今年もみこしをしようと思いました。

自ら責任者になりましたが、たくさんの方ができました。設計図も曖昧で道具も何を使えばいいのかわからず、時間内にできるがすごく不安でした。しかし、先生の指導の元、仲間や後輩の力もあり満足す

午 前		午 後	
1	玉入れ	11	集団演技
2	ミラクル競争	12	100m走
3	台風の目	13	ビーチフラッグ
4	色別リレー	14	綱引き(決勝)
5	綱引き(予選)	15	総力リレー
6	騎馬戦		
7	大旗リレー		
8	綱取り(混合)		
9	師弟リレー		
10	応援合戦		

るものができました。結果は準優勝でしたが、去年の悔しい思いを晴らすことができ、よかったです。

今まで、マニユアルなしに何か物を作るというのをしたことがなかったから、相当苦戦しました。けれど、作ってみると物を作る楽しさがよくわかりました。来年の体育祭では今年以上の盛り上がり、作品のできを期待しています。最後にみこしを手伝ってくれた赤組のみんなとご指導くださった松田先生本当にありがとうございます。高校生活忘れられない思い出になりました。赤組になれたこと本当にうれしく思います。

2010年 第58回

テーマ		1位	2位
黄組	黄 愛	総合 白	青
赤組	仏恥義理 炎神 555	応援 白	青
白組	WORKS White Oath Real King Secure	集団演技 白	青
青組	SUMURAI BLUE ~天下無双~	壁画 黄	青
		みこし 白	青
		衣装 青	白
		競技 白	赤

白組 応援 みんなで勝ち取った白星

三生 長谷川 美葉

「作業開始ー!」本番が始まったと思ったら「ありがうございまして」とあっという間に六分四八秒が終わってしまっていました。タイムも声も文句なしで、一発目にしたらなかなかの出来でした。後は他の色の応援を見ていました。見ている間もずっと緊張していました。

白組応援は取りかかりが他の色より遅れていて、始めは正直焦っていました。ある程度決まっても、少しずつ修正したりつけ足したりしながら本番ギリギリまで納得するものがありました。六分以上いかなかったり、移動がうまくできなかつたりして、毎日STの後も練習をしました。

閉会式が始まって、いよいよ結果発表。この時、団員みんな「優勝したい」という気持ちだったはず。間がすごく長く感じました。「優勝：白組」といわれた時は、

午 前		午 後	
1	ミラクル競争	11	集団演技
2	積みあげリレー	12	11人12脚競争
3	色別リレー	13	100m走
4	UP DOWN リレー	14	ビーチフラッグ
5	仮装競争	15	綱引き(決勝)
6	綱引き(予選)	16	総力リレー
7	スウェーデンリレー		
8	綱取り(女子)		
9	恥知らずリレー		
10	応援合戦		

おもいっきり喜ぶことができました。その瞬間、今まで毎日頑張って練習したかいがあったなと思いました。怒ってばかりで、いつも大きな声で怒鳴ってしまっていたし、振りや言葉もよく間違えているような団長でした。みんな、いつもごめんね。でも、「どうすればいいの?」「こうしたらいいんじゃない?」といういろいろ言ってきたら、すごくうれしかったです。

白組応援団、三生のみんな。お疲れさまでした。みんなも助けてくれて、ありがとう。みんなのおかげで、自信持って本番にのぞきました。二工・一流のみんな、こんな頼りない団長についてきてくれて、ありがたう。みんなが一生懸命覚えてくれてきたから、頑張って教えるという気になりました。みんなで「白星」取れて、よかったです。

白組応援団は最強最高!
来年もまた、いい結果出せるように頑張るね。

2011年 第59回

テーマ		1位	2位
黄組	麒麟 ～The hold of Crown～	赤	白
白組	ほわいと☆すとーりー ～白の王国～	赤	白
青組	蒼志想愛	赤	青
赤組	VIVA PASIÓN ～灼熱の大地を翔る～	赤	青
		黄	白

白組 組長

ほわいと☆ストーリー

三工 西谷 光史

今年三連覇を目指して、組全体の指揮を組長として準備から本番まで取り組んできました。

「組長として自分がしていることとはなんだろう」そう思い、初めは考えこみました。結果、自分は言葉で動かすより、自ら行動し、やることを示していくことにしました。初めて白組全体が集まった結団式では、強く自分の思いを言うことができました。

三年生は最後の体育祭。部門の中には早くから始めて順調に進んでいるところもあれば、言い争いが絶えず上手くやっ

午 前		午 後	
1	ミラクル競争	11	集団演技
2	玉入れ	12	背中渡り
3	色別リレー	13	100m走
4	UP DOWN リレー	14	ビーチフラッグ
5	増力リレー	15	綱引き (決勝)
6	綱引き (予選)	16	総力リレー
7	乗り物競争		
8	綱取り (女子)		
9	積み上げボールリレー		
10	応援合戦		

るかどうか心配なところもありました。しかし、練習に一年、二年が加わりさらに勢いがつく白組全体。組長として全体を見まわの際、楽しく活気づいている姿を多く見ることができました。本番ギリギリまで詰めて作品づくり、練習に取り組んだ白組はどこよりも一番輝いていました。

そして本番。白組の綱引きすごく感動しました。全員で一回一回気合いを入れている姿、周りで声を枯らしながらも必死に応援している姿。最高でした。結果的には総合準優勝。組長として三連覇を逃した悔しさがありました。でも最後にふさわしい心に残る体育祭になりました。一流・二生のみんなありがとう。

2012年 第60回

テーマ		1位	2位
赤組	Red scorpion ～砂漠の王～	青	白
青組	我竜天晴 ～我竜となりて天を昇る～	青	白
黄組	黄華魂 ～青春に翔舞を賭ける～	黄	白
白組	W' canvas	白	赤
		赤	青
		黄	青
		青	白

黄組 組長

挑戦する大切さ

三生 上坂 七海

私は中学校の時委員会の委員になったり、文化祭の劇に出たりと、人前に出たり、最

高学年として一・二年生をまとめていく仕事をしたりしていました。高校に入って、初めて学校祭などの行事があり、体育祭で各色の組長が自分の色を盛り上げながらも、周りの状況を見てみんなに指示している姿を見てとっても魅力を感じ、かっこいいなと思いました。でも私は、特別性格が明るいわけでもないしクラスの中でも中心的存在ではないし、みんなをまとめる力もないと思っていたので、

憧れているだけでした。高三になって自分

午 前		午 後	
1	100m走	11	集団演技
2	UP DOWN リレー	12	大縄跳び
3	色別リレー	13	スウェーデンリレー
4	背中渡り	14	ビーチフラッグ
5	増力リレー	15	綱引き (決勝)
6	綱引き (予選)	16	総力リレー
7	ミラクル競争		
8	綱取り (女子)		
9	飛べ!つけ!転がせ!リレー		
10	応援合戦		

たちで学校祭を盛り上げていく番になり、憧れてばかりじゃだめだと思いきって組長に立候補しました。組長になって、やっぱり人をまとめるのは難しく、友達とは言い合いました。きちんと指示が出せなくて組長なんてできないと思った事もあったけれど、本番では黄組みんな楽しんで盛り上げられたし、総合優勝はできなかったけれど、達成感があって思い出に残る体育祭にすることができました。最後に、初めての事に挑戦していくこと

はとっても大切だと思いました。これからも失敗を恐れず、色々な事に挑戦していきたいです。

2013年 第60回

白組 壁画

テーマ		1位	2位
青組	侍 ～蒼き火の鳥の如く～	総合	白赤
赤組	灼熱華美 ～親方雅斗に集え～	応援	白青
白組	It's a White World ～暴れろ！108人の プリンス プリンセス～	集団演技	白青
黄組	黄羅星 ～Pop Star～	壁画	白赤
		みこし	白青
		衣装	白黄
		競技	白赤

一年生の時、悔しい思いをしてから、ずっと目指していた優勝。やっと叶えることができました。それは皆が頑張ってくれたからであり、本当に感謝しています。

リーダーはほとんど経験した事がなく、上手くまとめられるか不安でした。更に今年の一、二年生は全員男子。今までの壁画の男子といえば、サボりばかりで働いてくれない事がほとんどでした。もしかしたら三年生だけの作業になるかもしれないと腹をくくっていました。今年の男子はすごく働いてくれて助かりました。ただ、私が上手に仕切る事ができなかったため、単純

White Fantasy

三生 田中 瑞樹

午 前		午 後	
1	100m走	11	集団演技
2	台風の日	12	大縄跳び
3	色別リレー	13	スウェーデンリレー
4	しっぽとり	14	ビーチフラッグ
5	大旗リレー	15	綱引き(決勝)
6	綱引き(予選)	16	総力リレー
7	ミラクル競争		
8	綱取り(女子)		
9	10人11脚		
10	応援合戦		

作業や力仕事ばかりになってすみません。三年の皆は、私のわがままを聞いてくれて、嫌がる事なく受け入れてくれました。また、主に細かい塗りをしてもらったのですが、文句の一つもなく作業をしてくれて感謝しています。

雨がひどく、作業も進まないことも多かったのですが、どうなるかわかりませんでした。完成できたのは皆の協力があったからです。最後の体育祭で良い思い出が作れました。本当に色々とおめんなさい。そしてありがとうございます！

四 農 文 祭

農文祭はステージ発表として文化部の発表・生徒企画・自由ステージ・のど自慢大会・職員劇が行われている。展示では第二体育館での学科展示、文化部・委員会の展示、二年生の修学旅行展、そしてクラス対抗のステンドグラスと壁画新聞の他、ふれあい農園の展示や国際交流展なども行われる。ビッグアートも忘れてはいけない。その年のテーマに沿った巨大なモザイク画を制作し、屋上から吊すのだがこれも圧巻だ。さらに農林高校らしい催し物も多彩だ。一年クラス企画に豚汁配布、もちつき、PTAによるそば打ち、そしていつも以上に大規模な農産物即売、それに各部活動の模擬店、生活科学科の模擬店など食べ物はずらつと並ぶ。盲学校が即売を行うときもある。もともと収穫を感謝して行われる文化祭なので、地域の人達も多く集まり大変にぎやかなお祭りとなる。一方で毎年生物慰霊祭も行われ、生物の供養がしめやかに執り行われてもいる。我々が生きるために他の命を頂いていることの確認の機会ともなっているのだ。

過去一〇年間を振り返る。

平成一六年度テーマは「NEW LEGEND」。アメリカで活躍したイチローのようにということで、ビッグアート「イチロー」は今でも語り草になるほどの迫力であった。舞台発表では新たに三年企画が行われ、ビデオ制作を中心として盛り上がりを見せた。その他自由ステージで行われたターミネーターのアフレコも人気であった。現在プロで活躍している大倉君が生徒会企画で太鼓を演奏したのもこの年である。模擬店には部活動の他に、三物が独自で綿菓子等を販売し、例年以上の賑わいとなった。

平成一七年度は万博「愛・地球博」があった年で、「愛・農林祭」

をテーマに行われた。ビッグアートは万博のキャラクターに、西田校長と林教頭の顔を模した「のりゾーと俊キッコロ」。この年印象的だったのは執行部のオープニングミュージカル。二五分にも及ぶ長編で脚本も衣装も本格的で、キャストが見事に歌いきった。テーマにちなんで、福井農林で愛が生まれ育っていくストーリーで、好評を博した。この年も盲学校の演奏があったが、ピアノとサクソスのレベルの高さに一同拍手喝采であった。

平成一八年度は「農文祭だヨ！全員集合2006」をテーマに行われた。ビッグアートは「ザ・ドリムスターズ」のど自慢にはインドネシア留学生が特別出演した。AAAボランティア活動には、恒例の生活科学科がチーズケーキとクレープの販売をしたのに加え、三物の作物専攻がサツマイモ料理を販売し貢献した。三年生のクラス企画がビデオ制作で定着し三年以上経ったため、全体のレベルが上がり全校で楽しめる作品が多くなった。この年も、執行部の劇から始まり、替え歌を織り交ぜながらインパクトのあるオープニングであった。

平成一九年度は「HERO〜新たな伝説が生まれる〜」をテーマに行われた。歴史上のHEROということで、フランス革命の時のナポレオンがビッグアートのモチーフとなった。例年一学期に行われる芸術鑑賞が農文祭に行われ、「中国芸術文化公演」を鑑賞した。雑技中心であったが、京劇や中国語講座なども行われた。この年の生徒会長は、テーマの如く大活躍で、雑伎にも参加、演劇部の演劇やのどじまん、自由ステージなど出られるものには全て出演、八面六臂の活躍であった。なお、学年会の意向もありクラス企画の審査はこの年が最後となった。

平成二〇年度「いいんだヨ!!グリーンダヨ!!NOReeeeeeeeenだよ!!」。グリーンのアльバムジャケットを模し、志村けんを描いたビ

ッグアートであった。第一体育館が工事のため使えなくなり、フェニックスプラザ小ホールを借りてステージ発表を行った。そのため生徒会企画は、第二体育館にミニステージを設営し、そばやもちを求める人が集まりごった返す中で行った。また校内オリエンテリングを実施し、入賞者にはえちぜん鉄道一日乗り放題チケットなどがプレゼントされた。それ以外にも武道館で映画鑑賞、三年クラス企画は校内ラジオ放送など、例年のない取り組みが行われた年であった。生徒会企画のビデオが凝った作りで面白かったという声も残っている。

平成二一年度「緑黄色野菜〜緑からあたえられし幸〜」、それにちなんでNHKの「やさしいようせい」がビッグアート。この年ぐらいいから、ステンドグラスが細かい作業を厭わない凝った作りのものが多いが、全体のレベルアップが見られた。自由ステージでは生徒会長が中心となって例年のない盛り上がりを見せた。またこの年からPTAの大鼓演奏が行われるようになり、事前に練習を重ねて生徒の前で披露された。

平成二二年度「必笑喜顔〜すべての人へ〜」、ビッグアートはモナリザに、この年最後になる浅野清美校長の顔を当てはめたものであった。会心の出来ではあったのだが、天気予報に反して前日突如大荒れの天気となり、一旦屋上からつり下げたビッグアートを撤去し、雑巾で拭きドライヤーで乾かし、剥がれたところを補修することとなった。自由ステージでは、久しぶりにバンド演奏があったのが印象的である。またのど自慢では、一年生が入賞し拍手喝采を浴びていた。この年から、のど自慢を初めあちこちでAKBブームが始まった。

平成二三年度は、二二年度末に起こった東日本大震災を受けて「最輝〜日本再起のための祭祈〜」と銘打った。ビッグアートは度重なる災害から復興を遂げてきた福井の象徴「フェニックス（不死鳥）」。実

行委員会ではチャリティーグッズの制作販売、全校生徒から集めた品でのバザーを行ったほか、各部活動模擬店の売上げの一部、生活科学科の模擬店の売上げ、図書部古本市の売上げ、無料配布のPTAそばうちの場所での募金なども義援金とした。環境工学科の学科展示も、高台移転などをテーマとしたジオラマ製作など学校全体で震災に向き合った農文祭であった。

平成二四年度は、第四教棟耐震工事の関係で例年とは配置の違う形で行われた。模擬店等では不都合もあったが、駐車場に関して言えば近隣に借り受けたおかげで、敷地内は落ち着いた雰囲気であった。テーマは「VIVA大地!! 咲く咲くsmile 2012」であり、ビッグアクトは各クラスに掲示してあるスローガンの写真を加工し、ひまわり畑で生徒達がジャンプする絵であった。生徒会では昨年に引き続き、チャリティーで模擬店を行い、福農産の紫芋と卵を使ったベビーカーの販売をした。

平成二五年度は、一二〇周年の関係で、一日目は式典と記念演奏、二日目は例年通りの農文祭、というような日程となった。東京オリピック招致の盛り上がりもあったのでテーマは「一二〇周年目のおも・て・な・しゅ・はじける! じえじえな農文祭!!」となり、ビッグアクトは一大ブームとなったNHK朝ドラの「あまちゃん」と招致委員の滝川クリステルのコラボとなった。実行委員会では、三年目のチャリティーと言うことで、じゃがバターの模擬店とバザー両方に取り組んだ。また一二〇周年を記念したキャラクター制作にも取り組み、「のーRain」グッズや立体化にもチャレンジした。

福井県立福井農林高等学校
農文祭
2005年 11月2日(水) 3日(木)
テーマ **愛 農林博**

「愛の農林博2005」Key Ideas
自然の叡智(えいち) ~Nature's Wisdomを考える
「愛」 ~絆(キズナ)を深める~
大地の祭 ~100%楽しもう!~

日程
1日目・・・11月2日(水)

第一体育館	8:20-9:00	9:45	10:30	12:30	13:30	15:00	16:00
	S・T	開校式	来賓会 金曜日	自由 ステージ	休憩・ 昼食	のど自 演大会	リハ イタル
第二体育館				展示(各部・各科・協学 行ふれあい農園・福祉会 農友会)、茶会、百学 展、スライド展示、即売			
第二体育館北 生物観察室前				模範店 農産物販売			

2日目・・・11月3日(木) (文化の日)

第一体育館	8:20-9:30	10:00	10:30	13:30	14:10	15:00	15:30	16:00
	S・T	JRC 吹奏楽部	来賓会 金曜日	生 徒 会 発表	3 年 ビ ジ ネ ー 発表	贈 答 品 物	閉 校 式	講演S 講演T
第二体育館				展示(各部・各科・協学 行ふれあい農園・福祉会 農友会)、茶会、クラス 会、部活、即売、そば 打ち、餅作り、農産物 販売、スライド展示、即 売				
第二体育館北 生物観察室前				模範店 農産物販売				

全員鑑賞

福井県立福井農林高等学校
農文祭
2004年 10月29日(金) 30日(土)
テーマ **NEW LEGEND**

農林伝説 Key word 何事にも極めよ! イチローのごとく
全力疾走100点満点!!
心躍るランバに
ときめきハジケよう!!!

日程
1日目・・・10月29日(金)

第一体育館	8:20-9:00	9:45	10:30	12:30	13:30	15:00	16:00
	S・T	開校式	来賓会 金曜日	自由 ステージ	休憩・ 昼食	のど自 演大会	リハ イタル
第二体育館				展示(各部・各科・協学 行ふれあい農園・福祉会 農友会)、茶会、百学 展、スライド展示、即 売			
第二体育館北 生物観察室前				模範店 農産物販売			

2日目・・・10月30日(土)

第一体育館	8:20-9:30	10:00	10:30	13:30	14:10	15:00	15:30	16:00
	S・T	JRC 吹奏楽部	来賓会 金曜日	生 徒 会 発表	3 年 ビ ジ ネ ー 発表	贈 答 品 物	閉 校 式	講演S 講演T
第二体育館				展示(各部・各科・協学 行ふれあい農園・福祉会 農友会)、茶会、クラス 会、部活、即売、そば 打ち、餅作り、農産物 販売、スライド展示、即 売				
第二体育館北 生物観察室前				模範店 農産物販売				

全員鑑賞



福井県立福井農林高等学校

農文祭

HERO

Theme

～新たな伝説が生まれる～
「HERO～新たな伝説がはじまる～」 Key Ideas

- ・1人1人HEROになろう。
- ・全力で1人1人が楽しもう。
- ・心を絆を深めよう！！

日程

1日目・・・11月2日(金)

8:30	8:30	9:00	10:30	12:30	13:10	14:00	15:30	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	自 治 会 全 員 集 会	体 操 ・ 演 劇	演 劇 ・ 演 奏	の ど 自 治 会 大 会	S T ハ レ ビ ン グ
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)							
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)							
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)							

2日目・・・11月3日(土)(文化の日)

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)														
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)														
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)														

全員鑑賞

福井県立福井農林高等学校

農文祭

2006年 11月2日(木) 3日(金)

テーマ 農文祭だよ！ 全員集合 2006

「農文祭だよ！ 全員集合 2006」Key Ideas

- ・福農生全員が一致団結する。
- ・毎農生全員で農文祭を盛り上げ、絆を深める。
- ・全員が個性を発揮し、大地の祭りを楽しむ。



日程

1日目・・・11月2日(木)

8:30	8:30	9:00	9:45	10:30	12:30	13:30	15:00	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	自 治 会 全 員 集 会	自 治 会 全 員 集 会	自 治 会 全 員 集 会	の ど 自 治 会 大 会	S T ハ レ ビ ン グ
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)							
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)							
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)							

2日目・・・11月3日(金)(文化の日)

8:30	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)															
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)															
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)															

全員鑑賞

福井県立福井農林高校

October. 30. 31

MORIN Festival

～2009～

「緑黄色野祭 ～絆がまたえられし幸～」

日程

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)														
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)														
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)														

2日目

8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
第一体育館	S T	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式	開 演 式
第二体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会・新学年・ふれあい博覧会)														
第三体育館	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)														
自影堂小堂	展示(各都道府県・各学科・各学年旅行・ふれあい博覧会)														

福井県立福井農林高等学校

いいんダヨ！！ クリーンダヨ！！

NOReeeeeeeeeeN ダヨ！！

～農文祭2008～

日程

1日目・・・10月31日(金)

- ・ 9:00 開演
- ・ 9:10 ST(10分)
- ・ 9:20 開演式(15分)
- ・ 9:35 演劇部(50分)
- 10:25 生徒会企画(10分)
- 10:35 邦楽部発表(15分)
- ・ 10:50 休演(15分)
- ・ 11:05 吹奏楽発表(20分)
- ・ 11:25 生徒会企画(10分)
- ・ 11:35 のど自慢大会 新卒(45分)
- ・ 12:20 音楽・休演(40分)
- 13:00 のど自慢大会 継承(45分)
- ・ 13:45 休演(15分)
- ・ 14:00 郷土芸能発表(30分)
- ・ 14:30 職員出し(20分)
- ・ 14:50 表彰・合同ST(15分)
- ・ 15:10 後始末・撤出



～文化部発表～

演劇部(9:35～10:25)

「帰宅部～ただ自分の家に帰る部………の部にあらず～」

邦楽部(10:35～10:50)

「未来花II」

吹奏楽部(11:05～11:25)

「可愛いアイシャ」「そばかす」「Let's Swing」

郷土芸能部(14:00～14:30)

「大地の祭り」「秋文楽台座」「悠久の大地」「宣機」

福井農林高校 NOBEMBER.2,3
INOURIN FIESTA!
最輝

～日本再起のための祭祈～

Key → 収穫の時、福井県が豊かになることを祈ります。農家の笑顔が溢れるように。農家の笑顔が溢れるように。農家の笑顔が溢れるように。

Ideas

日程

時間	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30
開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式
自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式

福井農林高校 NOBEMBER.2,3
NORIN FESTIVAL
心笑喜願～さびての人へ

Key Ideas

- 福井県全員の笑顔が絶えない農文祭にする
- 農文祭の成功を祈願する
- さびての人へ笑顔が溢れるように

【日程】

時間	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式
自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式

福井農林高校 農文祭2013

120年目のお・も・て・な・し
 ～はげけろ! ぐえぐえな農文祭～

収穫の時、大地と自然に感謝しよう
 120年の喜びと感謝を表す農文祭にしよう
 新たな挑戦を、驚きをもたらそう

☆日程☆

時間	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式
自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式

2013年11月2日(土)・3日(日・祝)

福井農林高校 Harvest fiesta 11月2・3日

VIVA 大地!!
 ～秋の笑顔smile2012～

日程

時間	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式	開校式
自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間
閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式	閉校式

※ 収穫の時、学校の成果と大地の恵みに感謝しよう!
 ※ 一人一人が笑顔で活躍できる農文祭にしよう!
 ※ 来て頂いた方が、農林の良さを知って笑顔になる祭にしよう!

文化 部 発 表 演 目 一 覧

	平成16年度 (2004)	平成17年度 (2005)	平成18年度 (2006)
邦 楽 部	・ Amazing grace ・ On happy day	黒田節による幻想曲	さくら～ニューバージョン～
吹 奏 楽 部	・ Moanin' ・ Take five ・ ラストクリスマス ・ In the Mood	・ Pirates of the Caribbean ・ ディズニーメドレ ・ Sing,Sing,Sing	・ アルセナル ・ 銀河と迷路 ・ ピンクレディーメドレー ・ Funky! Ityorai
演 劇 部	誰も知らない物語	不思議な冒険	我らバレンタイン撲滅運動隊
郷土芸能部	・ 民謡メドレー ・ 宜候	・ 大地の祭り ・ 悠久の大地	・ こきりこ節 ・ 秩父屋台囃子 ・ 宜候 ・ 大地の風
J R C	手話コーラスヒットメドレー	手話コーラスヒットメドレー	手話コーラス ・ モノクロ ・ N A O ・ 指輪

	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)	平成21年度 (2009)
邦 楽 部	・ 海の彼方に	・ 未来花Ⅱ	・ 箏と十七弦による三重奏曲
吹 奏 楽 部	・ Fring Tigers ・ 松田聖子メドレー ・ パンザイ	・ 可愛いアイシャ ・ そばかす ・ Let's Swing	・ The Best House ・ 天体観測 ・ EXILEメドレー ・ Mickey
演 劇 部	コンビニストアアドベンチャー	帰宅部～ただ自分の家に帰る部…の意にあらず～	はじめてのおつかい
郷土芸能部	・ 大地の祭り ・ 武人 ・ 宜候	・ 大地の祭り ・ 秩父屋台囃子 ・ 悠久の大地 ・ 宜候	・ 秩父屋台囃子 ・ 大地の祭り ・ 宜候
J R C	・ 永遠とともに ・ もう君以外愛せない ・ First Love		
合唱同好会			The Longest Time

	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)
邦 楽 部	炎	虹色の風	螺鈿	炎
吹 奏 楽 部	・ 会いたかった ・ HOWEVER ・ いきものかかりメドレー ・ ヘビーローテーション	・ アクエリオン ・ 急上 show!! ・ AKB メドレー ・ 告白	・ ルパン三世のテーマ ・ 天体観測 ・ 女々しくて	・ ミラクル ・ ハネウマライダー ・ 迷宮ラブソング ・ Joy
演 劇 部	コンビニエンス アドベンチャー	煙草の後始末	大きなかぶ	演劇部、集 Go!
郷土芸能部	・ あかつき～夜明け ・ 笑顔にあいたい ・ 悠久の大地	・ 大地の祭り ・ 秩父屋台囃子 ・ 大地再び ・ 宜候	・ 悠久の大地 ・ 屋台囃子 ・ 大地再び	・ 宜候 ・ 恐竜行進曲 ・ 大地再び
合唱同好会	・ 風になる ・ 桜の葉 ・ BestFriend	・ fragile ・ Joyful Joyful		

五 田 植 祭

我が校の伝統行事である「田植祭」は毎年六月の第二週に開催されている。基本的には一日で行われるが、前後して行われる芸術鑑賞と組み合わされ、準備を入れると二日間に渡る年もある。午前中は、郷土芸能部・邦楽部・吹奏楽部の文化部発表と、合唱コンクールが行われる。合唱は高校総体が終わった後、一週間集中し各クラスで仕上げる。その期間は文化委員や指揮者・伴奏者を中心に練習が行われ、朝早くから放課後まで、学校中に歌声が響いている。本校の合唱は、合唱曲だけでなく歌謡曲を合唱用にアレンジしたものが多く、生徒達が楽しそうにのびのびと歌う姿が印象的である。それも、その時々音楽科の先生がアレンジをしてハーモニーを作ってくださるのみならず、各パート毎に歌ったカセットやCDを全クラス分製作するという懇切丁寧な支援、熱心な指導があつてこそ成立しているものである。行事削減の流れの中で合唱コンクールのなくなる学校が多い中、全学年が一生懸命取り組む本校の在り方は三年間の成長という点でも欠かすことのできない行事である。

午後は二、三年生対象として、所属する学科での実験・実習の成果を見極める機会として農業鑑定競技が行われる。その後行われる農業クラブの県大会・全国大会の予選も兼ねたもので、第二体育館で一斉に課題に取り組む生徒達の姿は非常に壮観である。また一年生は入学後間もない時期であり、学校・学科についての理解を深め、より有意義な学校生活を送れるよう、校内ウォークラリーが行われている。

(平成二二年 浅野清美校長先生の田植祭パンフレット巻頭より引用)

五月の連休明けに一年生全員が裸足で水田に入り、手植えでの田植えという農業高校ならではの行事が今年も無事終わりました。この田植え

を通して、一年生にとっては福井農林高校の生徒としての自覚が芽生え始めるということで、大変貴重な体験学習であると思っています。

今は、上級生の植えた水田も含め、学校周辺の苗が生育し、緑の絨毯が敷き詰められたように美しい風景です。野菜も実を付け色づきはじめています。ふれあいマートに陳列されるのも間近ではないでしょうか。

この季節は自然の恵みと生き物を育てる喜びが実感できる心躍る時期です。そして、ほっと一息入れて農作業の手を休め、明日への作業に備えるときでもあります。そんな目的で行われるのが「田植祭」です。

「祭」の始まりは収穫の村祭りから起こったものが多く、日本はもともと農家の人が多いことから田畑の収穫を祝ってきました。今では祭りには豊作・大漁、無病息災などの目的があり、全国で六万三千ほどの祭りが行われているようです。「祭」は豊かさの願望であり、日本は世界の中でも最も祭りの多い国だそう、誇れる日本の伝統文化だと思います。

豊かな国日本でありながら、豊かさの有り難みが薄くなり、忙しく、移り変わりの速い今の時代であるからこそ、本校の「田植祭」のような行事は大変貴重であります。「田植祭」の一日、一人ひとりがその意味を感じながら、大いに楽しみ明日への活力にしましょう。

本校の校長先生方は折に触れ、このように農作業の意味・農業の大切さを生徒達に伝えていく。日本文化の根底に農業を基盤とした歳時記が根付いているということを生徒達に実感させ、農業だけでなく、日本人として祖先を敬い伝統を尊重する精神も育てていくように思う。今後とも、そのような教育的意図を忘れず継続していきたい行事である。

以下、過去一〇年分のプログラムの表紙・合唱コンクールプログラム並びに結果、そして農業鑑定競技の結果を掲載する。

田植祭



H16年6月17日

農業鑑定競技の部平成16年度

コース	最優秀賞
農業	稲田 陽子 (3物)
園芸 A	白崎 健悟 (2物)
園芸 B	尾崎 香織 (3流)
林業	東野 光児 (3工)
農業土木	河合 利巳 (3工)
生活科学	天谷 真衣 (3生)

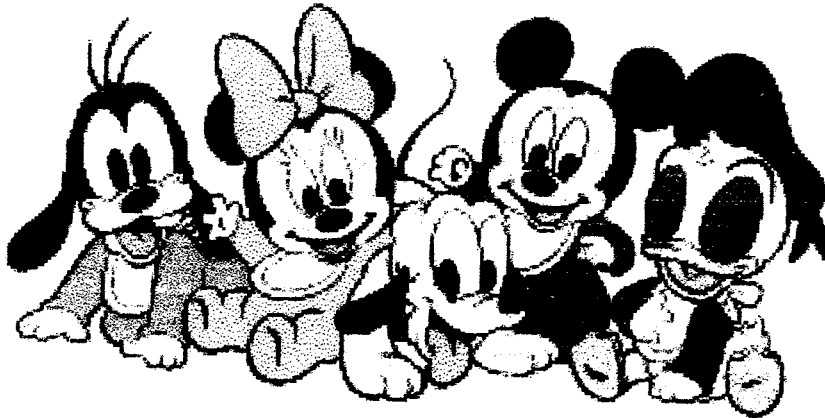
合唱コンクール平成16年

	曲名	クラス
最優秀賞	YELL～エール～	3年生物生産科
	プロポーズ	3年環境工学科
奨励賞	チェリー	3年生産流通科
最優秀指揮者賞	南部 智恵	3年生産流通科
	竹澤 美季	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成16年度

生物生産科	1位…大久保・五十嵐・大山口・河合
環境工学科	1位…安野・稲木・反保・中崎
生活科学科	1位…中村・川嶋・前田
生産流通科	1位…土田・後藤・鍋屋・柳

田 植 祭



農業鑑定競技の部平成17年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	土田 礼子 (2物)	上島 大地 (3物)
		河野 孝治 (3物)
		中川 みか (3物)
		丸山 修治 (3物)
園 芸 A	五十嵐悠一 (3物)	杉森 亜弥 (3物)
		前川 美晴 (2物)
		坂井 絵美 (3流)
園 芸 B	酒井 香奈 (3流)	大倉 達則 (3流)
		塚原 悠希 (3流)
		高橋 美鈴 (3流)
		岡下 真子 (3流)
林 業	野村 真吾 (3工)	西尾 浩貴 (3工)
		黒川 裕一 (3工)
		田野多将年 (2工)
農 業 土 木	瀧波 勇人 (3工)	宮越 啓輔 (3工)
		中村 勇太 (3工)
		福岡 英之 (2工)
生 活 科 学	鈴木いつみ (3生)	林 佑香 (3生)
		山崎 愛未 (3生)
		小野 圭代 (3生)
		須見紀美江 (3生)
		羽生 広美 (3生)

合唱コンクール平成17年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	ここにしか咲かない花	3年環境工学科
優 秀 賞	Hail Holy Queen	3年生活科学科
奨 励 賞	鳥唄	3年生物生産科
最優秀指揮者賞	林 佑香	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成17年度

生物生産科	1位…前川・砂村・鱸
環境工学科	1位…茶谷・雨山・渡辺・河瑞
生活科学科	1位…川瀬・酒井・平井・松本
生産流通科	1位…山下・木村・堀田

田植祭

2006
6.21



農業鑑定競技の部平成18年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	土田 礼子 (3物)	柳清 りえ (2物)
		北島 貴寛 (3物)
		山岸 潤平 (2物)
		五十嵐勇紀 (3物)
園 芸 A	前川 美晴 (3物)	嶋本 佳剛 (3物)
		本田 りか (3物)
		堅田 友希 (2流)
園 芸 B	荻原亜梨沙 (2流)	義岡 夢実 (3流)
		岩佐 夏紀 (3流)
		西村沙也佳 (3流)
		山下 圭吾 (2流)
林 業	高波 和貴 (3工)	八原 淳 (2工)
		松井 良作 (2工)
		茶谷 敏希 (2工)
農業土木	福岡 英之 (3工)	牧野 史裕 (3工)
		西端 宏明 (3工)
		増田 祐二 (2工)
生活科学	野尻 麻衣 (3生)	大森 真琴 (3生)
		中嶋 美晴 (3生)
		長谷川理咲 (3生)
		安達 由記 (2生)
		石掛 陽光 (3生)

合唱コンクール平成18年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	Joyful, Joyful Oh happy day	3年生活科学科
優 秀 賞	ツッパリハイスクールロックンロール	3年環境工学科
	ゆけゆけ飛雄馬	2年環境工学科
奨 励 賞	Stand by me	1年生物生産科
最優秀指揮者賞	大森 真琴	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成18年度

生物生産科	1位…竹内・江戸・天井・堀
環境工学科	1位…波賀野・渡辺・南
生活科学科	1位…増田・吉田・村居・酒井
生産流通科	1位…吉田・林・藤野・松下



2007.6.19

農業鑑定競技の部平成19年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	清水 雄大 (2物)	鮎 久美子 (3物)
		柳清 りえ (3物)
		渡邊 麻衣 (2物)
		市波彩沙姫 (2物)
園 芸 A	藤本 知央 (2物)	天井 寛樹 (2物)
		田邊 京 (2物)
園 芸 B	萩原亜梨沙 (3流)	田島 瞳 (3流)
		上田 美穂 (2流)
		堅田 友希 (3流)
		大阪さつき (3流)
		西川 真美 (3流)
林 業	茶谷 敏希 (3工)	八原 淳 (3工)
		松井 良作 (3工)
		加藤 勇輝 (3工)
農 業 土 木	萩原龍太郎 (2工)	鳥田 卓也 (3工)
		荒井 雄介 (3工)
		小林 孝嘉 (2工)
生 活 科 学	鈴木 琴美 (3生)	村居 彩 (2生)
		鍛田 汐里 (2生)
		橋本 真佑 (3生)
		松本 唯 (3生)
		酒井 里奈 (2生)

合唱コンクール平成19年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	Love Love Love	3年生産流通科
優 秀 賞	海その愛	3年環境工学科
奨 励 賞	A WHOLE NEW WORLD	3年生活科学科
生徒会特別賞	We are the world	3年生物生産科
最優秀指揮者賞	甘利 麻衣	3年生産流通科

ウォークラリーの部平成19年度

生物生産科	1位…荒川・加藤・齋藤・西端
環境工学科	1位…東・近藤・中村
生活科学科	1位…吉田・増永・内ノ宮
生産流通科	1位…丸山・黒田・梅田



2008年. 6. 17

農業鑑定競技の部平成20年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	清水 雄大 (3物)	平澤 朋子 (3物)
		飯田小百合 (2物)
		渡邊 麻衣 (3物)
園 芸 A	市波彩沙姫 (3物)	藤本 知央 (3物)
		田邊 京 (2物)
		飛弾 一雅 (3物)
		天井 寛樹 (3物)
		嶋津 弘美 (3流)
園 芸 B	上田 美穂 (3流)	丸山由美子 (2流)
		松下 雄介 (3流)
		稲葉 礼奈 (3流)
		後藤 麻友 (3流)
		野路 紗希 (3流)
		若杉 郁美 (3流)
		本多 孝輔 (2工)
林 業	岩谷康次郎 (3工)	若杉 彦貴 (3工)
		西 光治 (2工)
		小林 孝嘉 (3工)
農 業 土 木	萩原龍太郎 (3工)	松井 美樹 (3工)
		名子 優太 (3工)
		渡辺 鷹士 (3工)
		村居 彩 (3生)
生 活 科 学	前川あいこ (2生)	勝 愛梨 (2生)
		鍛田 汐里 (3生)
		酒井 里奈 (3生)
		藤井 恵理佳 (3生)

合唱コンクール平成20年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	アニソンメドレー	3年生物生産科
優 秀 賞	フニクリフニクラ	3年環境工学科
奨 励 賞	YAH YAH YAH	3年生活科学科
生徒会特別賞	フニクリフニクラ	3年環境工学科
最優秀指揮者賞	秦 優貴	2年生活科学科

ウォークラリーの部平成20年度

生物生産科	1位…形山・安居
環境工学科	1位…小畑・谷口・長谷川・村井
生活科学科	1位…松山・熊谷・藤井・川崎
生産流通科	1位…北嶋・澤田・山田・大川



農業鑑定競技の部平成21年度

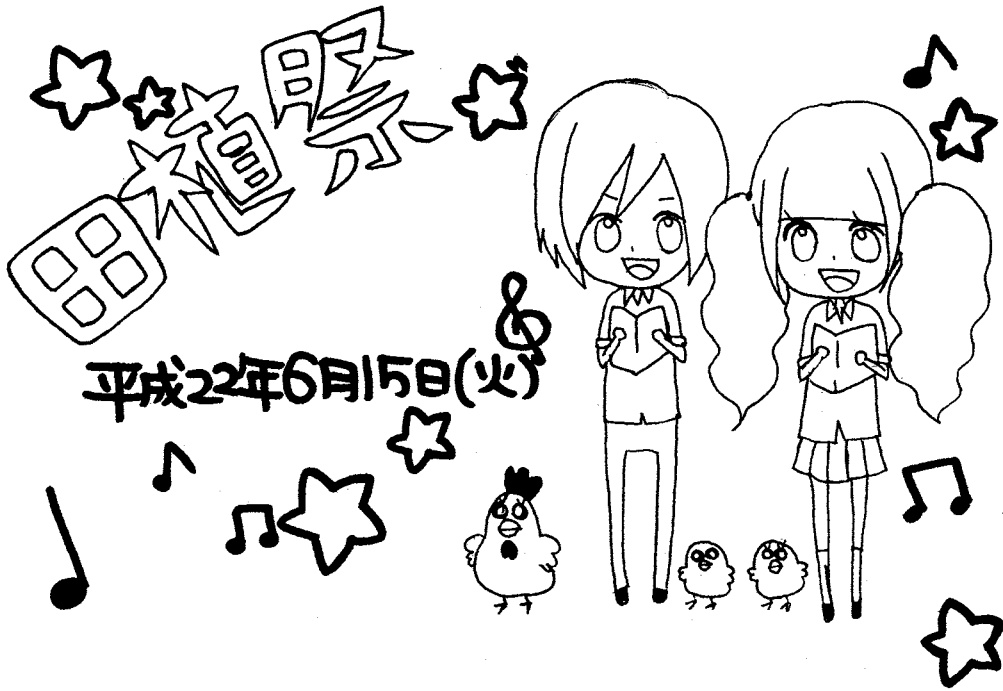
コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	飯田小百合 (3物)	青山 周平 (2物)
		山崎 充史 (2物)
		山口 拓也 (3物)
園 芸 A	渡辺詩穂子 (3物)	荒川稀未子 (3物)
		若杉 祐亮 (2物)
		田村匡史郎 (2物)
園 芸 B	丸山由美子 (3流)	横山あゆみ (2流)
		安野絵梨奈 (3流)
		錦古里柚美 (2流)
		大川 知華 (2流)
		荒井 慶太 (3流)
林 業	中村 亘兵 (3工)	本多 孝輔 (3工)
		西 光治 (3工)
		酒井 和宏 (2工)
農 業 土 木	長 大輔 (3工)	森 博隆 (3工)
		野坂 佳秀 (3工)
		津野 佑規 (2工)
生 活 科 学	前川あいこ (3生)	石川 祥子 (3生)
		藤井 麻緒 (3生)
		秦 優貴 (3生)
		藤川 奈巳 (3生)
		長谷川美菜 (2生)

合唱コンクール平成21年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	愛をこめて花束を	3年生活科学科
優 秀 賞	Story	3年生産流通科
奨 励 賞	ジブリメドレー	3年生物生産科
生徒会特別賞	愛をこめて花束を	3年生活科学科
最優秀指揮者賞	秦 優貴	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成21年度

生物生産科	1位…西山・斎藤・寺西
環境工学科	1位…増成・宮本
生活科学科	1位…飯田・河野・吉村
生産流通科	1位…寺西・山岸・宮川



農業鑑定競技の部平成22年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	寺西 春樺 (2物)	山崎 充史 (3物)
		加藤 未来 (3物)
		城戸 千鶴 (2物)
		仲井 駿 (2物)
園 芸 A	若杉 祐亮 (3物)	山中愛海子 (2物)
		宇佐見郁代 (3物)
		横山あゆみ (3流)
園 芸 B	山岸 梨奈 (2流)	松本 真実 (2流)
		大川 知華 (3流)
		加藤 愛理 (2流)
		小寺 千尋 (2流)
林 業	谷口 隆紀 (3工)	酒井 和宏 (3工)
		磯田 郁也 (3工)
		村井 聡 (3工)
		西谷 光史 (2工)
農 業 土 木	高原 誠 (3工)	角谷 将輝 (3工)
		津野 佑規 (3工)
		小餅谷 萌 (3生)
生 活 科 学	坪川 真弓 (3生)	長谷川美菜 (3生)
		藤井 千意 (3生)
		木村 明衣 (3生)
		古村巴瑠奈 (2生)

合唱コンクール平成22年

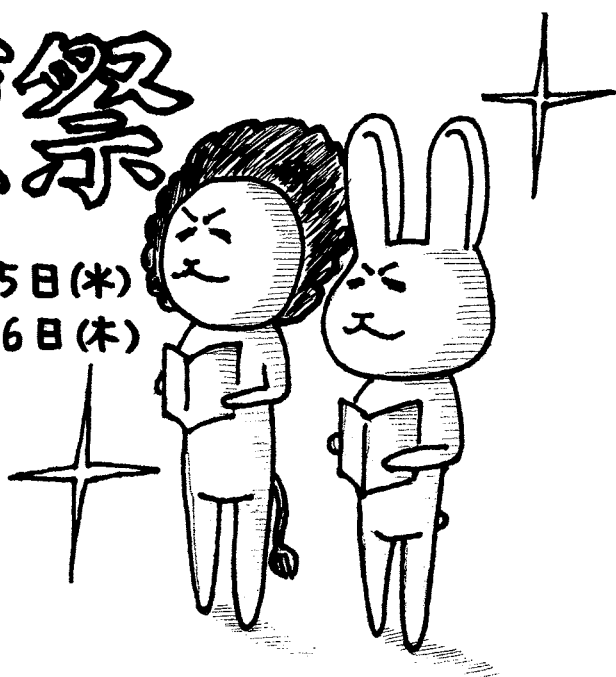
	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	I will flow him	3年生産流通科
優 秀 賞	未来へ	3年生活科学科
奨 励 賞	Butterfly (デジモン)	3年生物生産科
生徒会特別賞	会いたかった	3年環境工学科
最優秀指揮者賞	形山 遼	3年生物生産科
	藤塚 円	3年生産流通科

ウォークラリーの部平成22年度

生物生産科	1位…河合・島田幸・島田佳・城下
環境工学科	1位…今村・野村・木下・松本龍
生活科学科	1位…山田・大村・上坂・山口
生産流通科	1位…島田・下野・佐竹

田植祭

平成23年6月15日(木)
16日(木)



農業鑑定競技の部平成23年度

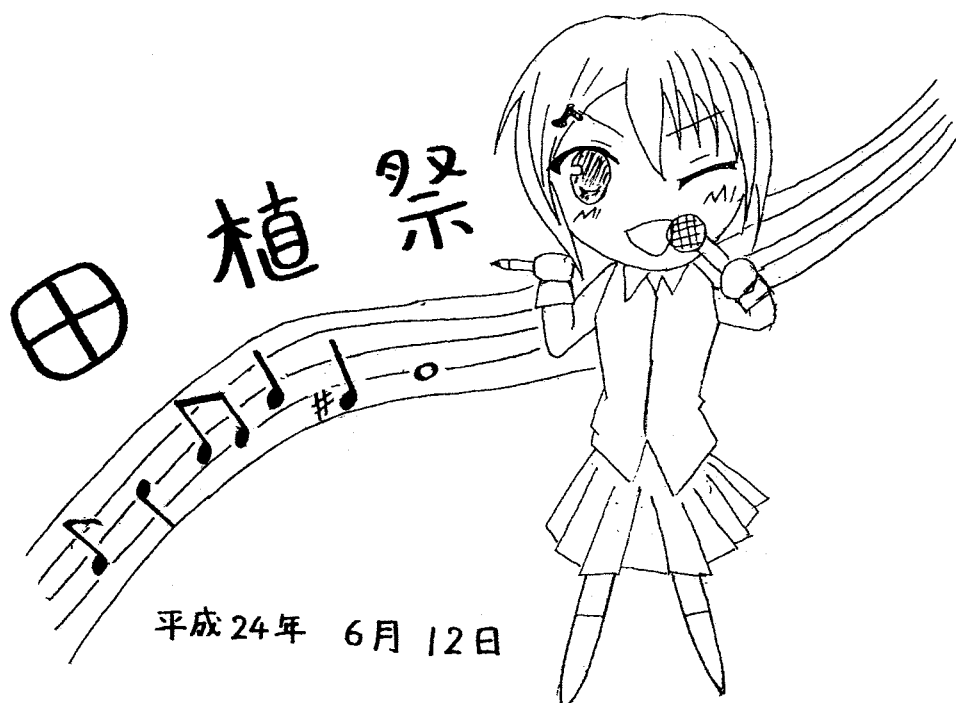
コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	寺西 春樺 (3物)	横山佳菜子 (2物)
		吉田 佳純 (2物)
		稲葉 佳明 (3物)
		兼井 健好 (2物)
園 芸 A	仲井 駿 (3物)	河合慎之介 (2物)
		高橋 咲貴 (3物)
園 芸 B	小寺 千尋 (3流)	加藤 愛理 (3流)
		山野 梨奈 (3流)
		寺西 瑛菜 (3流)
		齋藤 春菜 (3流)
		加藤 瑞穂 (3流)
林 業	清水 隆大 (3工)	川中 太智 (3工)
		定兼 正晴 (3工)
		中谷 綾 (2工)
		西谷 光史 (3工)
農 業 土 木	田邊 浩祐 (3工)	土井 利浩 (3工)
		高木 智章 (3工)
生 活 科 学	黒濟 優花 (3生)	飯田 陽花 (3生)
		横田 絢香 (2生)
		高井 梨沙 (3生)
		山口 美憂 (2生)
		高橋 奈々 (3生)

合唱コンクール平成23年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	道	3年生産流通科
優 秀 賞	ずっと二人で	3年環境工学科
奨 励 賞	未来予想図Ⅱ	3年生活科学科
生徒会特別賞	ずっと二人で	3年環境工学科
優秀指揮者賞	谷垣 拓実	3年生物生産科
優秀伴奏者賞	竹内 朋佳	1年生活科学科

ウォークラリーの部平成23年度

生物生産科	1位…岩谷・谷屋・白谷・仲村
環境工学科	1位…平田・澤口・鳥山・菅原
生活科学科	1位…中島・橋本・富田
生産流通科	1位…西本・大村・清水・大日方



農業鑑定競技の部平成24年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	横山佳菜子 (3物)	吉田 佳純 (3物)
		春木 鴻佑 (3物)
		飯田 直倫 (2物)
園 芸 A	河合慎之介 (3物)	八田 怜也 (3物)
		吉田 大河 (2物)
		後藤悠規子 (3物)
園 芸 B	佐竹 将幸 (3流)	田邊 知子 (3流)
		河村 咲希 (3流)
		松田 汐理 (3流)
		吉田 莉菜 (3流)
		山本 春希 (2流)
林 業	本田 遼 (3工)	道廣 隆雅 (2工)
		竹内 佑充 (3工)
		飯塚 勇樹 (3工)
		小林 祐太 (3工)
農 業 土 木	山本 尚史 (3工)	今村 皇太 (3工)
		松本 大輔 (3工)
		毛利なつみ (3生)
生活科学	大村明日香 (3生)	横田 絢香 (3生)
		秋山 陽香 (3生)
		赤尾なつみ (2生)
		山田 紗希 (2生)

合唱コンクール平成24年

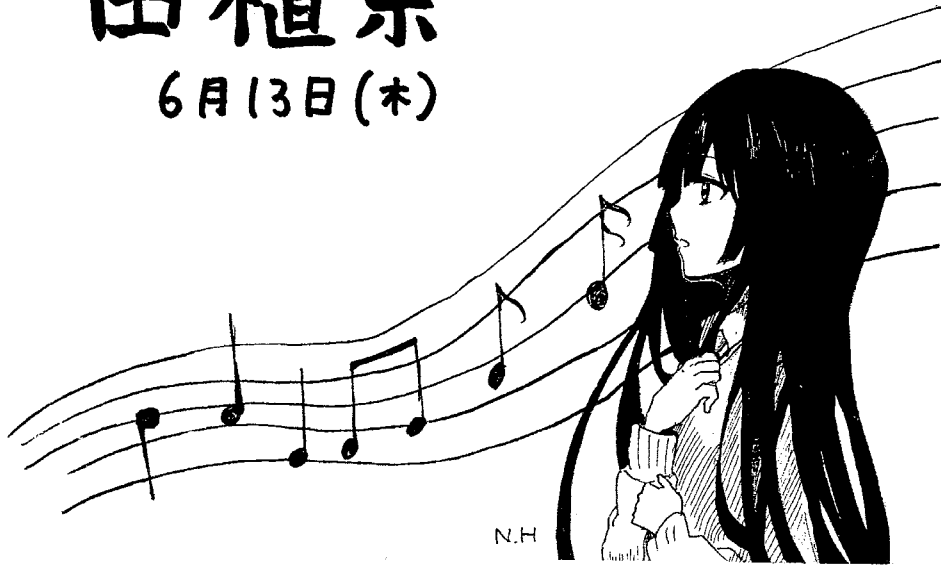
	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	ルージュの伝言	3年生産流通科
優 秀 賞	永遠にともに	3年環境工学科
奨 励 賞	花の名	2年生活科学科
生徒会特別賞	永遠にともに	3年環境工学科
最優秀指揮者賞	竹内麻里奈	3年生物生産科
	天野 玲花	2年生活科学科
最優秀伴奏者賞	面口ひかる	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成24年度

生物生産科	1位…荒井・江戸・小谷・北嶋
環境工学科	1位…高橋・加藤太・諏訪・玉谷
生活科学科	1位…山本・漆崎・齊藤・西野
生産流通科	1位…島田・星野・八田・吉田

田植祭

6月13日(木)



農業鑑定競技の部平成25年度

コース	最優秀賞	優 秀 賞
農 業	北嶋 新 (2物)	仲村 直幸 (3物)
		竹澤 昂史 (3物)
		武澤 将吾 (3物)
園 芸 A	白谷 侑菜 (3物)	山口 雅人 (3物)
		吉田 大河 (3物)
		谷屋美奈子 (3物)
園 芸 B	岩見 美子 (3流)	八田 寧音 (2流)
		山本 春希 (3流)
		行司 祐貴 (3流)
		結川美咲季 (3流)
林 業	野坂丈一郎 (3工)	高村かすみ (2流)
		岩佐 竜輔 (3工)
		上野 拓海 (3工)
農 業 土 木	鳥山 崇 (3工)	中村 圭佑 (3工)
		小林 洸介 (3工)
		荒川 佳士 (3工)
生 活 科 学	黒澤 七瀬 (3生)	清水 雅人 (3工)
		高見 麻世 (2生)
		山田 紗希 (3生)
		漆崎 美果 (2生)
		天野 玲花 (3生)
森下 璃子 (3生)		

合唱コンクール平成25年

	曲 名	ク ラ ス
最 優 秀 賞	COSMOS	3年生活科学科
優 秀 賞	あの鐘を鳴らすのはあなた	2年環境工学科
奨 励 賞	涙のキッス	3年生産流通科
	果てない空	2年生産流通科
生徒会特別賞	あの鐘を鳴らすのはあなた	2年環境工学科
優秀指揮者賞	西村 優希	3年生物生産科
優秀伴奏者賞	竹内 朋佳	3年生活科学科

ウォークラリーの部平成25年度

生物生産科	1位…竹澤・中村・橋本・土田・八杉
環境工学科	1位…浅利・上野・江守・真保
生活科学科	1位…大井・尾崎・川越・清水
生産流通科	1位…白崎・瀨崎・大和

六 強歩大会

強歩大会は開校記念行事として、昭和六〇年からそれまでのマラソン大会に代わって実施されるようになった。平成二五年で二九回を数え、休憩所などの依頼に行くと「今年はこちらを通るコースですか。頑張ってください。」といわれるほど地域にもしっかりと根付いている。

大会の目的は「歩く事を通じて、自然に親しみ、大きく伸びやかな心を養うとともに、自分の体力の限界に挑むことによって、尊い人生体験を得ることを目的とする。したがって、周到な歩行計画にもとづき、各人の体力に応じた歩行ペースを保ち、制限時間内に全行程を歩行するものである。」とし、実施意義を「自己の体力の限界に挑み、達成感を持たせる」ことに置いている。

歩行コースは、今立コース、勝山コース、金津コースの三コースに固定し、三年ローテーションで実施している。コースは毎回①学校までの歩行距離が三〇km位であること、②コース上に危険箇所が少ないこと、③スタート地点として広場が確保できること、④適当な休憩場所が確保できること、⑤なるべく史跡等風光明媚な箇所があること、の項目に照らし合わせて修正を加えている。

一三回あたりから、到着時刻が遅れる生徒や途中棄権者が増加するようになり、歩行距離、歩行時間、生徒の体力などさまざまな観点から検討がなされ、所期の目的が崩れない程度に距離を短くするとともに、最後尾を歩行する生徒に対し、教員も一緒に歩きながら指導する



強歩大会のスタート地点と歩行距離(平成16年度～24年度)
(km)

回数	実施年度	コース	男子		女子	
			スタート地点	歩行距離	スタート地点	歩行距離
20	平成16年	勝山	長尾山総合公園	30		
21	平成17年	金津	金津創作の森	27		
22	平成18年	今立	越前和紙の里	29		
23	平成19年	勝山	長尾山総合公園	30	ロードパークینگ恐竜街道	27
24	平成20年	金津	金津創作の森	27	熊坂農村環境改善センター	23
25	平成21年	今立	越前和紙の里	29	鯖江東陽中学校	25
26	平成22年	勝山	長尾山総合公園	30	ロードパークینگ恐竜街道	27
27	平成23年	金津	金津創作の森	27	熊坂農村環境改善センター	23
28	平成24年	今立	越前和紙の里	29	鯖江東陽中学校	25
29	平成25年	勝山	長尾山総合公園	30	ロードパークینگ恐竜街道	27

改善策をとることになった。そして、第一八回大会ではそれまで三三kmあった歩行距離を二七kmに縮めて実施し、全員が完歩することができた。

しかし、二二回大会では教職員のきめ細やかな指導にもかかわらず、再び女子に歩行スピードの遅れと歩行放棄者が見られるようになった。そのため、再度運営方法を検討し、二三回大会から男女で歩行距離に差を設けるためにスタート地点を変えることにした。

それと併せて、二四回大会からは以前からあった「完歩賞」を「制限時刻の一七時までには、参加者全員がゴールできたクラスに完歩賞を与える。」と規定を明文化しクラスに掲示した。さらに二五回大会からは新たに「当日欠席した者、リタイアした者、タイムオーバーした者の合計が五名以内なら準完歩賞を与える。」と「準完歩賞」を設けるなど、完歩することへの意欲の高揚を図る工夫をした。

近年、多くの生徒が自己の限界に挑む経験が少なくなってきたからこそ、この行事は意義あるものだと信じている。

第二節 生徒会活動

一 各種委員会活動

生徒協議会

本会は、執行部とクラスの代表・副代表で構成される三二名の協議会である。月例の常任委員会の開催日と同じ日に生徒協議会が定例でもたれている。本会議では執行部からの各種連絡事項を各クラスに伝達する機能や、各種アンケートの実施・回収・集計の機能、募金活動などの運営にも携わっている。一方で各クラスが抱える問題点を改善すべき方策を考える場ともなっており、あいさつや服装指導などといった風紀面の活動や考査前の雰囲気作りなど、時機に応じた目標を立て全校揚げて取り組んでいる。また平成二三年には、東日本大震災を受けて農文祭ではバザー用品の回収・オリジナルストラップの製作にもあたり、三学期にはベルマークの回収でも積極的に取り組むことが出来た。

HR委員会

毎週火曜日の一限目を実施されるHRの計画・企画・実施を行う。学校全体での講演会や学年会行事等が入ってくるため、クラス単位での活動時間は決して多くはない。しかし、実施時は委員を中心に、あるいは担任の補助役として活動に取り組んだ。平成二二年には「安全文化について」、平成二三年には三月の東日本大震災を受けて「防災について」という共通テーマを設定し、全クラスで議論を交わす機会を設けた。

風紀委員会

本校の風紀が厳正に保たれる事を目的に、年三回、全職員・風紀委員が生徒玄関に立ち挨拶指導・容儀指導を行った。また、年七回授業開始前に服装検査を行った。

管理委員会

管理委員会は、教室内の校具等の管理・営繕と冬季のストーブの管理が主な業務になっている。机や椅子、壁等に落書きしないように啓発したり、照明スイッチが壊されないようにポスターを掲示したりするなどの活動をしている。また、冬季はクラス代表とともにストーブの点火・消火を担当し、教室の防火防災に努めている。

選挙管理委員会

前期・後期の生徒会役員選挙に関する事務的な仕事を行う。選挙の告知、立候補者届出の受付、立候補者の広報、立候補者への説明会、立ち会い演説会の準備・運営、投開票、結果の発表を行う。選挙管理委員は通年としている。

文化委員会

田植祭に行われる合唱コンクールの準備・運営に当たっている。また、芸術鑑賞ではクラス毎の着席場所の指定とその連絡を行っている。農文祭では、正門を入れて正面に張り出されるモザイク壁画「ビッグアート」の最終的な仕上げを担当している。その他にもステンドグラスや壁新聞の材料調達や作成の準備を手伝っている。

図書委員会

図書当番が毎日交替で、本の返却業務や書架の整理を行っている。月一回の図書委員会では、その月の活動計画の討議の他に、返却切れ図書の催促も行う。さらに全校生徒の読書の推進のため、読書会の実施や一斉読書のポスターを作成し平成二四年からは、定期的に図書新聞の発行も行っている。また、平成一八年より図書委員会主催の古本市を農文祭で行っていたが、当日は他の役割が重なって販売に携われない生徒が増えたため、二四年から休止している。

保健委員会

年度初めに、まず身体計測の準備・補助などを行い、その後月ごとに保健目標を立て、保健だよりやクラス連絡、ポスター掲示などで呼びかけを行っている。また、年二回の環境整備・内大掃除の準備や後片付け、廊下や教室のワックスがけ、農文祭でのゴミ分別・収集などの美化活動を行っている。生徒会主催の清掃ボランティアにも保健委員会として自主参加をしている。

農業委員会

一年間の主な活動は、六月に実施される田植祭と農文祭の準備運営である。田植祭では、一年生はウォークラリーを、二、三年生は農業鑑定競技を行うので、会場設営などを行っている。また、農文祭では餅つきとその無料配布を行い、目玉行事として地域の皆様にも愛される活動を展開している。農業委員会の任期は一年と他の委員より長く、農業委員会の委員長は福井農林高等学校の農業クラブの副会長も兼ねるため、今後その立場がますます重要になってくると思われる。

体育委員会

スポーツテストの記録係や一、二学期末に行われる球技大会の準備・運営を担当している。

また、体育祭では、三年体育委員が実行委員に加わり、競技種目の考案・選定に協力したり、当日の運営・進行に携わったりしている。

二 部活動・同好会活動

郷土芸能部

郷土芸能部は第二七回全国高等学校総合文化祭福井大会（H一五）において部活動立ち上げからわずか二年で優秀賞を受賞。その後第三一回全国高等学校総合文化祭鳥根大会（H一九）では勝山高校との合同チームで最優秀賞の日本一に輝いた。また自治体主催のオールジャパンOTAIKOコンテストにおいてもこの一〇年の間次々と好成績をあげ、高い技術力を持つチームに成長した。地域の公演依頼も増え、現在は年間三〇回を超える公演がある。そして平成二二年には文化向上への貢献と発展に業績があると認められ、福井市文化奨励賞に輝いた。この一〇年の活動実践の工夫や特徴を記載する。

初心者がほとんどというのが郷土芸能部員の特徴であるが、新入生は入学式の歓迎演奏を見てカルチャーショックを受け郷土芸能部に入部してくる。新入部員は基本の「天ツク」というベースのリズムを打つ練習から始まる。素人集団を高い技術を持つまでに仕上げていかねばならないため、放課後三時間の練習は欠かすことができない。部員数は平成一七年が最大で五二名。平成二五年現在は三七名であり、女子部員の方がやや多い。

部の目的は全国総文での優勝に向けて活動することであるが、加え



て地域の文化公演活動も行っている。また、国際交流にも力を入れ、和太鼓を通し日本の文化や福井の芸能を海外に広め異文化理解を進める活動も行ってきた。

練習場は創部当初より第一体育館を使用。筋トレ、走り込み、腹筋、腕立て伏せなど基礎トレーニングの必要があり、第一体育館は最適な練習場といえるが、防音設備のない体育館のため近隣住民からの騒音問題がたびたび発生してきた。苦情対策として窓を閉め切ること、太鼓に毛布を掛けることで対処してきた。

楽器は大大鼓・長胴太鼓・桶胴太鼓・締太鼓・団扇太鼓など様々な種類の太鼓を揃えてきた。県高文連・歴代の校長先生、農友会からの寄付で頂いたものなど約二七台を所有している。太鼓皮は牛や馬の皮であるが毎年張り替え費用に三〇万円以上かかる。生徒会費用・地域公演で頂く活動支援金をそれに充当している。



地元『OTAIKO座明神』の座長上坂優氏に技術指導とオリジナル曲の作曲を依頼し、部活動発足以来一年間指導を継続していただいている。オリジナル曲は本来プロに作曲依頼すると高額な作曲料を支払わねばならないが、上坂氏にはこれまで学校との信頼関係のもと無償で曲を提供していただいている。上坂氏の曲だけを郷土芸能部の演目とすること、他の流派に楽譜が流れないよう注意を払うこと

などを守り信頼関係を築いている。特に『悠久の大地』・『宜候』・『大地再び』は全国大会のエントリー曲として郷土芸能部を代表する曲となった。

全国大会はこれまで福岡・福井・徳島・京都・島根・群馬・三重・富山大会と出場し、二度の入賞を果たした。

海外遠征は韓国公演（H一七 ユネスコNNGO国際民間文化芸術交流協会（IOV）推薦）・韓国公演（H一九文化庁派遣）・台湾公演（H二二 IOV推薦）・インド公演（H二四 IOV推薦）を行ってきた。毎回の海外公演では、日本文化を理解してもらえるか生徒は不安な気持ちを抱えて臨むのだが、どの国でもお客さんの熱狂的な声援や拍手をもらうこ



とができ、日本文化の、そして和太鼓の素晴らしさを再認識してきた。そして異文化に触れることで生徒たちの表現力にも深みと広がりも醸成してこれた。



自治体主催オールジャパンOTAIKOコンテストでは第一二回グランドチャンピオン大会（H一七）、第一三回大会（H一八）、第一六回

大会OTAIKO甲子園（H二二）、第一七回大会OTAIKO甲子園（H二三）の計四回、最優秀賞である福井県知事賞を受賞している。県勢の活躍を県民に喜んでいただける機会でもあり、生徒にとっては賞を頂くことでやってきた事を信じていける意欲を向上させる大切な機会でもある。自分への自信につながり、これが後輩への指導力の育成にも発展していった。平成二五年には富士山太鼓まつり太鼓甲子園にて優秀賞を受賞できた。

また定期演奏会は平成一六年に第一回定期演奏会が福井県民会館で行われ、以降第九回定期演奏会（H二五）まで福井県民会館、ハートピア春江、鯖江市文化センター、ハーモニーホールふくい、アオッサのそれぞれの会場で実施してきた。第一回定期演奏会には四曲だった持ち曲も現在は八曲となった。またステージ演出にも趣向を凝らし、スクリーン上映や三年生による卒業の挨拶もあり、観客も涙する感動的な演奏会をつくっている。定期演奏会では複数曲をマスターすることや日本の民謡にも取り組むことで演奏の幅を広げてきた。

技術を高めていく活動に加え、心の育成に重点を置く組織運営の工夫も色々行ってきた。部内は先輩が後輩を指導する体制を軸に、挨拶・礼儀・服装・時間厳守など自分たちが部内規律を作成し、それを遵守する。パートリーダーによる技術の伝達、組織に対する帰属意識の醸成を図っている。加えて平成二一年からは早朝の校舎内清掃に取り組んでおり、「校舎を綺麗にそして自身の心を綺麗に」を合い言葉に心を磨くように掃除する事を心がけている。

地域貢献活動として行う公演は、地域の



方々の温かい声援を頂き、生徒たちの演奏のエネルギーとなり心の成長に大きくつながっている。「喜んでくれてうれしい。感動してもらえてやって良かった。もったくさんの人に聞いてもらいたい」など優しい心、人进行の心、次も頑張ろうという心、良い心が次々と芽生えている。

またPTA和太鼓演奏、地域子ども会の太鼓講習会、特別支援学校との交流、中学生への和太鼓指導、『福農ならではの講座』での和太鼓指導も実施してきた。人から教わる立場から人に教える立場へと立場を変える活動には様々な気づきがある。的確に教えることは自分の技術の確かさを築くことにもなる。思いやりの心を育てることにもつながるようである。今後も継続して行いたい活動の一つだ。

県高文連行事への参加としては福井県音楽フェスティバルを開催。演奏することだけでなく、大会を運営する機会として、毎年司会進行係、舞台係、会場係、照明係、受付係などの業務を生徒に実践させている。進行計画の立案、太鼓の配置の段取りや出演者の動かし方、司会の工夫など生徒自らが学ぶ良い経験となっている。参加校は勝山高校と二校だけだったが平成一五年以降は嶺北特別支援学校、北陸高校、高志高校が共同開催する事で大きな刺激も受けてきた。

平成二三年には郷土芸能部卒業生が一〇〇名を超えたことを記念し、農文祭、定期演奏会の他に十一月五日には東日本大震災支援のチャリティーコンサートでも記念演奏を行った。またその後の展開として、卒業生が部活動を本格的にバックアップしていくような組織作りがで

きないかと考え、卒業生の受け皿となる「J.BANS」というチームを平成二四年五月に結成することとなった。現在毎週火曜日夜七時から九時体育館で練習を実施している。J.BANSが本部活動の生徒の憧れとなり、将来の指導者となっていくことを期待している。

(顧問 岡田 玉緒 記)

美術部

本校の生徒会誌「蒼林」の表紙は美術部の作品を載せている。創意工夫して仕上げた部員の作品の中から部長を中心とした部員の合意で決めている。

活動は、週一回(木曜日)放課後が作品制作の場になっており、部員は順番に活動日誌をつけている。部員数は過去のほとんどが一〇人以内であったが、平成二四年度は一四人と大勢になり、活気が出てきた。



県総文参加

発表の場は、農文祭と県高等学校総合文化祭がある。県高等学校総合文化祭への出品は数年ぶりになるが、他校に劣らずレイアウトできた。部長の木下舜揮君は「後輩も刺激になる。いい経験になった。」と満足していた。今後は個人の技術の向上を図るとともに、共同作品や大作などの制作に挑戦していきたい。農文祭では、展示会場がいっぱいになる程の作品を展示できた。



部活動活動風景

今後は、美術に興味・関心がある生徒に限らず、デザイン系や生活情報系への進学希望者などが入部し、自己の感性を磨き、特技の向上や将来の進路に結びつくような活動になることを期待している。

(顧問 酒井 康旨 記)

茶華道部

現在茶華道部は、週一、二回練習日を設け、表千家講師野阪千栄子先生、山田壽子先生のお二人にご指導いただいている。日頃の活動は、近年と同じく茶道の稽古中心で行っており、華道(池坊)は田植祭、農文祭で生花展示することで、わずかな回数だが関わりを持っている。平成二四年は部員九名で活動している。

対外的な活動としては、七月の「表千家学校茶道茶会」がある。この茶会は今年で九回目を迎えている。平成二三年は当番校として国際交流会館和室にて呈茶を三席行った。全員が浴衣を着用して、お点前半束、お運びをした。当番でない年は立礼席でのお点前とお運びに参加し、日頃の練習の成果を発表する場となっている。

学内では一月農文祭に茶会を行っている。茶菓子を手作りしたり、抹茶の飲み方パネルを作成したりと生徒は意欲的に茶席の準備に取り組んでいる。

日本文化である茶道や華道を通して、人に礼をつくし、大切にものをあつかう心身を養ってほしいと願っている。

(顧問 大嶋 佳子 記)

文芸部

文芸部は、毎年二〇名前後の部員がおり、女子がほとんどである。部活動日の活動が主で、イラストを描いたり創作活動を行ったりしている。しかし、実際は部活動の時間には互いに相談をしていることが多い。家に帰り一人でじっくり活動に取り組んでいる生徒が多い。春夏秋冬と季刊誌を製作し、部員同士の交流を行ったり、他校と交換したりしている。農文祭では、その部誌やイラストの販売も行い、平成二三年にはその収益を東日本大震災の義援金として送ることができた。近年イラストを描くのが好きな生徒が集まってくるようになったので、文芸部的要素を強化するため、各種コンクールに応募する作品を作ったり、部内句会を開いたりもしている。校内の読書会や読み聞かせ講習会にも参加させ、本来の文芸領域の楽しさを味合わせる活動を更に考えていきたい。

(顧問 中山 恵里子 記)

書道部

平成九年度から田中澄和講師が顧問となり、現在(平成二五年)に至る。田中先生が顧問になってから、年一〇回程度の「部活動日」だけでなく、毎週木曜日に活動するスタイルになった。

平成一五年ぐらまでは、男子部員も四割近くおり、出品目標を決めてその目標に向けて毎週練習し、出品数が増えるにつれ部員はまじめに取り組むようになってきた。

平成一五年、一六年は、部員数が九名、四名と少なくなったが、その後、再び二〇人前後に部員が増え(ただ、男子部員の数は少なくなくなり、近年は女子部員だけである)、笑いが絶えない明るい雰囲気で行っている。

近年の出品は、県書道展・県総合美術展・県書道教育研究会高校作

品展・県かきぞめ競書大会・県高校総合文化祭などであり、特選・入選を勝ち取っている。平成二四年度には、近畿総合文化祭に出品した。また、農文祭では部員全員が作品を展示するため活動している。さらには、硬筆検定などにも取り組んでいる。

部員は、田中先生をとっても慕っており、和やかな雰囲気で行っている。県総合美術展に出品すると他校の作品に圧倒されるときもあり、和やかな中にも作品の質の向上を目指して引き続き活動していきたい。

(顧問 鈴木 孝典 記)

邦楽部

邦楽部は、永田雅秀先生を講師に迎え、本校の顧問と共に、箏を中心とした和楽器の演奏技術向上を目指して活動している部である。

邦楽部の年間を通しての活動は、校内では、入学式での歓迎演奏、田植祭での演奏、農文祭での演奏である。対外的には、福井県高等学校文化連盟主催の春季演奏会および、福井県音楽フェスティバル日本音楽部門に参加している。コンクール形式のフェスティバルでは、金賞を受賞すると全国高等学校総合文化祭へ出場することができるが、この一〇年間にはまだその機会は得ていない。近畿総合文化祭へは、県内の高校が公平に参加できるようになっている。他には、高齢者施設へ慰問演奏や、夏季休業中の本校農友会館「大地」での集中練習等を行っている。

平成三三年度には、新規に一七弦箏の備品が入り、より環境が整った。この一〇年間の音楽フェスティバル参加発表曲および県外大会の参加状況は次の通りである。

平成一六年 「グラデーション」

平成一七年 「黒田節による幻想曲」

平成一八年 「さくら〜ニューバージョン〜」 銀賞受賞

第二五回近畿高等学校総合文化祭福井大会 出場

- 平成一九年 「海の彼方に」
平成二〇年 「未来花Ⅱ」
平成二二年 「箏と一七弦による三重奏曲」
平成二二年 「炎」
平成二三年 「虹色の風」
平成二四年 「螺鈿」銀賞受賞
平成二五年 「炎」

(顧問 長谷川 智子 記)

吹奏楽部

平成一五年からの部員数は一〇名前後と小規模ながら、農文祭の他、体育祭・壮行会などの式典演奏、学校行事を中心に活動を行ってきた。

平成一六年以降は、卒業式の入退場を担当するようになった。同時
に校外の演奏会参加の機会にも恵まれるようになる。平成一八年度に
は近畿高等学校総合文化祭に福井東地区合同バンドとして参加した。
日頃の少人数での活動では味わえない貴重な演奏体験が出来た。平成
一九年には、福井地区アンサンブルコンテストに出場。平成二〇年に
は、高文連主催の音楽フェスティバルに出場。同年福井県吹奏楽連盟
創立五〇周年を記念しサンドーム福井で行われた「三、〇〇〇人のコ
ンサート」に出演。福井県内から集まった小・中・高校生と大学・一
般団体、三、四〇〇人による吹奏楽団の演奏は迫力満点であった。平
成二二年は、野球部の応援や部員の出身中学でもある松岡中学校文化
祭に友情出演をした。平成二二年には「木管五重奏団」を結成し福井
地区アンサンブルコンテスト出場。平成二三年には、滋賀県彦根市で
行われた近畿高等学校総合文化祭に、福井東地区の羽水高校・高志高

校と合同で参加した。同じ福井東地区バンドで恒例の音楽フェスティ
バルにも参加した(スクーティン・オンザ・ハードロック/ディーブ
・パープル・メドレー)。五〇人を超える大規模バンドでの演奏体験は、
何物にも替えがたい醍醐味であった。同年、「混合編成五重奏団」を
組み、福井地区アンサンブルコンテスト出場(カルメン組曲)。

部員数を問題に抱えながらも、少しずつ活動の幅を広げている。き
ちんとした演奏をしたいという部員一人ひとりの強い気持ちがあつて、
成り立っている現在の吹奏楽部。響きのある、ハーモニー感を重視し
たサウンドを目指した活動をしていきたい。

(顧問 稗田 浩子 記)

演劇部

演劇部は、平成一六年からは五名から一七名の部員で活動を行って
きた。主な活動として、福井県高校演劇祭、農文祭、弥生祭での上演
がある。平成二一年より、防犯意識を高める啓発活動の一環である福
井治安アカデミー演劇祭にも出場するようになり、上演の機会が増え
た。また、春季、秋季には県下の高校演劇部が一同に会し行う合同研
修会にも参加し、技術を磨いている。平成一六年、第五八回福井県高
校演劇祭にて、「世界の終わりの物語」(作、やまとけいぞう氏)で
舞台美術賞受賞、平成一八年、第六〇回福井県高校演劇祭にて「クロ
スロード」(作、石原哲也氏)を上演し銀賞、平成二三年度第六五回福
井県高校演劇祭にて「明日咲きたね」(作、楽静氏)の上演で、特別賞
(チームワーク賞)を受賞した。また、平成二二年、平成二三年には
福井県防犯協会、福井県職域防犯連絡協議会主催の福井治安アカデミ
ー演劇祭において、「明日も雨降り」(作、鈴江敏郎氏)「タバコの後始
末」の一五分劇を上演し、優良賞を受賞している。

近年、アニメの人気から、声優に興味を持ち演劇部に入部する生徒もおり、かつては女子部員のみであった演劇部で男子生徒の入部増加が見られることは、とても嬉しいことである。最初はセリフ読みの方に関心が強い生徒たちも、日々の練習や上演を経験することで、身体表現でもあり、間合いの妙である演劇に徐々に魅了されていくようだ。四季を感じながら青空に届けとばかりに行う大地前での発声練習や、相手を感じ、自分を常にニュートラルな状態にしておかねばならない台詞の掛け合いなどは、生徒の心身の解放にもつながっているようにも思われる。ある生徒は「上演前の緊張感がたまらない」と口にしていった。どの部活でもそうだが、演劇もまた、相当の集中と、プレッシャーがかかる。その中で、上演を楽しもうという生徒のこの一言は実に頼もしいものであった。一回、一回の上演で、生徒が作品と向き合い、仲間と意見を出し合いながら成長していく姿は実に誇らしい。また、練習の中で、一つの紙面上の戯曲が、生徒たちによって立体的になっていく瞬間、音響や照明、舞台セットが重なり、劇が重層的になっていく瞬間は何よりわくわくする時である。この、劇を作り上げていく過程と、観客との間に生まれる一体感が演劇好きの生徒の大きな成長に結びついているものと信じていたい。尚、本番が近くなると練習は大地をお借りしている。劇場の広さを考えると、大地での練習は大変ありがたいものである。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(平成一七～二三年度顧問 伊藤 貴子 記)

放送部

平成一四年から県内の大会に再び参加するようになった放送部であるが、一五年には全国高校放送コンテスト福井県予選テレビドキュメントの部に「いっぺん乗ってみ、スマイルバス」という作品で努力賞を受賞した。翌一六年には同大会同部門で「非常事態発生！ ～もしも鳥インフルエンザが～」という作品で優秀賞を受賞した。話題のタイムリー性や出演生徒の独特の語りもあって印象深い作品となった。その後は部員不在の状態が続き、顧問が関心ありそうな生徒に声をかけたが、大会参加は出来ず、学校行事や集会時の放送設備準備等の裏方的な活動を続けるだけとなった。

しかし、二三年になって新入生三名が入部し、三名とも未経験者であったが、久々にアナウンス技術講習会や、テレビ・ビデオ制作技術講習会に参加するなど意欲的に活動し、その年の福井県高校放送コンテスト新人大会ビデオメッセージ部門にも、「消えた伝統野菜―新保ナスの復活に挑む―」という作品を出品し、奨励賞を受賞した。本校生徒と小学生や地域の方たちが協力して福井県農事試験場にわずかに保存されていた種を栽培して、数十年ぶりに新保ナスを復活させた活動の記録をたどった作品であるが、記録も少なく、技術の未熟さもあるってDVDに焼くことが出来ず、パソコンのままで出品するということになった。

今後も農林の活動を制作していこうと計画していたが、部員が一名となり、対外活動が困難となって、二三年からはまた学校行事や集会時の放送設備準備等の裏方的な活動を続けるとともに、オープンスクールでの「学校紹介ビデオ」の制作も行っている。

(顧問 岩尾 弘康 記)

JRC部

JRC部では例年二〇名前後の加入があり、「ひとのために何かをして差し上げよう」をモットーに活動している。部員の意識は様々で、かつ、部員は女子のみだが何かをやるうというときには協力し合い、和気あいあいと女子パワーで乗り切っている。

この一〇年間の最初の数年間は農文祭で手話コーラスを披露していたが、最近ではその代わりに手作りのシユシユ、巾着、箸袋などを販売し、売り上げを寄付するようになってきている。材料には家から持ち寄った端切れなどを再利用し、なるべくお金をかけず作るよう心がけている。募金先としてはその年の状況を考え、WHOやあしなが育英会、東日本震災への募金に協力した。何を作るか、どういった所に募金するか、生徒達が慎重に考え決定している。

校外活動としては盲学校との協力の機会が多くなっている。特にまどか祭り（盲学校寄宿舎夏祭り）にはずっと参加・協力をしている。当初は「来てその場にくれるだけでいい」という程度の参加だったが、だんだん売り場のお手伝いを任されるようになったり、盲学校の生徒達に直接触れ合う機会を作っていたるようになっていく。また体育祭に呼んでいたこともある。

また近隣の老人施設の夏祭りにも呼んでいただき、屋台販売などのお手伝いをした。生徒達は積極的にお手伝いをし、たいへん感謝された。そのほかにも、これまで校内でのゴミ拾い、国際交流のお手伝い、福井市（啓蒙地区）総合防災訓練に参加、福井地区特別支援学校学習会でのボランティア活動、交流広場でのボランティア活動などを行ってきた。今後も校内・校外問わず、なるべく多くの活動に積極的に参加していきたいと考えている。

（顧問 野田 恵美 記）

合唱同好会

平成一五年、第二七回全国高等学校総合文化祭福井県大会に向け、合唱部のない学校にも「福井県合同合唱団」への募集があり、同好会を結成した。

平成二一年には、運動部を引退した三年生を中心に男子七名のアカペラユニットを結成し「音楽フェスティバル合唱部門」に出演した。現在は、農文祭発表など学校行事を中心に活動している。

（顧問 稗田 浩子 記）

生物生産部

生物生産部の前身は、作物機械部と園芸科学部であり、平成一七年まではそれぞれ活動を行っていた。作物機械部では作物や農業機械の分野に関する活動を、園芸科学部では園芸の分野に関する活動を行っていた。平成一八年からは、作物生産に関する活動を行う生物生産部と、植物バイオテクノロジーに特化したバイオサイエンス部に再編成された。生物生産部では、生産部門である作物、野菜、草花、果樹などの農産物生産に関する活動を行うようになった。その活動は、本校の「ふれあい農園」の一部で野菜や作物の栽培学習を行っている。編成当初は部員も少なく、ほぼそと活動してきたが、平成二三年度からは多くの新入部員とともに活動を行っており、生物生産科以外の生徒も所属している。毎年収穫時期には取れたての農産物を食し、自ら栽培した農産物のおいしさを味わっている。

最後に、これまでの部名及び顧問を記し、一〇年間のまとめとする。

平成一五年度 作物機械部（笹口・中山・野路）

園芸科学部（山下・前田・高嶋）

平成一六年度 作物機械部（笹口・前田・野路）



バイオサイエンス部

平成一七年度	園芸科学部 作物機械部 園芸科学部	(山下・蓮浦・高島) (細川・前田・野路) (山下・蓮浦・多田)
平成一八年度	生物生産部	(山下・前田)
平成一九年度	生物生産部	(山下・畠田・前田)
平成二〇年度	生物生産部	(山下・畠田・前田)
平成二一年度	生物生産部	(山下・近間)
平成二二年度	生物生産部	(山下・近間)
平成二三年度	生物生産部	(山下・近間)
平成二四年度	生物生産部	(渡邊・近間)

(顧問 渡邊 則子 記)

平成一五年四月よりバイテク部となり、園芸科学部一年生二名、二年生三名、三年生二名、顧問の先生が山下友幸先生と高島洋征先生によりスタートした。さらに、平成一八年四月より蓮浦義之先生と多田一晴先生のもと現在のバイオサイエンス部になり、平成二〇年より顧問嶋田、齋藤訓弘先生が担当し現在に至っている。

バイオサイエンス部は、バイテク部より引き継がれた農業系の部活動である。植物培養技術を基本として草花や野菜の植物培養を行ってきた。平成一八年より、バイオサイエンス部では、目指せスペシャリストの研究教材である伝統野菜「新保ナス」保存栽培をテーマに活動している。このテ-

環境緑化部

マでは、現在の新保ナスの発芽栽培実験からスタートし、地元の特産である新保ナスの栽培・採取と取り組んできた。毎年、採種し、栽培を行い、形質の変化の調査を行い、種(種子)の保存を行っている。さらに、放射線や紫外線を利用することによる新保ナスの形質転換ができないかとチャレンジしてきた。現在のバイオサイエンス部では、従来どおりの無菌操作による植物培養基本技術の習得と茎頂培養やプロトプラスト実験等を学習している。今後も地元の特産である「新保ナス」を教材として保存活動を行っていきたいと思う。

(顧問 嶋田 宏行 記)

「校内の緑地は私たちが管理する」

平成二五年環境緑化部は三工五名の環境緑化コースの生徒を中心に活動している。本校には大きく五つの緑地があり、校門の左右を中心とした緑地。苔と池を中心とした和風庭園、枯山水の周囲に芝を配した現代和風庭園、池と藤棚を備えた洋風庭園。さらに農友会館「大地」に面し、円形にブロックをはめ込んだ庭園で構成されている。

これらの庭園を季節に応じ、刈り込みや剪定作業を行う。夏には芝を短く刈り込み白砂による涼感を感じさせ、秋にはドウダンツツジに代表される紅葉で目を楽しませ、初冬にかけては銀色の雪に調和と立体感を演出する雪囲いを施す。また、害虫の出る季節には適切な処置を行う。庭園管理は一年を通じ、作業が切れることがない。美しさを極めようと思えばきりがなく、広い敷地をくまなく、一定の質を維持していくことが実に難しく楽しい。三年間この部活動に在籍した生徒は、あまり自分自身の自覚がないままに管理技術が上達していく。白砂の線をトンボで描く作業、現代和風庭園は渡り廊下から作業中も注

目を集める場所にあり、作業中に覗いて行かれる来客の方、声を掛けてくれる先生方も多く、最初は難しい作業を敬遠していた生徒も多かったが、学年が上がるごとに「この線を描けることは名誉なこと」と言わんばかりに今回は誰々の作品と言いつつ合点ながら懸命に線を描いていく。その横顔はまさしく造園技能士の卵であり、今後の成長が楽しみになる瞬間である。そして今日も、渡り廊下を歩くとき庭園を横目に見ながら管理者しか気づかない目線で、思わずにやけてしまっている。この多くの庭園を守るのが我ら「緑化部」の使命であるのだが、ひとつ寂しいことがある。数年後に開かれる福井国体に伴う道路拡張工事のため校門の両脇にある創立六〇周年の記念樹として植えられたメタセコイヤ三本全てが伐られてしまう事である。環境緑化部の生徒は課題研究の授業で庭園の平面図を作成し、本校の緑地の様子を残そうと努力している。

(顧問 釧内 倫夫 記)

生活科学部

生活科学部は、平成七年から食物部と被服部を統合した部であるが、ここ一〇年間はおもに食物に関する活動を行ってきた。

平成一六年は料理、菓子などを作り、部員の調理技術の向上を図った。また、梅干しを利用した「梅みそ」でできるいろいろな料理を研究した。

平成一七年も一六年同様、料理や菓子作りを行った。

平成一八年からは、菓子作りに絞った活動を行った。そこで、その成果を発表しようと農文祭に「お菓子の家」を製作した。壁はクッキー、窓はべっこう飴、屋根はクッキーにチョコで模様をつけ、できあがった家の中からは光がもれるように豆電球を入れた。

世のスイーツブームを反映して平成一九年、二〇年も菓子の手作り

に専念した。米粉が話題になったので米粉を使ったスイーツも研究した。

平成二一年からは、料理やスイーツのコンクールに応募するために研究を重ねた。カレー甲子園、スイーツ甲子園などに応募したが入賞することはなかった。

平成二二年も各種コンクールに応募した。その中で第一回福井スイーツグランプリに応募したところ書類審査に通り、決勝大会で二位を獲得した。メンバーは二生家根仁美、黒津優花、吉川莉沙の三名。作品は、「オレンジなすウィーツ」というババロアケーキである。これは、砂糖煮にした新保ナスをチーズババロアの中に入れ、側面をスポンジケーキで飾り、表面をナスの皮から取った紫色のゼリーでコーティングしたものである。

平成二三年も福井スイーツグランプリに応募したところ、チーム名「里芋ガールズ」が決勝大会で優勝した。メンバーは、二生藤田せいり、秋山陽香、大坂沙也香の三名。作品は「さといもショコラチーズケーキ」で、大野産の里芋を使ったココア入りチーズケーキである。それに赤ズイキのジャムを添えた。審査員のバティシエから高い評価を受け、改良を重ねれば商品化も可能と言われた。その後、商品化できないものかと地域のケーキ店に長谷川智子教諭が打診したところ、里芋の粘りが量産化しにくいと言われ断念した。

平成二四年も福井スイーツグランプリに応募し、チーム名「ぱっつんガールズ」が決勝大会で優勝した。メンバーは、一生藤澤涼子、清水彩花、佃奈々の三名。入賞作品は、福井県産の米粉、ほうれん草、越のルビー、坊ちゃんカボチャを使用したロールケーキである。緑、黄、赤と色がカラフルなことが評価されたようで、見事優勝することができた。

平成二五年も福井スイツグランプリに応募したところ優勝することができ、三連覇を果たした。チーム名は「農林っ子」で、メンバーは二生高見麻世、清水彩花、佃奈々の三名である。テーマは福井の観光名所を表現すること。そこで、清水が越前海岸にいる祖母をよく訪れていたのので、皆で越前海岸をイメージしたスイツを考案した。ロールケーカーの表面にクランチを塗り、それを立てることで越前海岸のごつごつした岩を表現した。また、水仙の花を坊ちゃんかぼちゃとさつまいもで表現し、水仙の葉をかぼちゃの皮で表現した。ロールケーカーを立てるといふ斬新さが評価されたようだ。

(顧問 稲葉 美代子 記)

生産流通部

生産流通部は、平成一四年に生産流通科の専門性を深める部活動の展開を目的に、前身の流通経済部を改編して設置された。

ここ一〇年の部活動は、平成一五年の創立一一〇周年に合わせて完成した「ふれあいハーブ園」を素材として展開されている。生産流通科や生活科学科の生徒は教科「草花」「生物活用」などでハーブのことについて学習するが、その実践圃場を、時のハーブブームにあわせて一般開放したのが「ふれあいハーブ園」である。

部員は生産流通科の女子生徒を中心に構成されており、少ない時は部員数二名のときもあったが、毎年およそ十数名が登録して地道に活動している。ハーブ園ができた初期の頃は、地元小学生を対象にハーブを使った体験学習などの交流活動も行われたが、最近はハーブ園の栽培管理やハーブを使った菓子作り、ハーブティー、ポプリの作成などが主になっている。生徒たちは、ハーブの播種、定植、除草、剪定など一年を通じた管理からハーブの魅力を知り、ハーブティーやポ

リづくりなどで自分にあったハーブの楽しみ方を見いだしている。今後は、どちらかと言うと内向きに終わっている活動を、ハーブだけにこだわらず、草花なども含めた地域との交流など、外向きな活動が出来たらと考えている。

(顧問 時田 篤 記)

農業情報処理部

この一〇年間の情報技術の進展は著しく、OSはウィンドウズXPからLinuxそして7、8と高速化、マルチタスク化が進んできた。また、インターネット接続用の回線も高速大容量の光通信に変わり、世界中の現在の様子が目の前の現実のように分かるようになってきた。本校でも、パソコン室だけでなく教室に情報センターが設けられて、様々な授業にパソコンやインターネットの情報を活用できるようになってきている。

農業情報処理部は毎年二〇数名の部員が所属して、タイピングのほかワープロや表計算など高資格取得を目指したり、日本学校農業クラブ全国大会農業情報処理競技での入賞を目指して活動してきた。毎年のように部員の中から県代表として全国大会の参加をし、多数の入賞者を輩出してきた。しかし、費用面や競技内容の面で平成二二年北海道大会を最後に実施競技から外されて行われていない。平成二五年の全国大会首都圏大会では、多くの都道府県連盟から実施してほしいという要望や、情報大学の協力も得られたことで、公開競技としての実施が可能となった。久しぶりの全国大会への参加、入賞を是非目指すとともに、今後も部活動の目標として全国大会の競技種目となることを希望している。

(顧問 齋藤 浩一 記)



農業クラブ全国大会農業情報処理競技

年度	全国大会	参加者(県代表2名)
平成14年	京都大会	井上浩見 高嶋恵美
平成15年	秋田大会	蔵 里枝
平成16年	神奈川大会	小鍛治典子 西村香織
平成17年	岐阜大会	稲葉勝士(優秀賞) 村上真理
平成18年	愛媛大会	稲葉勝士(優秀賞) 竹内絵里
平成19年	広島大会	堂山友里
平成20年	佐賀大会	吉田耕平(優秀賞) 堂山友里
平成21年	茨城大会	佐竹真未子 安川 恵
平成22年	北海道大会	丹羽陽香(優秀賞) 橋本あかり(優秀賞)
平成23年	未実施	
平成24年	未実施	

環境土木部

環境土木部としての過去一〇年間の活動を振り返る。

この一〇年間の活動の中で特筆すべきことは、第八回日本水大賞で、「大賞」を受賞したことである。前顧問の笠羽教諭のもと、平成一四年から一七年までの農業水路への設置を目的とした水田魚道の開発活動が評価され、足羽川堰堤土地改良区とともに合同受賞した。平成一

八年には水大賞の授賞式があり、秋篠宮殿下が参加される中で、堂々と成果発表を行った。また、この活動内容を平成一九年に大野で開催された、「湧水保全フォーラム全国大会 in 越前おおの」の中で特別発表を行った。平成二〇年に京都で開催された「子どもの水辺保全フォーラム全国大会 in かねおか」に招待され事例発表を行ったりと、全国的にも注目された。

研究活動としては、水田魚道の研究を中心とした活動と平成一六年に環境工学科として校内に造成したビオトープのモニタリング調査と管理を行っている。平成二四年からは、松田教諭の指導のもと、タイリクバラタナゴの異性選択の実験や、魚類の耳石を利用した回遊履歴の解明など、新しい視点での研究活動を行っている。

農業クラブ活動としては、毎年、平板測量競技に参加している。プロジェクト発表にも、平成一九年には「農業水路への設置を目的とした水田魚道の開発」、平成二五年には「魚類の耳石を利用した生活環境の解明」をテーマとして出場し、平成一九年には北信越大会で最優秀賞を受賞し全国大会に出場した。

今後も、専門分野の内容を深められるような活動を生徒とともに行っていきたい。
(顧問 吉田 幸人 記)

野球部

平成一六年度 主将・長谷涼也

前年秋に福井商業を倒し、敦賀気比とも接戦を演じたチームは、春季県大会ベスト八に入り夏への期待も高まった。しかし、大会前に県内屈指の左腕エース田中が故障。その穴を埋めようとチーム一丸となって戦った。中学時代控え投手だった木下が、当時の主戦に投げ勝った姿が印象深い。

平成一七年度 主将…森 哲治

春季県大会は一・二回戦ともに投打が噛み合いコールド勝ちでベスト八入り。主戦小西は二回戦五回参考ながらパーフェクトピッチングを見せた。六月には米国ハワイ州高校選抜チームを迎えて日米親善高校野球大会が県営球場で行われた。県選抜の一員として森が選ばれ、捕手として勝利に貢献した。

平成一八年度 主将…小林伸次

前チームからレギュラーで活躍した選手が多く、強力打線で勝負した。投手陣はコツコツと努力を重ねる選手が多く、互いに切磋琢磨しながらレベルアップに励んだ。打線の核であった主砲小林は、金沢星稜大学進学後も打力を買われ二年次から指名打者として活躍。全日本大学野球選手権に出場し、東京ドームの打席にも立ち、福井農林野球部の歴史に大きな一歩を残してくれた。

平成一九年度 主将…長谷龍也

抜群のキャプテンシーを発揮した長谷が個性派集団をまとめ上げ、選手権福井大会ではベスト八に入った。初戦、延長サヨナラ勝ち。二回戦、槌爪が放った右越えHR。準々決勝、敦賀気比投手陣から執念のヒットを放った長谷。どれも鮮明に思い出すことができる。

秋季県大会では、部員一六人ながらベスト四に進出。特に、準々決勝足羽戦では、八回表六点差からの大逆転で二三年ぶりの北信越切符を掴み取った。地元開催となった北信越大会では、初戦に長野県優勝校の丸子修学館と対戦。六点を先行される苦しい展開だったが、持ち味の粘りで終盤二点差まで猛追した。結果初戦敗退となったが、相手はこの大会で北信越王者となり、翌年の選抜大会に出場したので大健闘といえる。大会後は、はつらつとしたプレーが評価され、二一世紀枠候補校(福井県推薦校)に選出された。北信越ブロック選考からは

漏れたが、甲子園出場に近づく大きな一歩となった。

平成二〇年度 主将…西野雄稀

シード校として出場した春季県大会は初戦で延長サヨナラ負け。選手権福井大会でも初戦敗退。主戦形山の故障に加え、プレッシャーに押し潰された形で本来のプレーができなかった。しかし、高校野球らしい一生懸命さを見せてくれた三年生は、結果以上に大きな財産を残してくれた。卒業記念として寄贈していただいた、バックネットに掲げられている言葉「凡事徹底」は、まさにこの時のチームを表す言葉である。

平成二一年度 主将…三ツ山貴大

前チームから活躍した森―三ツ山のバッテリーが中心の若いチーム。春季県大会後に事件は起こり、主戦を含む三年生三名が練習参加を禁じられた。六月によくやく復帰し、チームは結束力を高めて夏の大会に挑んだ。初戦、雨中の打撃戦は降雨ノーゲームとなり、翌日の再試合で敗れた。三年生が僅か四名と厳しい状況でも、北信越を戦った経験とプライドでチームを牽引してくれた。

平成二二年度 主将…梅田 翔

故障でプレーできない主将が、人一倍声を出しチームを鼓舞し続けた。人間的に大きく成長した主戦竹内を柱に、夏の初戦北陸と真つ向勝負。スクイズを決められず、逆にスクイズで延長サヨナラ負けを喫した。

秋季県大会では、主戦増成の投打に渡る活躍でベスト八に進出。準々決勝の福井商業戦も後半一点差まで追上げたが、犠打や走塁でのミスが響き敗れた。

平成二三年度 主将…稲葉真悟

最速一四三km/時の速球と縦のスライダーを武器に県内屈指の好投手に成長した増成と、主将を中心とした鉄壁の守備陣で甲子園出場を目指した。しかし、春夏ともに初戦で散り、勝つことの難しさを痛切

に感じた。増成は、阪神大学野球連盟に所属する天理大学で野球を続けている。平成二五年には、小林に続き全日本大学野球選手権に出場。神宮のマウンドを経験できたことで、今後更なる進化を遂げるであろう。

平成二四年度 主将・高橋俊哉

前年の夏、新チーム結成以降の四大会全てにおいて、工大福井に敗れた。一対二の七回コールドから始まったチームが、春季県大会では四対三の一点差まで追い上げる、素晴らしい成長を見せてくれた。選手権福井大会は、初戦サヨナラ負け。武器の機動力がごとごとく失敗し、好機を生かし切れず、好投の主戦角谷を援護できなかった。

平成二五年度 主将・砂谷海樹

選手権福井大会では二三年振りの四強進出を果たした。大会前の練習試合は大敗か引き分けが殆どで、重苦しい雰囲気のまま大会を迎えた。初戦、七回裏二死満塁。主砲清水の弾丸ライナーが左翼頭上を越え一気に逆転勝ち。二回戦はシード校相手に主戦宇随が好投し、最後は吉川のサヨナラヒットで延長戦に蹴りを付けた。準々決勝は八回を終え五点ビハインド。しかし、九回裏に怒濤の連打で一気に同点に持ち込み延長戦へ突入。最後は河野が左翼席にHRを打ち激闘を制した。準決勝の福井商業戦は、初回中軸の三連打で先制するも、守備の乱れから逆転を許し最後まで追いつくことが出来ず決勝進出を逃した。今回の躍進は、チームメイトへの思いに加え、父母会からの目が覚めるような激励の言葉、農球会からの熱い声援、学校挙げての大応援など、数多くの要因が挙げられる。しかし、何よりも二年半の厳しい練習を乗り越え、強い結束でチームを牽引した三年生の力こそ、逆転の連続で勝ち上がった最大の要因であったと感じている。

「人間性が野球に表れる。ユニホームの着脱で、グラウンド内外で

態度を変えるな。高校球児に相応しい言動を心懸け、皆から愛される、応援される人間の集団であれ。」二一年間監督をさせていただいて、多くの指導者から学んだ高校野球像である。福井農林高校野球部がこの言葉を実現したとき、夢の扉は開かれると信じている。

(顧問 島田 克久 記)

サッカー部

サッカー部は今年で創部六〇周年を迎え、過去には輝かしい伝統を築いて下さった先輩、指導者がおられた。卒業後も、多くの卒業生が選手や指導者として福井県サッカーを盛り上げ、県内サッカーの活性化と普及に貢献されている。

サッカー部は、この一〇年間 山崎市兵衛実習教諭は部長として変わらず就任し、顧問として次の方が歴任された。

平成一六年～二〇年度、 八杉秀樹 教諭(現 武生高校教諭)

平成二一年度 高崎裕武 教諭(現 農業試験場)

平成二二年～二四年度 寺井隆人 教諭

この一〇年間で変わったことは、平成二〇年より、春季強化大会に変わって福井県ユースリーグが始まった事である。平成二一年より福井県ユースリーグは、前期・後期制に変わり、通年通してリーグ戦でサッカーを行う(日本サッカー協会推奨)事が福井県の高校サッカー会に新しく加わった。本校サッカー部はF3リーグに所属し、その年は、Bグループ2位に付けている。平成二二年は、県民体育祭も福井県ユースリーグとして扱うようになり試合数も増加した。本校はF3リーグで2位となり、入替戦にも勝ちF2リーグに昇格した。平成二三年は、F2リーグではなかなか勝てずF3に降格する苦い経験もしている。現在は、F3リーグの中で生徒たちは日々の練習に一生懸命

取り組み汗を流している。近年部員の減少で、助人を借りて新人戦を戦うなどの苦しい思いをしているが、地道な練習が実り初戦突破ができるようになってきている。

最後に歴代続いている部の方針を列記する。

一、日々の練習を通して、強い体と健全な精神をつくることを目指し、また勉強と両立させ部活に片寄らない人間を養成する。
一、日々の部活動の中で礼儀、師弟関係、上下関係、物を愛する気持ち等を学ばせる。

一、各大会、練習試合などで上位入賞を目指し、勝負強い人間を醸成する。また、サッカーを通じて他校生との交流の輪を広げる。

本校一〇〇周年記念史(山崎市長衛 記)より引用

(顧問 寺井 隆人 記)

相撲部

平成一六年より、私の恩師、田畑輝彦教諭から相撲部顧問を引き継いだ。

部員は四名、監督就任一年目は、夏のインターハイと、春のセンバツへの団体出場権を逃がした。二年目は、有望な新入生二名を獲得。インターハイ予選は、通常なら団体戦五名で戦う所を本校は四名で出場した。何とか接戦を制し、監督就任して初のインターハイ出場を決めた。インターハイは千葉県で開催され、団体戦は健闘するも予選敗退だった。監督就任三年目、新入生はゼロ。部員は総勢でも三名と厳しい状況が続いた。三名では団体戦はともに戦えない。そこで、柔道経験のある三年生を二名借りて予選から五名で出場した。助っ人の活躍もあり、何とか県予選三連覇を果たした。インターハイは和歌山県で開催され、昨年に続きまたも団体予選で敗退となった。四年目は

念願の新人部員が三名も入った。この年から安定して成績が残せるようになった。やはり総部員数が多ければ、その分活気ある稽古ができ、試合でも好成績を残せるようになった。五年目から平成二四年まで、しっかりと連覇は果たし続けている。平成二四年までインターハイ予選は八連覇、春のセンバツ予選は七連覇である。これからも、相撲部OBの先輩たちや県相撲連盟役員の皆様方のお力をお借りしながら、今後の相撲部がさらに全国で活躍できるように、毎日の稽古に精進していくように思う。

【近年五年間の戦績】

平成二〇年度 インターハイ 団体三二強

平成二一年度 インターハイ 団体一六強

平成二二年度 インターハイ 個人八強 上中 諒選手 ※平成四年以来・一七年ぶり

平成二三年度 全国高等学校相撲金沢大会 団体一六強 ※県勢三八年ぶり

平成二四年度 インターハイ 団体三二強 ※平成一〇年以來・一三年ぶり

平成二五年度 全国高等学校相撲選抜大会 団体三二強

平成二六年度 インターハイ 団体三二強

平成二七年度 全国高等学校相撲金沢大会 団体一六強

平成二八年度 インターハイ 団体三二強

平成二九年度 全国高等学校相撲選抜大会 団体三二強

平成三〇年度 インターハイ 団体三二強

平成三一年度 全国高等学校相撲選抜大会 団体三二強

【マスメディア採用・出演】

平成一八年 六月二六日 FBCテレビ

平成二〇年 三月二九日 福井テレビ「チカッペ」
「リアルタイム福井」部活の細道

平成二二年 一月二日 福井テレビ「日中韓三国共同制作番組

ぐるっとアジア 誇りを胸に！国技の世界」

九月七日 福井テレビ「いゝざあええDay」

平成二二年 一月二六日 NHK福井「ほやほや気分」

〜5050ふくいのため〜

二月一八日 GAORA「笑い飯の笑うスポーツ飯」

九月二四日 NHK福井「ニュースザウルスふくい」

(顧問 福島 祐樹 記)

陸 上 部

「時間厳守」練習集中」課題意識」

平成二二年四月、私が福井農林高校に着任し陸上部顧問となった時に掲げた練習約束である。

そして、「競い合い」「支え合い」「励まし合う」というスローガンのもと、部員達は毎日練習に励んでいる。

現在部員数は、三年生七名 二年生七名、一年生七名 計二一名である。ほとんどが中学校の時に陸上経験者ではないが、陸上競技を好きになり、和やかな雰囲気の中にも、厳しい練習をみんなで乗り越えていくという意識がある。そして自己新記録はもちろん、北信越大会・インターハイ出場を目指して毎日頑張っている。

顧問は小竹正仁教諭(現羽水高)が長年福井農林校陸上部を創り上げ支えてきてくださり、多くの北信越やインターハイ出場選手を輩出された。特に、今や日本でトップクラスのハードラーの村尾裕紀選手を育て上げられたことは特筆されることである。平成二二年の一年間は一緒に顧問をさせていただき、初めての高校勤務だった私は、多くのことを学ばせていただいた。私はまだ五年目で、何とか毎年北信越

大会出場選手は育ってくれているが、是非インターハイ選手を育てたいと日々部活動に情熱を燃やしている。

陸上競技は個人競技ではあるが、福農陸上部としてのチーム力を大切にし、その中でインターハイ選手が育っていく部活動でありたいと願っている。春の三国合宿、夏の大野合宿は恒例になっており、体力・技術の向上を目指すとともに、福農陸上部としてのチームづくりも大きな目標としている。

また、陸上部通信も年間三〇号前後発刊し、毎月の子定や大会出場連絡・結果等の連絡や意欲喚起のための格言(?)等も掲載して、少しでも陸上競技を好きになり、陸上競技の楽しさや強くなるためにどうあるべきかなどを伝えている。

部活動中は、技術指導はもとより、いかに生徒達にやる気を持たせるかが重要だと考える。そのために、夢を持たせ、目標を作り、課題を意識させることを念頭に置き、積極的に声をかけている。

私自身がそうであるように、陸上競技を通して、努力することの大切さや仲間の大切さを自覚し、素晴らしい仲間と必死で汗を流したことが、将来、きっと生徒達自身の宝となり支えになることになるだろうと思う。

(顧問 長谷川 巧 記)

テニス部

テニス部は、平成五年に女子テニス部からテニス部に名称を変更し、現在に至っている。校内にはハードコートとクレイコートがそれぞれ一面ずつあるが、クレイコートは日当たりが悪く足が滑りやすいので、普段の練習は専らハードコートで行っている。また、木曜日七時間目や週末は、近くのちぐさ公園や中藤河川公園、天池河川公園などのテニスコートに行き、ミニゲーム中心の練習をすることもある。

平成二四年は、男子一四名、女子九名の二三名で活動を開始した。今年是一年生女子の入部がなく残念だった。活動内容は副顧問の松田先生の長年のテニス指導経験から作られた練習メニューをもとに、毎日暗くなるまでコートで頑張っている。練習では「自主・自立の精神」をモットーに上級生が下級生を指導する中で、互いに切磋琢磨し、技術の向上とスポーツマン精神の向上に励んでいる。なお、男女が仲良く一緒に練習しているのも本校のよき伝統だと思う。

試合は、五月、八月、九月に高体連主催で開催された春季総体、県民スポーツ祭、新人大会に参加した。また、四月と八月に協会主催で開催されたジュニア選手権大会にも参加した。団体戦では、男女とも初戦突破が当面の目標である。シングルス、ダブルスでは全員初戦突破を目標に掲げ、男女ともに健闘し、三回戦、四回戦と進出した選手もいた。最後まであきらめない姿勢や勝利へのこだわりなどは後輩へのよい手本となったと思われる。

最後に、先輩の長所が後輩へ受け継がれて福井農林高校テニス部のよき伝統がこれからも守られていくことを期待している。

(顧問 橋本 健一 記)

卓球部

卓球部は、平成二四年現在、男子一〇名、女子五名で活動している。平成二三年に女子が入部し、平成一七年以降男子のみの大会出場だったが、男女揃って大会に出場することができるようになった。部員数は、学年ごとにはらつきがあり、多数入部する学年がある一方、一名もしくは入部なしといった学年もある。そのような状況の中でも、卓球が好きで入部し、粘り強く活動を続けてきている。また、高校に入ってから卓球を始める生徒もおり、中学校からの経験のある生徒が中

心となり、生徒同士で練習を組み立てている。

試合は、六月の春季総体、七月の県民スポーツ祭、十一月の新人大会を中心に出場している。個人戦のシングルスでは、三回戦、四回戦と進出する生徒がいるが、団体戦での当面の目標は初戦突破である。ダブルスを苦手とする生徒が多く、今後強化していく必要がある。生徒と共に試行錯誤の部活動運営だが、経験者を中心により上位を狙える実力をつけてくれることを期待している。(顧問 塚倉 知美 記)

剣道部

「感謝と思いやりを忘れず」

剣道部は平成二四年現在、男子七名で活動している。私が顧問を務めているのは五年前からだ。部員は男女とも少人数で、それぞれがやと団体戦が組める状況である。こんな苦しい状況だが、部員は毎日明るく元気に活動している。

剣道部に入部してくる生徒は、中学校時代の経験者が多いが、何名かは高校から剣道を始める生徒もいる。このような場合には、全体練習後、経験者が居残りで教えてくれている。これは顧問から指示したわけではないのだが、何年も前から続いている。ことあるごとに生徒に話していることがある。それは「剣道というスポーツをする前に、高校生として毎日登校できることに感謝しよう。家族の支えがあつてこそ今の自分がいることを見つめ直し感謝しよう。部活とはクラス、学年を超えて集まった同じ志を持つ人間の集まり、だからこそ気配り思いやりを忘れずに毎日を過ごそう」ということだ。その言葉の表現の一つが、技術が追いついていない部員を教える気持ちと、早く追いつかなければと頑張る気持ちとの双方の思いやりだと考えている。平成二四年の春季総体男子団体戦では抽選の良さもありベスト八に進出

した。私自身もまさかと思ったが、先鋒から大将までそれぞれが力を出し尽くした結果だと感じている。これからも部員一人一人が感謝と思いやりを忘れず精進していきたい。（顧問 釵内 倫夫 記）

男子バレーボール部

私は平成一八年四月に福井農林高校に着任し、男子バレー部顧問となった。

部員数は、平成二五年四月現在、三年生七名 二年生六名、一年生八名 計二一名である。

男子バレーボール部は、この一〇年間で、近藤貞則教諭・宇城敏史教諭が正顧問、野路正春実習助手・刃田慎吾実習助手が副顧問に就任し指導にあたってきた。

この一〇年間の成績は、近藤貞則教諭が監督を務めた平成一五年春季総体で準優勝し、北信越大会に出場した。宇城敏史教諭が監督を務めた平成二〇年県民スポーツ祭第三位、平成二二年全日本選手権福井県予選会（春の高校バレー）第三位、同年新人大会第三位（北信越新人大会出場）、平成二三年県民スポーツ祭第三位、全日本選手権福井県予選会（春の高校バレー）第三位、平成二五年春季総体第三位、全日本選手権福井県代表決定戦進出、新人大会準優勝である。

また、平成二三年には、フジテレビ主催のコーチングキャラバンを受けた。このコーチングキャラバンは、各都道府県で全国大会出場を目指している学校に、元全日本選手等の優秀なコーチを派遣して、強化のサポートをするという事業で、この年がコーチングキャラバン最後の年であった。

元全日本で、ジェイテクト監督（現在はトヨタ車体監督に就任）の泉川正幸氏（宇城敏史とは大学の同級）がコーチとして来校。能登で

行われた合宿と、本校での練習で指導を受け、選手として、チームとしてのあり方等指導をしていただいた。なお、この模様は、福井テレビ「チカッペ」という番組で放送され、部員たちにとっても思い出に残る出来事だったと思う。

我が男子バレーボール部は文武両道を目指している。この七年間で、日本体育大学 東京農業大学 県立大学、福井大学へ進学した。大学卒業後、体育教員を目指し採用試験を受けている部員もいる。また、部活動を通じて、仲間を信頼する、仲間と団結する、そして何事にも闘志を燃やす姿勢を養い、社会に出て通用する人材を育てていきたいと思う。また、六年後の福井国体で、選手として、大会役員としてより多くの卒業生に携わってもらうことを願っている。

（顧問 宇城 敏史 記）

レスリング部

本校のレスリング部は、平成一〇年に同好会から出発して、翌一年に部活動に昇格し、一四年目を迎えた。中学校にはない競技ということで、みんな初心者からのスタートだったが、競技人口が少ないこともあり、一生懸命練習に励めば、県の代表として北信越大会やインターハイ、国体など出場することができた。

創部四年目には団体戦で北信越大会に出場し、一〇年目の平成二〇年には県高校総体団体初優勝を成し遂げ、インターハイに出場することができた。翌年も県高校総体で優勝し、二年連続でインターハイに出場を果たした。その後も、個人戦において多くの選手が、北信越大会やインターハイ、国体に出場し続けている。

現在は、創部以来指導をしていただいたいでいた、山本公裕教諭が転勤となり、後を引き継いだ西田耕一朗コーチに指導を仰ぎ、練習に励ん

女子バレーボール部
●福井農林高校女子バレーボール部のあゆみ（H16～H24）

平成一六年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対高志	
				2-0	対丹南	
			1回戦	0-2	対高志	
	春季総体	6月	予選	0-2	対三国	
				2-0	対丸岡	
平成一七年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	1-2	対敦賀	
				2-0	対若狭東	
			1回戦	2-0	対藤島	
			2回戦	0-2	対足羽	
	春季総体	6月	予選	0-2	対敦賀	
平成一八年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対三国	
				0-2	対鯖江	
	春季総体	6月	予選	0-2	対三国	
				0-2	対丹生	
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	棄権	対藤島	
平成一九年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対丹生	
				0-2	対大野東	
	春季総体	6月	予選	0-2	対大野	
				0-2	対福井高専	
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	2-0	対丸岡	
平成二〇年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対大野	
				0-2	対勝山南	
	春季総体	6月	予選	0-2	対大野東	
				0-2	対金津	
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	0-2	対若狭	
平成二一年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対三国	
				2-0	対大野東	
	春季総体	6月	予選	2-0	対藤島	
				0-2	対武生	
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	0-2	対福井	
平成二二年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対大野	
				1-2	対丸岡	
	春季総体	6月	予選	2-1	対丸岡	
				1回戦	0-2	対美方
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	1-2	対武生	
平成二三年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対高志	
				2-0	対勝山南	
	春季総体	6月	予選	0-2	対敦賀	
				2-1	対丸岡	
	県民スポーツ祭	8月	1回戦	0-2	対武生商業	
平成二四年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対武生	
				2-0	対藤島	
	春季総体	6月	予選	2-0	対藤島	
				1回戦	0-2	対丹生
	県民スポーツ祭兼全日本バレーボール高校選手権大会県予選会	9月	1回戦	2-0	対鯖江	
平成二五年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対啓新	
				2-0	対藤島	
	春季総体	6月	予選	2-0	対藤島	
				1回戦	0-2	対丹生
	県民スポーツ祭兼全日本バレーボール高校選手権大会県予選会	9月	1回戦	2-0	対鯖江	
平成二六年度	県高校バレーボール選手権大会兼中部日本6人制大会予選	4月	予選	0-2	対敦賀	
				2-0	対鯖江	
	春季総体	6月	予選	0-2	対敦賀	
				2-0	対鯖江	
	県民スポーツ祭兼全日本バレーボール高校選手権大会県予選会	9月	1回戦	0-2	対福井高専	

（顧問 浅井裕美子記）

でいる。
 本年度は福井国体に向けて強化推進校の指定を受けた。大変名誉なことだが、もっか部員不足が一番の課題であり、来春にはたくさん
 新入部員が入ってくれることを期待している。

卒業後も大学で活躍する選手や、県民スポーツ祭に参加して、国体予選に挑んで戦う卒業生の姿に、後輩たちは励まされ、日々の練習に努力している。今後も「部活動を通して人間形成」を目標に日々精進していききたい。
 （顧問 田原康治 記）

各部顧問・生徒数一覧（平成6年～15年）

数字は部員数

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
文	文芸	木藤 4	山形 19	山形・竹原 22	山形・岩尾 27	山形・岩尾・野田 21
	演劇	橋本宏・松下 7	橋本宏・松下 7	伊藤・末本・野田・時田 5	伊藤・末本 5	加藤・末本 4
	美術	笹口・藤野 25	藤野・笹口 8	長谷部・笹口 5	長谷部・笹口 7	笹口・酒井勇 14
	書道	山下・田中 4	田中・山下 13	田中・西澤 23	田中・西澤 18	西澤・田中 16
	吹奏楽	宇野・出口 10	宇野・出口 17	宇野・出口 19	宇野・堂埜 14	宇野・佐々木 15
	放送	竹内眞 4	吉田・近藤 1	吉田・八杉一 1	吉田・野田 1	吉田・蓮浦 2
	邦楽	青山・茨山・永田 7	青山・長谷川智・西澤 13	青山・長谷川智 6	青山・長谷川智 7	長谷川智・竹原 6
	茶華道	平馬・野坂 13	平馬・野坂 13	平馬・野坂 6	平馬・野坂 7	平馬・酒井麻 13
	J R C	松川 33	松川・下牧 22	松川・下牧 26	土谷・下牧 11	谷口・下牧・土谷 19
	郷土芸能	岡田・橋本靖・馬場 52	岡田・橋本靖・馬場 45	岡田・南(橋本靖)・馬場 41	岡田・橋本靖・末本 32	岡田・橋本靖・谷口 33
軽音楽	出口 4	出口 1	出口 2			
合唱		宇野 0	宇野 2	宇野 0	宇野 0	
		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
化	文芸	岩尾・長谷川恵 15	塚倉・長谷川恵 14	中山恵・塚倉 20	中山・塚倉 19	中山・塚倉 20
	演劇	加藤・大垣 10	伊藤・高橋 11	伊藤・下牧 13	菅井・下牧・池内 17	菅井・下牧・池内 17
	美術	酒井・藤野 8	酒井・藤野 9	酒井・今井 7	酒井・湯川 9	酒井・亀井 12
	書道	西澤・田中 18	西澤・田中 21	小林・田中 18	鈴木・田中 10	鈴木・田中 17
	吹奏楽	宇野・佐々木 18	稗田・佐々木 20	稗田・竹内志 21	稗田・渡邊 11	稗田・渡邊剛 14
	放送	大垣・時田 0	岩尾・鈴木 3	岩尾・松田 2	岩尾・小林 1	岩尾・小林 3
	邦楽	長谷川智・竹原 5	長谷川智・大嶋 14	長谷川智・大嶋 9	長谷川智・佐々木 11	長谷川智・佐々木 9
	茶華道	平馬・川本 9	大嶋・川本 11	大嶋・中山由 9	大嶋・中山由 9	渡邊千・大嶋・吉田恵 12
	J R C	野田・下牧・土谷 22	野田・下牧・土谷 21	野田・土谷・伴 21	野田・土谷・伴 20	野田・古畑・伴 13
	郷土芸能	岡田・橋本靖・佐々木 36	岡田・橋本・佐々木 36	岡田・橋本・中山恵 30	岡田・橋本・中山恵 41	岡田・橋本 38
合唱	宇野 0					

		平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	
体	野球	鳥田克・柳生 32	鳥田克・岩尾・多田 33	鳥田克・岩尾・多田 33	鳥田克・岩尾・多田 27	鳥田克・岩尾・多田 27	
	サッカー	八杉・山崎 34	八杉秀・山崎 24	八杉秀・山崎 23	八杉秀・山崎 24	八杉秀・山崎 26	
	相撲	細川・福島 4	細川・福島・桂 4	細川・福島・桂 3	酒井・福島・桂 5	酒井康・福島・桂 6	
	陸上	小竹・中村 19	小竹・佐々木 21	小竹・佐々木 15	小竹・佐々木 12	小竹・佐々木 13	
	女子バレー	竹原・伊藤 20	竹原・杉下 13	橋本健・竹原 8	大嶋・竹原 15	大嶋・竹原 13	
	男子バレー	近藤・野路 26	鈴木・野路 20	宇城・野路 10	宇城・野路 10	宇城・野田 16	
	剣道	松下・鍋島 10	松下・鍋島 8	八杉一・鍋島 8	橋本健・馬場 9	時田・銀内 8	
	卓球	田嶋・山口 13	田嶋・野田 11	田嶋・長谷川智 16	堂埜・長谷川智 19	田嶋・馬場 18	
	女子ハンドボール	谷口・笠羽 9	谷口・長谷川智 8	谷口・(出口) 10			
	テニス	西澤・岩尾 40	津田・野田・河原 46	津田・野田・時田 36	野田・時田 54	橋本健・野田 31	
	レスリング	山本・吉田 11	山本・吉田 7	山本 10	田嶋・津田・辻 14	津田・西田・辻 9	
			平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
	育	野球	鳥田克・岩尾・多田 27	鳥田克・岩尾・多田 30	鳥田克・小林 32	鳥田・小林 30	鳥田・小林 26
サッカー		高崎・山崎・牧田 12	寺井・山崎 15	寺井・山崎 22	寺井・山崎 17	耕・田原・中山・細川・田嶋 19	
相撲		橋本健・福島・桂 8	橋本健・福島・桂 9	八杉・福島・桂 6	八杉・福島 5	八杉・福島 3	
陸上		長谷川巧・小竹 16	長谷川巧・齋藤訓 21	長谷川巧・齋藤訓 20	長谷川巧・齋藤訓 16	長谷川巧・齋藤訓 17	
女子バレー		大嶋・竹原 16	浅井・高崎 12	浅井・高崎 12	高崎・浅井 16	大嶋・浅井 14	
男子バレー		宇城・野田 17	宇城・野田慎 21	宇城・野田慎 21	宇城・鈴木・野田慎 21	宇城・鈴木・野田 22	
剣道		松田・銀内 12	細川・銀内 10	細川・銀内 4	細川・銀内 8	細川・銀内 10	
卓球		田嶋・馬場 14	田嶋・馬場 7	塚倉・馬場 17	塚倉・馬場 15	塚倉・馬場 20	
テニス		齋藤池・長谷川恵・近間 41	松田・長谷川恵・近間 31	松田・橋本健・近間・佐々木 29	橋本健・谷口・松田・大嶋・近間 23	松田・谷口・渡邊千・近間 27	
レスリング		吉田・西田・齋藤訓 11	吉田・時田・西田 11	田原・吉田・西田 7	田原・吉田・西田 8	吉田幸・西田 3	

		平成16年		平成17年		平成18年		平成19年		平成20年	
		作物機械	笹口・前田・野路	6	細川・前田・野路	8					
園芸科学	蓮浦・山下・高畠	4	蓮浦・山下・多田	6							
生物生産					山下・前田・野路	0	山下・前田	2	山下・多田	6	
バイオサイエンス					蓮浦・多田	16	蓮浦・辻	20	蓮浦・辻	22	
環境緑化	荒川・下牧	3	荒川・下牧	11	松下・下牧	12	松下・下牧	8	釧内・下牧	4	
環境土木	笠羽・山崎	5	笠羽・山崎	6	吉田・山崎	14	八杉・山崎・吉田	13	八杉・山崎・吉田	12	
生活科学	稲葉・池森	22	稲葉・池森	27	稲葉・池森	18	稲葉・池森	31	稲葉・酒井麻	19	
生産流通	茨山・鍋島	9	笹口・鍋島	2	笹口・鍋島	6	笹口・佐々木	0	笹口・時田	11	
農業情報処理	長谷川	19	長谷川俊・佐々木	31	上野・佐々木	40	上野・馬場	20	上野・馬場	18	
		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
生物生産	山下・多田・近間	2	山下・近間	9	山下・近間	22	渡邊・近間	22	渡邊剛・近間	29	
バイオサイエンス	嶋田・齋藤訓	20	嶋田・齋藤訓	10	嶋田・齋藤訓	4	嶋田・齋藤訓	2	嶋田・齋藤訓	7	
環境緑化	釧内・下牧	12	釧内・下牧	6	釧内・下牧	6	釧内・下牧	8	釧内・下牧	12	
環境土木	八杉・山崎・吉田・松田	4	八杉・吉田・山崎	7	吉田・八杉・山崎	6	吉田幸・八杉・松田・山崎	6	吉田幸・八杉・松田・山崎	7	
生活科学	稲葉・川本	22	稲葉・川本	26	稲葉・中山由	24	稲葉・中山由	25	稲葉・吉田恵	21	
生産流通	時田・齋藤浩	24	時田・齋藤浩・多田慎	16	時田・多田慎	11	時田・多田慎	11	時田・多田	6	
農業情報処理	上野・馬場	11	齋藤浩・馬場	18	齋藤浩・馬場	20	齋藤浩・馬場	26	齋藤浩・馬場	23	

三 各部の活躍

環境土木部

現在、技術界各分野で環境保全のための取り組みが行われている。

環境工学科でも、林業、造園、農業土木の各分野において地球環境保全のための実践的な学習を行っている。環境学習は「農業と環境」や「総合実習」「課題研究」という科目を中心として行っているが、更に発展的な学習として課題研究や部活動（プロジェクト活動）などの実践的な学習にも力をいれている。

本校環境土木部の地道で発想豊かな取り組みが高く評価されて、第8回日本水大賞において、栄えある「大賞」の受賞となった。日本水大賞とは、「安全な水、きれいな水、おいしい水にあふれる二十一世紀の日本と地球を目指し、水循環の健全化に貢献すると考えられる活動をした団体・個人を表彰するもの」で、秋篠宮文仁殿下を名誉総裁とする栄えある賞である。

今回は足羽川堰堤土地改良区連合との合同受賞となった。研究テーマと受賞理由は、以下のとおりである。

大賞（合同受賞）

「農業水路への設置を目的とした

小規模魚道の開発による環境保全活動」

福井県立福井農林高等学校 環境土木部



「農業水路に生きものの賑わいを取り戻す地域づくり」

足羽川堰堤土地改良区連合

受賞理由

同じフィールドで、互いに連携した協働活動であると判断し、両団体を大賞と決定しました。単に生態系保全ということだけでなく、農業意識の向上につなげて考えているところが評価できます。水田と河川の生態系ネットワークの分断が言われて久しく、それを改善しようという試みがよく伝わる内容で、活動の中心が子供たちとの連携をとりながら行うものとなっており、現在行っている環境改善が将来につながっていくことが期待できます。ビオトープの造成などの部分的な対策に終始することなく、用水路全域にわたる分布調査をおこないその結果を環境条件と合わせて分析できている点などは、自然回復のために必要な対策を検討する上で役立つ活動ができています。このように具体的、かつターゲットもはっきりしており、両団体の役割も明瞭です。本賞で大賞を受賞するにふさわしいものと判断しました。

日本水大賞の受賞を受け、平成一八年五月三〇日に表彰式及び受賞活動発表会に参加した。現在の環境土木部員によって、先輩たちの取り組んできた研究内容を整理し、掲載原稿作成・発表準備・発表練習を行うって参加した。会場は、東京の国際連合大学ウ・タントホールという場所だった。秋篠宮殿下も参加されており、お言葉をかけていただくという大変貴重な体験をすることができた。

今回の受賞は、生徒たちにとってはとてもよい刺激になったと思う。取り組んできた事がこのような結果として評価され、現在、意欲的に活動を行っている。

(顧問 吉田 幸人 記)

農業水路への設置を目的とした小規模漁道の開発による環境保全活動

福井県立福井農林高等学校 環境土木部 顧問教諭 笠羽精浩 吉田幸人 代表 八原 淳 太久保有人 坂本龍光 沼直久 平鍋大地

1. はじめに

表1,2は福井県における絶滅のおそれのある動植物のリストである。レッドデータブックに記載されている絶滅のおそれのある動植物の多くは、「里地・里山」と呼ばれる農村地帯の田んぼや小川で、人間の農作業に合わせた生活サイクルを持ちながら生きてきた。ところが現場整備や人間の生活様式の変化などにより、その生活の場を奪われてしまった。



図1：落差による水路ネットワークの分断

表1：福井県の絶滅のおそれのある野生動物

種別	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種
魚類	1	21	81	25	11	4	4	4	39
両生類	2	1	1	1	1	1	1	1	1
爬虫類	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鳥類	2	2	2	2	2	2	2	2	2
哺乳類	3	3	3	3	3	3	3	3	3
植物	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	11	33	102	64	29	23	23	23	649

表2：福井県の絶滅のおそれのある野生植物

種別	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種	絶滅のおそれのある種
植物	1	1	1	1	1	1	1	1	1
動物	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	2	2	2	2	2	2	2	2	2



図2：水路のネットワーク

2. 足羽川農業水路の自然生態系調査

小規模漁道などの開発に配慮した工法の検討や対象魚種の決定のためには、現状を知る必要がある。そこで私たちは、まず農業水路の自然生態系調査にとりかかった。調査地点は、足羽川首工の下流受益となる足羽川両岸の2,100haの農業水路に56箇所を調査ポイントを設定し、足羽川堰堤土地改良区連合、福井県農業試験場と連携して調査にあたった。



図3：調査の様子



図4：魚類の生息場所

このことから、遊泳能力の高い魚類は落差付近にとどまり、分水工や落差工による落差が魚類の遡上を阻害していることが分かった。そのため、魚道により遡上を可能にすれば、魚類の良好な生息環境を回復させることができると考えた。



図5：魚道設置のイメージ

3. 魚道の製作

魚道調査の結果を基に、次のような条件を設定し、魚道形式の検討を行った。

- ① 小規模漁道製作上の留意点(条件)
 - ① 地域の群衆を利用する
 - ② 里山から発生した廃材材を利用する。
 - ③ 簡易型である
 - ④ 材料や形状が単純で、取り外しを可能にすることで、清掃などの維持管理がしやすい、または材料や形状の多様な組み合わせが可能な形式とする。
 - ⑤ 遊泳魚、産生魚など多様な魚種に対応できる形式とする
 - ⑥ 魚類目録で、遊泳魚、産生魚など多様な魚種が確認できた。それらすべての魚種が遡上可能な形式とする。

調査の結果は図4、図5となった。最も多く捕獲できたのはオイカワである。次いでカワムツ、ヌマムツ、ウグイとなった。同時に福井県レッドデータブックに記載されている、絶滅のおそれのあるメダカと河川型カジカも生息していることが判明した。この結果から、農業水路には、足羽川首工から流下した遊泳能力の高い一般的な川魚が全域に生息していることが分かった。また、メダカ、ギンブナ、タモロコ、タナゴ類などの水田地帯を代表する魚類が、頭首工から最も離れた流下流の穏やかな農業水路の末端部で確認できた。

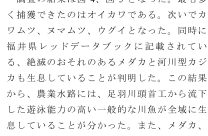


図6：足羽川農業水路 魚類構成割合

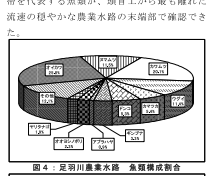


図7：捕撈状況 魚類構成割合

調査結果から、田んぼの魚と対照しているギンブナ、タモロコなどを対象とした。また、魚種が多く生息していた地点の特徴は次のようになっている。

- ① 落差工下流部…水深が深く、流速が遅い。
- ② 落差工の合流点…水深が深く、流速が遅い。餌が豊富である。
- ③ 除塵槽の直下…水深が深く、流速が遅い。外敵からの避難場所。
- ④ 分水工…水深が深く、流速が遅い。

魚道は、河川において魚類の遡上境界とされる1/10の勾配で設置した(図1)。



図1：実験池の施工

各魚道における水深、流速、流量の関係は表3のとおりで、阻流板や導流壁によって、縦断面やプール内の流速を弱め、魚類が遡上しやすい環境に整えた。

表3：試作魚道の諸元

項目	試作魚道	改良版ノルウェー型	改良版ノルウェー型
水深	0.5m	0.5m	0.5m
流速	0.15m/s	0.15m/s	0.15m/s
流量	0.05m ³ /s	0.05m ³ /s	0.05m ³ /s

供試魚は、ギンナギ、タモロコなど11種を用いた(図13)。

5. 実験結果(学校農場)

(1) 舟通しデニール改良型

遡上実験を10回行った結果、図12のようになった。遡上数が最も多かったのは遊泳能力の高いカワズ類と、夜間を持ち時は垂直な壁でものぼりやすいと思われるソノボリ類であった。遡上対象魚としたタモロコとギンナギの遡上も確認できた。

ソノボリの体長も増加したが、小さいものから大きいものまで遡上していた。また、中央壁と導流壁によりできたプール内でも遡上途中の魚類が確認されており、私たちが改良した点が多分に機能していることが分かった。

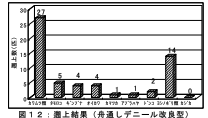


図12：遡上結果(舟通しデニール改良型)

(2) 改良版ノルウェー型魚道
遡上実験を10回行い、その集計結果が図13である。舟通しデニール改良型と比較して、対象魚類としたタモロコ、ギンナギがより多く遡上していることが分かった。体長サイズによる違いもなかった。ただ、ドンコ、ソノボリ類の遡上は確認できなかった。

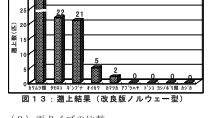


図13：遡上結果(改良版ノルウェー型)

(3) 両タイプの比較

舟通しデニール改良型魚道と改良版ノルウェー型魚道の遡上数を比較したのが、表4である。後者において、タモロコで4倍、ギンナギで2倍といった高い遡上数となった。この理由を表3に示したように、改良版ノルウェー型魚道の流速低減効果がより大きかったためであると考えられる。

表4：遡上数の比較(学校農場)

魚種	試作魚道	改良版ノルウェー型	合計
カワズ	27匹	48匹	75匹
タモロコ	0匹	22匹	22匹
ギンナギ	4匹	21匹	25匹
オイカワ	4匹	5匹	9匹
カマツガ	1匹	2匹	3匹
アザラシ	1匹	0匹	1匹
ドンコ	2匹	0匹	2匹
ソノボリ類	14匹	0匹	14匹
カマ	0匹	0匹	0匹
カ	0匹	0匹	0匹
合計	58匹	98匹	156匹

河川魚道は、歴史も古く、様々な形式が考案されており、必要性や目的に応じた形式を選択できるようになっている。しかし、その殆どが遊泳能力の高い商用魚を対象にしたものであるため、そのままの形式で、農業水路に導入しても、遡上は望めないと考えた。そこで、私たちは河川魚道を参考に、農業水路に適応させるための工夫を施すこととした。河川魚道の形式と特徴を調べた結果、2つの魚道が候補として考えられた(図1)。



図1：参考とした河川魚道

この形式を参考に、以下のような改良点を加え、2タイプの小規模魚道を試作した(図13)。

【試作魚道の選定理由と改良点】
①>舟通しデニール改良型魚道
②改良版ノルウェー型魚道

- ①>舟通しデニール改良型魚道
 - ①遊泳能力と特徴
 - 水泳能力が高くても利用可能。
 - 水面上での水位差が大きな利点も利用可能。
 - 冬期でも氷凍結が原因で凍結する。
 - 一つの横断面の中で、流速差から高流速まで流速変化が少なく、魚が通過した遡上距離が短縮できる。
 - ②改良点
 - 導流壁を交互に設置することで、流速が少いときにプールタイプに近くなる特徴を持たせた。
 - 魚道壁に人工芝を敷くことで、流れを安定させることとした。
- ②>改良版ノルウェー型魚道
 - ①遊泳能力と特徴
 - 流速が低減で、流速の上下により切り交差を設けることで、遊泳能力から発生魚まで多様な魚種に対応できる。
 - ②改良点
 - 導流壁を交互に設置し可能な、形式の改良や変更を可能にした。
 - 魚道の角度を調整できるようにした。
 - 魚道壁に人工芝を敷くことで、流れを安定させることとした。

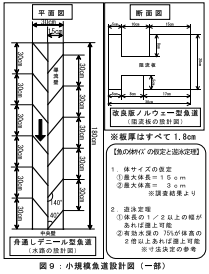


図9：小規模魚道設計図(一部)



図10：製作した魚道

4. 遡上実験(学校農場)

魚道完成後、直ちに遡上実験に取りかかった。室内実験では、流速調整や漏水などが発生し、うまく水を循環させることができなかったため、学校農場での実験に変更した。実験池は十分な深さと流量が得られるよう、2m×2m横2m×深さ1mの4m³とした。このような実験池を2つ設け、その間に魚道を設置した。また、漏水対策として実験池及び魚道設置部分は、ビニールシートで覆った。

は、水路の側面に並らせた、左岸側に「ひかげ」城を作ることを。逆に右岸側に設置した魚道は既に太陽光が当たって「ひかげ」城はまったく見えない。遡上調査時に農道に人間が立ち、水面への影が映されると、魚類は慌てて物陰に隠ろうとすることや、サナギなどの外敵からの避難場所となる「ひかげ」城に多く生息していることなど、本能的に危険から逃れようとする性質がある。そのため、遡上時にも明るい場所より、「ひかげ」城をより強く選択し、右岸側と左岸側の遡上数に大きな違いが見られるものと思われる。



図17：魚道設置場所とひかげ(稲野排水路)

8. 考察と今後の予定

前述の農場実験及び現地試験により、以下のような結果が得られた。

- ①農業水路では、流速低減効果が高く休憩場が充分に確保できるプールタイプの魚道の方が適している。
 - ②1m以上の急勾配でも、魚道の形式によって遡上が可能となる。
 - ③日射量・日射方向等が魚道の遡上に大きな影響を与える。
- まとめとして、今回現地試験を行った稲野排水路の魚類構成率(オイカワとカマツガ類が約75%となっており、研究の対象としたタモロコ・ギンナギの構成率の高い農業水路にて、再度現地試験を行う必要があると考えている。また、設置勾配を変更し、魚道の遡上可能な魚道の最大勾配を調べる。さらには、池

6. 現地試験(稲野排水路)

平成17年6月より、福井市篠尾町成願寺を流れる稲野排水路に魚道を設置し、現地検証を行った(図14)。魚道勾配は、農場実験では1/10としたが、現地の地形勾配に合わせて、1/7で設置した。

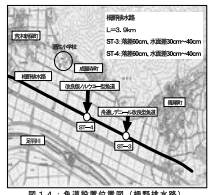


図14：魚道設置位置図(稲野排水路)

7. 試験結果(稲野排水路)

遡上数(実験)と比較したものが表5、図15である。両タイプとも右岸・左岸の両岸での試験を予定していたが、舟通しデニール改良型魚道は、右岸での試験中に破損し、また遡上数も極端に少なかったため、左岸での試験は中止した。

遡上数が最も多かったのはオイカワである。最近の調査によって現在の稲野排水路の魚類構成率がオイカワであることが明確になっており、この状況が反映されているものと思われる。

舟通しデニール改良型魚道と改良版ノルウェー型魚道の遡上状況が、農場実験と同じ結果となった。特に前者は全く魚が遡上しない状況になっており、本田農場には適さない形式であると考えられる。この理由として、

- ①導流壁により、水流が乱れる。
 - ②流速が速すぎて魚が通れない。
 - ③休憩のためのプールの大きさが不十分でない。
- など、いくつかの理由が考えられる。

表5：遡上数の比較(稲野排水路)

魚種	ST-3		ST-4	
	デニール改良型	ノルウェー型	デニール改良型	ノルウェー型
カワズ	0匹	11匹	2匹	2匹
オイカワ	3匹	48匹	5匹	5匹
カマツガ	0匹	3匹	0匹	0匹
カ	0匹	0匹	0匹	0匹
カマ	0匹	1匹	0匹	0匹
合計	3匹	79匹	8匹	8匹

図15：遡上数の比較(稲野排水路)

また、稲野排水路の流量は、降雨がなければ水深5cm程度(図16)と非常に少ないものであり、改良版ノルウェー型魚道においては殆どが下部切り欠きから遡上しているという結果となった。

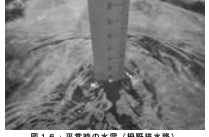


図16：平常時の水深(稲野排水路)

この他に、魚道の設置場所が右岸側から左岸側によっても遡上数に大きな違いが見られることが明らかとなった(図17)。太陽光の影響による「ひかげ」城の存在で遡上数が大きく変化したのである(図17)。稲野排水路は東から西に向かって流れており、左岸側がより日当たりの多くなる。このため、南から差し込んだ太陽光

郷土芸能部

台湾紀行〜日本文化の素晴らしさを再認識〜

平成三十二年八月一日〜一〇日、郷土芸能部部員一九名と顧問二名は台湾で開催された2010宜蘭国際童玩藝術節に参加した。これは宜蘭国際童玩藝術節実行委員会主催のフェスティバルで、我々福井農林高校は、以前韓国公演でお世話になったユネスコNGO国際民間文化芸術交流協会(IOV)の推薦を受け、このフェスティバルに招待された。

日本の他にはロシア、メキシコ、トルコ、マレーシアなど一〇ヶ国余りのユースチームが招待され、宜蘭大学の寮に同宿し様々な交流を持った。公演は宜蘭市親水公園野外ステージで行われ、私達は毎日午後四時から約三〇分間、和太鼓と日本民謡の演舞を行った。夕刻というのに三五〜三八度という猛烈な暑さだったが、水をテーマにした親



水公園には連日多くの子ども連れで賑わい、いつも私達の太鼓の音が鳴り始めると観客席は満員となった。公演の期間中には記者会見が行われたり、「日本の日」「ロシアの日」など、それぞれの国が特に取り上げられる日が設けられていた。通常の倍の持ち時間が与えられ、お客さんに太鼓を体験してもらおうコーナーを入れたり、日本のお菓子を配ったり、折り紙で作ったコマやくす玉を販売するなど楽しい企画盛りたくさんの公演日となった。それらイベントが



ある毎に私達のことを新聞で報じられ、福井農林高校郷土芸能部の活動や演奏のことや日本文化について知ってもらうことができた。

宿舎では、「日本食の日」といって私達が大学の厨房に入って日本食を作って、運営スタッフ・各国のチームの人たちに紹介するというイベントがあった。私達はそうめん、巻き寿司、味噌汁を作って振る舞った。中でも巻き寿司が一番人気であった。料理を振る舞った後は左義長囃子を体験してもらった。各国の人々は太鼓に群がり喜んで太鼓を叩き、左義長囃子独特の「浮き」の動きに合わせて一緒に踊り出すという何とも言えない盛り上がりぶりとなった。

このフェスティバル参加の成果は実質八回の公演を成功させたこと以外にも、一〇ヶ国余りの国々の演舞を見ることができ異文化を知ることができたこと、台湾の食文化、生活文化、価値観の違いにも触れることができたことが挙げられる。さらに予想以上に外国の方々に日本食や日本文化に興味を持ってもらえた事で、生徒たちにとっては日本文化に誇りを持つてまたとない機会となった。「日本文化の素晴らしさの再認識ができた旅」それが台湾公演であった。

(顧問 岡田 玉緒 記)

参加生徒一九名の感想より抜粋

平泉.. 左義長囃子の演奏ではいろんな人が参加して日本の文化を知ってもらえた。折り紙で作ったくす玉や駒もたくさん売れて多くの人に折り紙の文化も広げることができた。

安田.. トルコやタイの子どもたちはとてもフレンドリー。三味線に興味を持ってくれた人もいて大成功。ワークショップは花笠音頭でお客さんが立って一緒に踊ってくれて本当にうれしかった。

谷口.. 親水公園は自然が豊かでとても居心地が良い。空港での荷物の制限がなかったら、日本食や浴衣など「日本」らしい文化をもっと持ってきて教えてあげたかった。

富田.. 多くの国の人たちとコミュニケーションをとれた。伝統的な遊びや作り物、日本の古くから伝わる文化を伝えることができた。田中.. 親水公園でのイベントはたくさんのお客さんで感動。あのような拍手や飛び交う歓声は忘れられない。

松田.. 民謡と左義長囃子などの日本の文化を外国の人たちに知ってもらえることができた。江守.. 食事はあまり口に合わないものが多かった。言葉が通じなくても音楽だけで楽しめるのだと実感した。

山尾.. このような機会は滅多にないので台湾遠征に協力してください。た方々には本当に感謝しています。藤澤.. 帰り際「太鼓好き」と日本語で言ってくれた人がいました。それを聞いて太鼓の良さを伝えられて良かったと思った。

高橋.. 折り紙で作った「くす玉」や「駒」などをパレードを交えて紹介できた。「寿司」「味噌汁」「そうめん」が他の国の人の口にあうかとても不安だったけれど、どの国の人も日本食を楽しみにしてしてくれたし、列ができるほど大人気だった。

谷垣.. 民族舞踊という同じジャンルでもゆったりして優雅なものあれば激しいダンスもあって飽きませんでした。

大谷.. 「笑顔に会いたい」ではお客さんと一緒に「わっしょい」と叫んでもらった。お客さんも乗ってくれたので安心しました。

成瀬.. 他の国の公演は独特な音楽に合わせて綺麗な踊りをする国がほとんど。私達の演奏後のたくさんのお客さんの拍手や歓声を聞いて台湾の人が和太鼓を受け入れてくれたことを実感できた。

飯田.. 一日間過ごした学生寮には他国のチームも一緒に泊まった。時々開かれる「トルコの日」「マレーシアの日」など参加国の料理や音楽でもてなす日がありとても楽しかったです。

澤.. 台湾語で挨拶にチャレンジした。最初止まって全然言えなかったが台湾のお客さんはみんな「がんばれ」と言って励ましてくれた。みんないい人たちばかりだった。

出口.. ステージの上で太鼓を叩いたお客さんと少し会話ができて、楽しく教えることができた。くす玉や駒売りでは台湾の人が日本語で話しかけてきてくれてうれしそうに買ってくれた。

長谷川.. 日本代表として福井農林高校郷土芸能部はたくさんの人に受け入れられた。演奏はいつもトップバッターでお客さんも拍手や手拍子をしてくれて演奏している側も気持ちが上がりました。森田.. 宿舍でのダンスパーティーは、みんなが好き好きにダンスを踊れて他の国々の人と交流できたのでとても良かったです。

藤塚.. 「日本食の日」の時に作った料理を「おいしい」と言ってもらえた。その食事の中の演奏では想像以上の人が太鼓を打ってくれたのに驚いた。

	8時	8時30分	9時	9時30分	10時	10時30分	11時	11時30分	12時	12時30分	13時	14時	14時30分	15時	15時30分	16時	16時30分	17時	17時30分	18時	18時30分	19時	19時30分	20時	20時30分	21時	21時30分	22時	22時30分	23時	23時30分	0時
8月1日	5:00出発 9:00開空着		待ち時間 荷物チェック					移動					台北空港～ 宜蘭大學			親水公園に 道具下ろし		夕食 トルコ食	ミーテ ィング	風呂など 点呼 23:00												
8月2日	朝食	準備体操 ミーティング		昼食	移動	親水公園 荷解き		リハーサル		公演1 悠久・宜候		コンビニへ		夕食							点呼											
8月3日	朝食	ミーテ ィング	台湾の獅子 体験		昼食	準備体操 手合わせ		移動	準備	公演2 悠久・大地祭り・笑顔		移動	小籠包	ショッピング モールへ	夕食						点呼											
8月4日	朝食	ミーテ ィング	移動	準備	記者会	弁当	休憩	準備 打ち合せ	公演3 民謡・大地祭り・宜候		移動	夕食 マック							点呼													
8月5日	朝食	日本の日の練習			昼食	準備体操 手合わせ		移動	準備	公演4 民謡・大地祭り・宜候		移動	ピザ作り ボランティア高校生交流								点呼											
8月6日	朝食	鴨工場見学			昼食	移動		準備 打ち合せ	公演5 民謡・悠久・笑顔		移動	日本食作り	日本食の日 左義長演奏						点呼													
8月7日	朝食	練習	ゲームセンター、ショッピングモール 各自昼食		台湾芸術センター		各国公演鑑賞 メキシコ・ロシア・マレーシア・台湾・ トルコ・リトアニア		移動	夕食	台湾駒返し						点呼															
8月8日	7:30 朝食	移動	準備	日本の日	昼食 弁当	休憩	準備 打ち合せ	公演6 悠久・民謡・宜候		移動	夕食	ダンス パーティー						点呼														
8月9日	朝食	宜蘭餅工場見学体験 ／一部記者会			昼食	移動		準備 打ち合せ	公演7 悠久・宜候・笑顔		移動	夜市散策	夕食 マレーシア トルコ音楽	マレーシア トルコ音楽						点呼												
8月10日	朝食	移動			昼食	移動		準備 打ち合せ	公演8 悠久・宜候・儀式		荷造り	一部意見交換会							点呼朝2:30													
8月11日	3:30 お別れ	移動 機内食			国内移動 日本弁当					荷下ろし 解散																						

旅の記録「日」

【小松市立図書館】
10日午後、日本「嵐」音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午後、日本「嵐」音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午後、日本「嵐」音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

日本国家日 異文化の交流

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

嵐の音楽祭「嵐」

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

【小松市立図書館】
10日午上の国家日活動は、嵐の音楽専門学校にて開催された「嵐」野外音楽祭。嵐のメンバーが出演し、嵐の音楽を聴く機会が得られた。嵐のメンバーは、嵐の音楽を聴く機会が得られた。

四 福井豪雨・東日本大震災支援活動

福井豪雨

忘れられない夏

坂本 伸子

梅雨末期の集中豪雨はどこに起きても不思議ではなく、今でも予測は困難らしい。あの年も大変な水害に見舞われた新潟のニュースをテレビで見た時は、まさか福井で同じことが数日後に起こるとは予想していなかった。

平成一六年七月一七日土曜日、本校では茨山教諭の「ふれあいハーブ園」が和やかに行われていた。月並みな言い方だがまさに「嵐の前の静けさ」だった。その十数時間後、ゲリラ豪雨が福井県嶺北を襲った。特に美山町、福井市みのり地区、一乗地区、鯖江市河和田地区等で甚大な被害が出た。

七月一八日、当日は高校野球の試合があることになっていた。その朝に限ってテレビをつけていなかった三国の我が家では、豪雨の惨状を知らずにいた。柳生指導部長に「野球の試合、今日は中止ですね。」とのんきな声で電話をし、電話の向こうでおそらく必死の作業を続けている先生の半ば呆れたような声で返答があったのが今でも耳に残っている。

その夕、校長、事務長と私は学校に集まり、生徒・教職員の被害の集約に努めることと今後の対策を練った。やがて本校では生産流通科の生徒の祖父が亡くなったことに加え、美山町の男子バレー部生徒が家屋全壊の被害を被った他、約二〇名の生徒・職員に床下床上浸水の被害があったことがわかった。

二〇日火曜日、一学期終業式の後、早速バレー部員が顧問とともに

被災した仲間の家へ駆けつけた。生徒会もボランティアに向けて動き出していた。生徒たちがボランティアに出かけたことは、その日高校教育課へ連絡を入れた。(後に本校の生徒たちが、福井豪雨の高校生ボランティア第一号だったことを知った。)

翌日から夏休みに入ると高校生のボランティア、教職員のボランティア動員は本格的になった。最初は生徒会・部活動中心だったボランティア活動も、七月末から八月上旬にかけ、次第に学年単位となり、人数や行き先も県から要請された。夜遅くになってから、用意した生

ボランティア参加状況

日付	参加クラス・部	教諭	地域
7月20日	男子バレー		美山
21日	生徒会主催	9名	
22日		8名	
23日	レスリング・女子ハンドボール・郷土芸能・サッカー	7名	美山
	剣道		春日・木田
24日	2・3年生物生産科	5名	
27日	陸上・野球		
29日	1年・野球	9名	一乗
30日		10名	朝倉遺跡
8月2日	2年環境工学科・生活科学科・生産流通科	8名	朝倉遺跡
4日	3年環境工学科・生活科学科・生産流通科	11名	朝倉遺跡
5日		3名	バス運転
6日		6名	

徒数がいらないとかいるとか指導部長や私の自宅へ県から電話があり、「生徒は駒でない」と指導部長が怒ったこともあった。今思うと高校教育課も本当に大変だったのだろう。我々教職員もまた、生徒たちとは別に、朝倉氏遺跡や資料館へも復旧作業に出向いた。

当時の記録を

見ると、七月二〇日から八月四日までで生徒延べ四〇〇名、教員九〇名がボランティアに参加した。実習服に身を固めた生徒たちがバスでボランティアに向いていく様子は、とてもりりしく頼もしく見えた。さすが外で農業実習をしているだけあって、本校の生徒たちは暑さの中でも元気に作業したと聞いた。また、本校の実習バスによる一般のボランティア輸送に、実習教諭・実習助手たちは七月二四日から八月一〇日まで三日間の実習日を除き、一日中駆り出され、大変な苦勞をした。その輸送バスには教職員も一人同乗した。

あの夏、生徒も教員も自然災害を目の当たりにし、ボランティア活動を通し多くのことを学んだ。生涯忘れられない夏となった。

東日本大震災

特集生徒指導部「震災後の取り組み」

生徒会担当 中山 恵里子

二〇一一年三月一日、この日は一五時から高校入試の合格発表であった。福井では揺れを感じた人もいたが、大部分の人は何も気付かないまま日常を過ごし続けた。しかし、事の次第が明らかになるにつれ、生徒教職員一同このままではいられないという思いを強く抱くようになった。そこで生徒指導部の特集として、生徒指導部以外の活動も含め、その後の一〇ヶ月福井農林で行った様々な活動を振り返ってみた。(以下◆生徒指導部主体、◇その他主体)

◆一週間後の三月一八日 臨時ロングホーム

日を追うにつれ、生徒達の何かしたいという気持ちも強くなっていった。そこで二二年度後期生徒会担当の橋本靖子教諭が率先し臨時にLHを持ち、今回の震災について考える機会を設けた。議題は以下の

二つ。

①自分たちが今できることは何か。

《各クラスでの意見の一部》

- ・募金、節電、ボランティア
- ・支援物資を送る
- ・まとめ買いをしない、買いためしない
- ・応援メッセージ、千羽鶴
- ・チェーンメールをやめる、デマを流さない
- ・献血に行こう

・これから役立つことを目指して、今は勉強する

②この先も続けられることは何か。考えていくべきことは何か。

《各クラスでの意見の一部》

- ・毎年三月一日に黙祷、乾パンを食べ地震のことを忘れない日にする
- ・エネルギーの転換、資源節約
- ・防災の見直し、緊急用靴の準備
- ・避難場所や避難路の確認、避難訓練
- ・情報収集
- ・社会に目を向ける
- ・国外にも協力を依頼する
- ・近所の人達との交流を深める
- ・家族との連絡網や集合場所の確認
- ・命を大切にす

◆三月一九日(土) 震災から八日後 街頭募金

二二年度後期執行部と二三年度前期執行部が協力し「生徒会執行部では、今回の東北地方太平洋沖地震で被害に遭われているたくさんの

方々のために、義援金を集めたいと考えています。そこで、「第一弾！」ということでの日一四時半～一五時半の時間帯のボランティア募集を呼びかけたところ、一〇〇人以上の生徒が参加。駅前広場を借り、郷土芸能部のパフォーマンスで観客を集め、そこで募金活動を行いました。演奏を含め活動時間は一時間でしたがやはり人々の関心は高く、三〇万円を超える募金が集まりました。



生徒会長 津田 一秋

三月二日に起きた東日本大震災、とても多くの人達が巻き込まれ日本が悲しいニュースでいっぱいになりました。毎日ニュースを見ていて農林生で何かできることはないかと考えたところ、自分たちが作ったものを送ることも考えましたが、今は食料を送るより募金の方がいいのではないかと思い募金活動をすることにしました。そしてその日から募金箱やポスター等の製作を放課後一生懸命行ったのです。



かったです。本当にありがとうございました。

生徒会庶務・郷土芸能部 小林 祐太

私たち郷土芸能部は、三月一日に東日本大震災で多大な被害を受けた東北の方々に「私たちも何かしたい、力になりたい。」という生徒会の呼びかけで、春休みに福井駅前にてチャリティー演奏を行いました。

私も東日本大震災のことは大きな衝撃として受け止めました。テレビをつけると次々流れる現在の被災情報。しかし、テレビを眺めていても、今自分が被災者の方に何ができるのか分かりませんでした。そんなとき学校でチャリティー演奏が企画され、当日はいつ



も以上の責任感と緊張感でいっぱいとなりました。しかし、東北のために今できることは力一杯演奏することだと思いつつもよりいい演奏ができて安堵しました。結果、募金もたくさん集まり、東北に送ることができて安堵しました。

そして東北地方が一日も早く復興することを祈ります。募金に協力して下さった皆さん、本当にありがとうございます。



◇春休み宇城教諭 岩手県小学校PTAの依頼を受け緊急物資支援

教職員有志により衣類・文具等段ボール四つ分送付。とにかくまだ寒いので冬物と靴、そしてあらゆる学用品が必要とのこと。

◇四月中旬 生活科学科 通学バッグ製作ボランティア

本校では新学期が始まると共に生活科学科が中心となり、かつその他学科の生徒も何らかの形で作業に携わり、三四〇個の通学バッグを製作し、被災地に送ることができた。

三年 生活科学科 清水 望美

私達生活科学科を中心に全校生徒が被災した園児や小学生達に使ってもらったためのスクールバッグを製作しました。今回初めてカバンを作ったのですが、長い間使ってもらえるような丈夫なカバンを作るのは大変でした。カバンを作る手順は、まず他の学科の生徒でも作りやすいように布用の鉛筆で縫うところの印付けをし、持ち手のひも付けの時に紐が動かないようしつけ糸で仮留めもしました。次にカバンの縁と脇の部分を書き合わせ、名前を書くためのワッペンをつけました。そして最後に、自分たちで作ったカバンの中に応援メッセージをカードに書いて入れました。そのメッセージには「お友達と仲良くね」や「復興を祈っています」など皆それぞれの思いを込めて書きました。でき上がったカバンはうまく作れたものや少し不格好なものや様々な形になりましたが、復興に対する思いを込めて作ることができたので良かったです。



またこのようなボランティア活動をする機会があったら、皆で協力しながら積極的に参加していきたいと思えます。

それに対し被災地から礼状が届いた。以下お礼状より。

福井農林高等学校のみなさまへ
私は、福島県南相馬市に住んでいます。東日本大震災により津波による大きな被害を受け、さらには原発による今だに続いている大きな大きな被害に苦しんでいるものです。

このたび福井農林様から、子供達が支援物資とメッセージをいただきました。本当にありがとうございます。子供達は物資とメッセージを嬉しそうに持って帰ってきました。今子供達は、南相馬市市原地区が緊急時避難区域のため、三〇km圏外まで毎日スクールバスで別の学校に通っています。学校生活も外での体育や遊びは禁止され、登下校時にはマスク・長袖・長ズボンと不衛生な生活です。だけど子供達は精一杯ふんばっています。がんばるのではなく、ふんばっているのです。時にはつらくもなるでしょう、泣きたくもなるでしょう、怒りたくもなるでしょう、イライラもするでしょう…でも両足を地に着けこの状況の中ふんばっているのです。小さな体と心で…。

福井農林の皆さんからいただいたメッセージにはがんばれとは書いてありませんでした。「おともだちたくさんつくってね」というあたたかなメッセージでした。うれしかったです。ほっとしました。涙はとまりませんでした。がんばってもどうにもならない状況で、必死に耐えるしかない私達。皆様の支援が支えです。今後も少しでも私達のことを思ってくれたらうれしいです。まだまだ耐えることが続くであろう日々。でも必死に生きていこうと思います。亡くなった方がたくさんいます。その方の分も生かされた命です。大事に生き、前へ進んでいきたいです。

感謝の気持ちを伝えたく、ペンを取りました。気持ちが伝われば幸いです。皆様もあたりまえであるふつうの生活を大事に毎日お過ごし下さい。ありがとうございます。

一月経つといよいよその被害の大きさも明らかに、現状の凄まじさに茫然としつつも何かしたい気持ちもますます強くなっていた。前年度校長退職の折ではあったが、その校長の意向もあり送別会を縮

小し、費用の中から五〇万円、教職員一同ということで共同募金会に募金した。その後も生徒が現地にいけない分、教諭がボランティアに参加し、壁新聞や展示を通して生徒に現状を伝えたり、授業の中で報告したりしてきた。

◇五月上旬 石巻市ボランティア参加（大嶋・中山二名）

大嶋 佳子

作業内容は民家の泥出しでした。旧北上川を河口から四km上流に行った井内という地域で、このあたりの住宅の一階部分は水がついたそうで住める状態ではありませんでした。私たちがボランティアにお伺いしたお宅は二階で生活をしている状態で、水道、電気は復旧してました。前日に床下の泥だしは終了しており、私たちは民家の敷地内に堆積したヘドロを土嚢袋に詰め、除去しました。二人で作業していたのですが、なかなか作業が進まない…二時間で一m四方でしょうか。家族だけでは限界がある。とにかく人手が必要だと感じました。

その後、被害のひどかった海岸沿いの地区も見てきましたが、言葉になりませんでした。テレビや新聞の映像と同じ…。ある新聞には「瓦礫」と書いて「思い出」と読むというような話題も出ていましたが、現実でした。瓦礫の山。それはそこに住む人たちの思い出の山でした。息の長い支援が必要です。私たちに何ができるだろうか…。



◇八月上旬 岩手県宮古市ボランティア活動参加

中山 恵里子

五月以来の被災地、がれきの撤去は十分進み、街のあちこちは元々何もなかったかのように夏草が茂り、更地に見える。しかしよく見てみると、どこも家の基礎だけが残っていた。震災から半年近く経った今回のボランティアでは、避難所の撤去と、用水路のヘドロの撤去が主な仕事である。一日目避難所最終日という小学校では、引越し作業も済みつつあり静かな時が流れていた。四月にできた待望の仮設風呂も今日が最後。惜しむようにおじいさんが一人やって来て利用していた。仮設住宅へ移れることはとても嬉しいが、今後風呂も食事も一人、それが不安だとおっしゃっていた。二日目、完全に流された地区の用水路のヘドロ撤去。上流の住宅地からの水が滞ってしまっていた。



川幅一mほどの流れの中からは、家紋入りの食器・テレビ・アルパム：わずか一〇mほどの清掃で、軽トラック四台分のがれきやヘドロが出た。大切そうなものだけは、きれいにして脇にしておく。その横のお家は新築一年目での今回の被災。その家も土台しか残っていないが、区長さんがおっしゃることは「この家の人はここに住みたいと今も思っている。だから土台の中に土を盛り、集落の人のためにひまわりを育て、自分たちで食べるものを入れたいから野菜も作っている。何か育てるといことは気持ちの前向きになるから。」と話して下さった。農業の底力を生徒達に是非伝えたいと思った。

◇九月下旬 宮城県南三陸町ボランティア活動参加(個人)

渡邊 則子

宮城県農業高校(宮農)は、日本で最初に設立された農業高校で、海岸から約一〇〇m、仙台高校の近くに位置する。その宮農は、三月一日夕方津波に襲われた。

私が、宮農を訪問させていただいたのは、震災から約半年の九月二三日。宮農で先生をされている大竹先生にお会いし、校内を案内していただきながら当時の様子などお話を伺うことができた。

宮農に向かって車で走っているとある地点から景色は一変した。今まで住宅街が続いていたかと思うと、道路を渡ったところからは、田んぼには水がたまり、家には窓ガラスがなく、人の住んでいる気配が全くしない。

宮農に到着すると門には大きな南京錠がかけられていた。大竹先生は、「ここに来るのは久しぶりです、この景色をみるとまだ足が震えます」と言っていた。地震当日、実習や部活で一、二名の生徒と七〇名の先生が校内にいた。地震発生後屋上に避難するも、校舎が倒壊するかもしれないとか、津波が来ないから今のうちに避難するかなど、不安と判断に駆られている最中に津波に襲われた。津波は三階にまで達した。そして、水が引くのを待つため一晩屋上で過ごしたそうである。

私が訪問したときもまだ校舎内は三階まで泥と瓦礫の山だった。校門、教室にある時計はすべて津波に襲われた三時五八分で止まっている。農業高校のため農地が多くあるはずだが、どこも水がたま



ついで、その面影は全くない。トラクターなど農業機械も鉄くずのように集められていた。震災から本当に時間が止まっているかのようだった。

被災してから数ヶ月は、授業どころではなかったそうだ。それでも、県内にある他の農業高校三校へ片道一時間かけて通い、授業や実習をさせていただいた。移動中の時間ももつたないバスの中でも授業が行われたらしい。そして、九月一日宮農の仮校舎が完成し、全員揃って授業を行えるようになった。校舎といってもプレハブで作られており設備は十分ではない。専門の授業を行う教室はないため、ハウスの中で地べたに座り、ホワイトボードで授業を行う。もちろん、机、イスなどはない。こんな状況の中でも、大竹先生は「全員揃って授業ができるだけでも、ありがたいことです。現在の状況になるまで、県内の他の農業高校や多くの方にお世話になりました。本当に感謝しています。」と話してくれた。

今、私が勤務している福井農林高校に置き換えて考えると、とてもそんな言葉は出てこない。当たり前に授業ができる環境があり、様々な実習を体験できる場があり、毎日元気に登校する。そんな当たり前の今に感謝し、被災された方々のために少しでも力になれるよう行動していきたいと思う。

◇一〇月中旬 宮城県南三陸町ボランティア活動参加

島田 克久

被災地訪問日記
初日。瓦礫の山と吹き抜けになった倉庫が立ち並ぶ石巻港で、釣りを楽しむ家族を見かける。震災から半年。耐え忍ぶ日々を過ごしている人達ばかりでは無いことに、少し心が和む。と、気を緩めたところに飛び込んできた衝撃的な光景。電柱が三階の窓に突き刺さったマン

ション、無数の石が倒壊したままの墓地、廃墟化した小学校。校庭の一角には花束と人形が供えられ、夕暮れの景色が一層悲しみを募らせた。

二日目。ボランティアに参加するため南三陸町に向かう。リアス式海岸が生み出す豊かな自然の美しさを眺めながら、海岸線を走る。しかし、津波浸水想定区域の看板を過ぎた直後、風景は一変する。剥き出しのコンクリートと土の色しか目に入らない。映像でしか見たことのない戦地の惨状と重なる。思わず言葉を失い、重い気分のままボランティア活動に参加する。場所は、復興シンボル「ゆめ多幸鎮オクトパス君」の生産工房。元々は、地元名産である蛸と、置くとパス(通過合格)するに掛けた合格祈願の置物(文鎮)を生産していた。

震災により工場は流出したが、六月に東北復興の願いを込め生産が再開されている。放課後、手伝いに来ていた中学生の眼差しから、前向きに生きようとする強い姿勢を感じることができた。活動は夕方

終わり、学科展示に向けて町内を巡回撮影する。途中、プレハブで営業しているコンビニを発見。生活感を失った空間の中で、唯一、日常を感じさせる存在に思わず安堵した。

最終日。女川町へ向かう。無数の通行止めと迂回路にナビは迷走し、予想以上に時間を要する。ここは、建物が転倒し基礎杭が地上に剥き出しになっている。改めて津



津波によって破壊されたトラクター

波の威力を痛感した。

あれから二ヶ月近く経つが、複雑な思いは整理できていない。ただ「今を精一杯生きているか」と、自問自答を繰り返す日々である。

◆一〇月〜後期LH

後期LHでは防災について考える時間を各クラス一時間設定するにとした。その際、宮城県名取市にある宮城県農業高校の津波に襲われるDVDを視聴。この高校は閉上（ゆりあげ）浜から1km足らずの場所にあり校舎や農場などが使えなくなつた。三月一日校内に残つていた生徒と教員は二〇〇名ほど。屋上に避難し無事ではあつたが一晩明かすこととなつたそう。その際屋上から撮影した映像を、校長先生が借り受けてくださった。

《生徒のコメント》

二年 生物生産科 近藤 顕成

被災地のビデオを見て自然災害の恐ろしさを改めて思い知つた。人はただ見ていることしかできず、たくさんの方が死んでいき、大切なものが簡単に流されていく。自然の恐ろしさだけでなく人の無力さも感じられた。それよりも一番感じたのは、愚かにもあれが福井でなくて良かったということだ。自分も死ななかつたし、家も無くならなかつた。大切なものや人達も、今ここに存在している。そのことに感謝し安堵してしまう自分が愚かだとは思ふが、被災地でそういうことに苦しんでいる人達に一日も早い復興と幸福が訪れることを無力ながらも願うばかりである。こういうことを思い返せるように、こういう授業も大切だ。今までそういう思いが薄れかけていたが、いつ自分の身の回りに起きるか分からないし、自分から遠い地であっても常に忘

れてはいけないことだと再び思った。

三年 生産流通科 加藤 瑞穂

映像や写真から津波がどれだけ傷跡を残したかがよく分かつた。どれだけみても何回見ても、辛く何かしたいと思う。瓦礫の処分なども福井でもやってあげたい。亡くなられた人を十分に供養もできず、何もできない自分も辛い。見ることや聞くことはできるが、それ以外できない。悔しい自分がその被害に遭つていないことを幸せにも感じてしまう。もしあれが福井で起こっていたらと思うと、とても怖い。私自身立ち直る自信がない。その中で福島を始めとし被害に遭つてしまった人達は助けあい、復興にむかっていることを心からすごいと思う。こんな安心できる状況の中にいる私達がもつと復興のために頑張らないでどうする！

◆一月二日・三日 農文祭

今年のテーマは「最輝く日本再起のための祭祈」。自分たちが最も輝く農文祭を盛り上げることで、東北などの被災者を支援することができればという思いが込められている。例年赤い羽根募金に寄付してきた古本市、これまではアジア・アフリカ支援に貢献してきた生活科学科即売、さらに模擬店・お茶会等の売上げも、今年は東北支援に回すことにした。更に、全校生徒に呼びかけチャリティーバザーを行い、およそ三〇〇点もの品物を集めることができた。更に先生方手作りのペン立てや石けん、かご、三年生活科学科主体で作ったウガンダビーズネックレスも販売。更に、チャリティーストラップ・間伐材利用のストラップなども三年生活科学科と実行委員会で製作し販売した。

グッズ販売とバザーの収益一一万三、二六二円、それに模擬店や古

本市、生活科学科販売、クラス企画、PTA募金等の合計金額は二四万五、二七三円となった。全校生徒四〇〇人程度の学校としては大成功といえる。

二年生産流通科 佐竹 将幸

二〇一一年三月一日、一四時四六分。宮城県男鹿半島の東南海沖一三〇kmの海底を震源とした地震は日本における観測史上最大のマグニチュード九・〇を記録し、東北地方や関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。今回、農文祭で行うことになったチャリティーバザーは壊滅的な被害を受けた農業高校が少しでも早く復興するために、同じ農業を学ぶ生徒として何かできることはないかという思いで始まったものでした。

まず、全校生徒や先生方から家で眠っている品物を収集するためにチラシを配り持ってきてくれるよう呼びかけました。僕はこの時少しだけ不安でした。もしバザー用品が集まらなかったらどうしようと考えていました。しかしそんな考えはすぐに杞憂だと知りました。始めこそ集まりが悪かったものの農文祭が近づくにつれてバザー用品はどんどん集まり、結果多くの方が買いに来て下さり大成功で終わりました。バザーを通して繋がった東北を助けたいというバトンは、ほんの少しでも復興の役に立つたのではないのでしょうか。



二年 生産流通科 森 慶一

私は今年初めて農文祭の実行委員をやりました。しかもその中で今年初めて行くことになったチャリティー班になり当日はチャリティーバザーをしました。バザーはとても大変で、生徒や先生に呼びかけバザー品を集め、それに値段をつけ、きれいにラッピングをし、当日どのように売るかを決めるとても大変な作業の連続でした。

当日はこんなにたくさん品物が全部売れるのか心配だったけれど来て下さったお客さんが次々と買ってくださるのを見てとても嬉しかったです。

東北大震災によって行われた今回のチャリティーバザーは大成功に終わっただと思います。今回の震災で被災し亡くなられた方のご冥福を祈りバザーを開催しましたが、もう二度と起きて欲しくない大惨事です。けれど、もしも日本で大きな災害が起きたならば何度でも募金やチャリティーをやり支援していきたいです。今回協力して下さった皆さんにはとても感謝しています。



また、本校では生物生産科・環境工学科・生活科学科・生産流通科と四つの学科がありそれぞれ独自の専門教科を学んでおり、農文祭では校内の生徒のみならず地域の方々にも普段自分たちが学んでいることを理解していただくよう展示を行っている。今回、環境工学科の展示では一〇月時点の被災地の現状も踏まえ、今後の復興案をジオラマで展示。減災農地や海岸堤防・基幹路線の盛土などで津波の威力を

徐々に削ぎ、その奥に住宅地を設けるなどの提案がなされ、注目を浴びた。

環境工学科の学科展示を通して、改めて建設業の重要性について考えることができた。

三年環境工学科 高木 智章

東日本大震災では、強い地震と大きな津波により、東北地方沿岸部が壊滅的な被害を受けた。しかし、このような壊滅的被害を復旧させるのが建設業「土木」の力だ。

五二日間で仮締め切りを施工した。太平洋沿岸の大規模な浸水被害、浸水した場所では、津波にのみこまれた行方不明者の捜索活動が阻まれた。この工事の第一目的は、捜索のために水位を下げることであった。建設会社は、当初七二日間で工事完了を提示していた。しかし、作業員は悪天候や休工日を一切考慮せず五二日間で完了させると工程を立て直した。作業員たちは、潮位との兼ね合いを見ながら、朝六時頃から作業を開始し、不休で施工していたのだ。

自分を犠牲にしても人のために働く。卒業後、建設業に携わる私にとってのヒントになった。改めて土木のすばらしい力を感じ、やりがいを感じた。



◇一月五日郷土芸能チャリティーコンサート

春の募金の際にも力を発揮した郷土芸能部、半年以上たった今だからこそもう一度震災に向き合うきっかけを作りたいとのことで、O T A I K O 座明神さんと連携し、コンサートを開いた。

郷土芸能部部长 三年生物生産科 谷垣 拓実

三月一日、東日本大震災が起きました。そこで私たち郷土芸能部は東北の人々に何かできることはないかと思い、すぐに福井駅前街頭演奏を行い生徒会の募金活動を手伝いました。私たちにできることは演奏しかないのです。その後も太鼓演奏という活動を東北の復興に役立てたいと思いました。その結果師匠チームであるO T A I K O 座明神とその師弟チームが思いを同じくし、一月五日にチャリティーコンサートを開催することになりました。

当日は生憎の雨で空は曇っていましたが、会場内では出演者の気合に満ちた演奏が行われました。私達郷土芸能部も「悠久の大地」と「宜候」を演奏しました。「被災した東北の人達に少しでも元気になるって欲しい。」「学校が被害に遭い部活動ができない高校生がいる中、私達は当たり前のように太鼓を叩けることに感謝したい。」という気持ちで一人一人の思いが東北の人に届くと太鼓に乗せて演奏しました。チャリティーコンサートの最後に出演者とお客さん全員で「和響和心」という曲を歌いました。「♪生きていく喜びと生き抜く涙」深い感動で幕を下ろしました。コンサートは一、二〇〇人満員のお客様においていただくことができ、福井新聞社を通じて収益金が東北に贈られます。協力いただいた皆様ありがとうございました。



今回の農文祭を通じてあった収益二四万五、二七三円を、一学期二ヶ月間福井に避難し福井農林に通学していた鈴木さんの通っている相馬農業高校に送ることとした。相馬農業では震災以来サテライト方式で三つの学校に分かれて授業を行ってきたが、ようやく一月から元のように一斉に授業が行えるようになったらしい。全校生徒のうち七割ほどにまでは回復したらしいが、まだまだ。校舎などの

除染作業は済んでいるとのことだが、圃場などはまだで農業高校としては厳しい状況の中勉強に励んでいる。豊かな自然の中全身を使って学ぶ農業高校の日常を取り戻すためにぜひ有効に使って欲しい、そう考えて話を進めた。

そこで大変ご迷惑をかけることにはなったが、こちらにまだ滞在しているご家族に来校していただき、生徒会長から福島県立相馬農業高等学校生徒会宛に目録、チャリテーストラップ、生徒会宛の手紙などを、そして鈴木家宛に農林オリジナル「うらのドレッシング」やウガンダビーズネックレスを贈呈した。彼女が二ヶ月来たことで、本校の生徒もより震災を切実に感じるようになったのではないだろうか。

◆ベルマークで被災地を応援しようキャンペーン

農文祭が終わりチャリティー募金も大成功に終わったが、引き続き何かできないかと後期生徒会執行部で考えた。高校生である以上農文祭以上のお金を集めることはできないから、お金以外の活動を調べてみることにした。その結果、今回の活動は小学校の時に集めていたベ

ルマーク！被災地支援のために、生徒会・各クラス代表副代表が中心となり、収集することにした。目標は一万点。当該商品が載っているチラシを配ったり、生徒会掲示板に実物を貼ったりして各クラス毎に、また週毎に目標値を決め活動を行った。目標を達成した一月末、会長・副会長の二名でベルマーク財団のある朝日新聞福井支店に寄贈した。



◇一年生産流通科 花を送ろう運動

このような流れの中で各学科だけでなくクラス独自の取り組みを行うクラスもあった。

私たちにできること、自分たちで育てた鉢花を被災地に贈ろう！

一年生産流通科 担任 伊藤 貴子

震災から半年が過ぎようとしていた。募金、節電：自分の身の回りのできることをしてきたつもりだが、時間がたつにつれ、自分の中の現実でいっばいになっている。継続的な支援が叫ばれる中で、何かできることはないか。

クラスの、三六人の皆はどうだろう…。「自分だけ、トイレに誘ってもらえなかった。」作り笑いに疲れ、窮屈になっている生徒もいるように思われた。一人ひとり、かわいい三六人も、集えばいろいろな業や性（さが）が出てくる。ちよつとした行き違いも、この子たちには、何よりの出来事になってしまいい、とらわれ事だ。この子達なりの悩みや辛さは、この子達なりの真実だと分かっても、やはり歯がゆい思いがあった。

通える校舎があつて、仲間がいて、そのことが、どんなに有り難いとか、そのような幸せな状況にいたら、どう考え、行動することが、せめて、命をいただいているものとしての責任なのか、考えてほしかった。

「震災から半年…、みんなと一緒に何かできることをしたいんや。」という一言に「先生募金するんかあ？」「募金ならしたよ。」との声。「うん。募金は、皆の保護者の方のお金やしね、皆でできることがしたい。それで、皆で鉢花を贈りたいの。」生徒達は、専門科目として、「草花」について学習を始めている。その学習を生かしたかった。鉢には、一人ひとりメッセージを書くことにした。

「えー」という声が上がると不安だったが、皆、思った以上に真剣に聞いてくれた。やはり、皆は優しい心をもっている、「何かしたい」という気持ちを十分持っている、と感じることができた嬉しい瞬間だった。

文化祭では、鉢花の送料を捻出するため、「スマートボール」わたがし「ボール当て」を行った。特に、スマートボールは、男子達が、木の板をのこぎりで切り、釘を打って手作りしたもので、最初は完成するか不安だったが見事三台を完成させ、皆に楽しんでもらうことができた。物作りに疎い私は、生徒達のパワーとスピードに脱帽であった。来客者の方には、被災地に送る鉢にもメッセージ書きをしてもらい、先生方や、小さな子たちが協力してくれた。種植えから行ったプリムラは、今、背丈一〇センチにまで育っている。三月に同じ農業高校である宮城県農業高校に贈る。宮城県農業高校の皆さんの笑顔につながるこ



とはもちろん、色とりどりに花を付けるプリムラのように、この活動が三六人の笑顔と成長につながることを心から願っている。この活動は三年間続けたい。

なお、この鉢植えは伊藤教諭と生産流通科の渡邊教諭の二人が、春休みに宮城県農業高校に持っていった。大きな不安を抱えて入ってくるだろうこの高校の新生に少しでも明るい気持ちになってほしいと考えたからだ。その後七が浜で溝掃除などのボランティア活動にも従事し帰福した。

◆三月 震災集会

期末考査後の特別時間割を利用し、震災集会を持った。相馬農業高校が義援金の御礼に、これまでの学校生活の様子を編集したDVDと手紙を送ってくれたからだ。一〇分余りのDVDであったが、被災の様子や体育館を間借りしての授業風景、仮設校舎での実習など苦労の一端が窺え、胸に迫るものがあった。生徒達も神妙な面持ちで見入っていた。一年経ってもまだまだな復興の状況の中、更に次の一年でできることをしようと確認した集会であった。

以上のように、震災発生以来本校では継続的に何らかの形で支援に関わってきた。五名の教員が現地ボランティアに行ったが、その都度壁新聞や展示などの形で生徒にも現状を発信してきた。時間が経つにつれて、福井ではともすれば震災のことも薄れがちだが、年間を通して機会を設けることで生徒は真摯に取り組んでいたようである。今後ともできる範囲で、東北を、そして東北の農業高校を支える活動を考えたい。